

裕イサオブログ
「ピアノは私だ2」



パリで蠢くフリージャズ
ピアニストの
フリーブログ完結編

プロローグ

二年強に渡り続いた私のブログ、本書にて、一旦、完結致します。
長期間、私の愚脳にお付き合い頂いた方々、厚く熱く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

表紙写真by Yoshiyuki TAKACHI

左から、裕イサオ、ヨラム・ロシリオ、佐藤真です。
仲間たちへも、改めて御礼申し上げます。メルシっ！チャオっ！

2014年11月5日 裕イサオ

フランスにアリエル・ドンバルという女優、歌手がいる。年齢は非公開なんだそうだけれど、六十半ばのはず。かつて、世界一の美女とフランスでいわれていた。で、現在も、宇宙人なの？ というぐらいの美女である。二、三年前にクレージーホースでヌードダンスまで披露しているから、とても、地球の人とは思えない。まあ、うちのカミサンにいわせると、美容整形、整形美容、四十六時間ポディービル・・・でしょ、だって。整形しているのかは知らない。していたとしても、元もとの土台が相当いいはずである。で、整形って、日本の芸能人は公開しながらないらしいのだけれど、別に本人の顔、体を本人の意思でいじくってんだから、とりたてて隠すこともない。顔をいじって、心まで美男美女なら、いいんじゃないのおー。と思うのである。

アリエルの先輩に当たるのが、カトリーヌ・ドゥヌーブ。ドゥゴール空港で、そうとは知らずに、スーツケースをカウンターまで運んだことは、随分前に書いた。やはり、宇宙人的美女であった。けれど、最近の映画、しがないおばちゃん役に、彼女は挑戦している。新境地というやつで、絶世の美女系は役柄に限界がある。カトリーヌ、見てくれのせいとか、とつき難い、けれど、テレビのインタビューを見ると、愛煙家の酒飲みの気さくなおばちゃんであろうと推定できる。そのおばちゃんの外見が絶世の美女、だから、逆に本人が大変なような気がする。

シモオーニュ・シニョレ。イブ・モンタンのカミサン。デビュー当時は美女で売っていた。晩年、酒煙草でぼろぼろのしわしわ。でも、なんだか、泣かせる女優さんだった。しわしわぼろぼろ。これは自然の経緯であって、女優だからこそ、私は、そのままでいいのだと思っている。そういう職業なのだ。俳優とは。柄本明さん、なんともいかしている。俺？ ジャズ屋が整形？ 土台がいいから土台無理だぜってよ！ 渋みがでないのって、お金ないから・・・。
はははっ・・・・・・・・・・はあーーー？

2014.05.02 Fri

はい、今晚は。今、こちらは午後の九時半。本来的には、ぼちぼち、志村けんの動画でも・・・という時間でありますが、昨日「も」コンサート。ちょっと、立て込んでいて、脳がへめらも。そんなに、毎晩、ジャズ神様に取り付かれての名演奏とは、普通はいかないけれど、私は、また、私の共演者、皆、真面目人間だから、そうは蒲団やさんが卸さない。で、やっぱ、皆、へめらもになってくるけれど、皆、真面目だから、毎晩、ジャズ神様に取り付かれる。そう、毎日、ベスト演奏をやっているわけで、日常脳がへめらも。うで、昨日のコンサートの動画編集、つまり、レジスター中で、パソコンの移動がでけんから、うな、ブログ記事書えちゃえとなった。うで、ピアノの前に座っている時だけ、しゃきっ——。離れると禁治産者の好々爺。でれえ——ん、ピアノ、しゃきい——、好々爺、ピアノ・・・。仕方がないので、庭の「草むしり」じゃなくてね、「タンポポむしり」をした。うちの庭、芝君より、苔君、蒲公英軍団に侵食されていて、芝生なのか苔生なのか、蒲公英のあのぎざぎざ葉っぱの邪悪な敷物なのか、判別が付かない。

おお——、邪頭と蒲公英は似ている。

解説 はい、裕センセはですね。タンポポの可憐な黄色いお花の下の、ぎざぎざで厚ぼったい宇宙服みたいな葉っぱと、地中深く侵食している根っこ綿帽子がですねえ——、ジャズ菌に似ているとのたもうておられるのである。あっ、昨晚、サンラザール駅終電の窓越しに、Xマンの広告が、上下に移動しているのを、ぼお——と、裕センセは見ておられた。脳内は、空、であった。

2014.05.03 Sat

インスピレーション

やはり、ユーチューブの再生リスト=カテゴリー整理をして良かった。再生リストごとに、一枚のCDのように聴ける。シンセサイザーソロをまとめたリストは、もろ、BGMとして聴けるし、ピアノソロ集は、自分で聴いてみても、下手なりの味わいはある。プロにも、やはり、一流二流三流とあるわけで、私は、2.7流ぐらいの感じ。まあ、それはそれで悪くはない。フリージャズ、即興系は、ちょっとマニアックなファンじゃないとしんどいと思うけれど、そっち系の方が聴くと、もしかすると、1.7流ぐらいに聴こえるかも知れない。元々、ピアニスト裕イサオの持ち味は、「暴力的エモーショナル超絶スピード」とこんな感じが売りだったから、シンセとかピアノソロを元々のファンの方が聴かれると、「おりゃ?」「上手くなり過ぎ」「丸くなり過ぎ」「商業主義」「墮落退廃」等々のシビアなご批判を受けちゃったりもするのである。しかし、「寄る年波」はジャズ屋にもくるから、ごめんちゃい。自然には逆らえないのだ。

しかし、まったく、インスピレーションなしでピアノを人前で弾けるのか？ 弾けなくはないけれど、私の音楽の性格上、それをすると非常にいかさない演奏になる。つまり、「芋」と呼ばれてしまう。これは、やっぱ、致命的だから、インスピレーションを搾り出す。本当に、コンサートが立て込んでくると、雑巾を絞っている感じになってくる。「あぁ——、庭の草むしりをしたい。ジャズ屋なんかになるんじゃないなかった」などと、好々爺ベクトルの方に行こうとする気持ちをひっ捕まえて、「おいっ——、待てえ——、演奏演奏お——」とセルフ鼓舞。そして、ぎゅっと絞る。コンサート終了後、もぬけの殻状態と化す。しかし、フリージャズ界の花形満。「うお——」と中一で立ち上がる。昨日は、流石にピアノを弾く気になれず、庭仕事に精を出した私。

フリージャズなんちゅう不定型の音楽をやるから、こういうことになっちゃうわけね。でも、定型という鑄型に嵌められちゃいたいなどと言いながら、絶対にそうはならん人種もいるのである。げっ。

2014.05.04 Sun

さっき、ユーチューブの動画の管理画面を見ていたら、「動画のプレを直しますか？」の表示。「はい」をクリックしたら、オリジナルと変更後のプレビュー画面が出てきた。「あれれれれえー？」、コンサート前の雑談風景。「わっちゃー、やっ、やばあー」、オリジナルビデオ自体をアップしてしまっていた。ミュージシャンの名前も、なあんもなく、いきなり、コンサート前の雑談、セッティング風景。まあ、別に、映っていても差し障りはないけれど、やっぱ、背広姿なのに、ズボン穿くの忘れちゃったあー、僕、という間抜け感は拭えない。良かった、ベースのヨラムが見ただけだったから、直ぐに、編集後のやつと差し替え中。

私は、あんまり、そういうちょんぼをしない方ではあるけれど、たまには、やはり、ある。よねって。

と、読み返したら、なあーんか、本当に、どうでもいい記事である。雉は食べられるけれどねえ。で、その差し替えたやつを聴きながら、これ、つまり、追記している。やっぱ、格好いい。そりゃそうだって、ジャズジャイアントとその卵みたいな三人に囲まれて弾いている。格好良くねえーと、俺が、やばいって！

ここに、ジャズの名句を刻ませて頂きたいと思う。

芋 一人

おっわあー、字足らずだけれど、芋=いかさない最低ジャズ屋。これになると、やばいのだっ！大丈夫、クリアーしてる、俺。この下の動画は、ジャズ狂でなくても、いける感じ。ちょっと、覗いて頂戴っ！

2014.05.05 Mon

今日は、5月5日2014年であるのであるけれど、下書きが後二編あるから、予約投稿をしようかしら、と、一瞬、思いつつ……。まず、天気が最高に良い。夕方なのに、外気温22度。人間という動物の理想的な気温なのである。脳には、どうかしらねえー。南国の人にぶっとばされそうだけれど、重い重い重い物書きは、寒い国方面に多い、という印象。じゃ、ボルヘス、ガルシア・マルケスは？ と聞かれると、やはり、ごめんなさい。おおー、フェルナンド・ペソアもいる。すいません、撤回致します。お辞儀。と、つまり、関係ないみたいねえー、外気温は……。そうかあー、私が、東北生まれの東北育ちだから、思い入れちゅー、やつだね。

はい、それでね、500を超えたブログ記事をどうしようか？ またまた、考え始めた。「未分類」だけでも、320もある。読み返す気力と、そもそもの意味があるのか分からない。どうすっぺかなあー。でも、書き流しも、やはり、？ なのだ。

先日、ユーチューブの動画の整理をした。またまた、シンセソコを聴きながら、これを書いている。これは、まず、作者の私自身が便利である。書きながら、音分析をしたりしているのである。脳の隅の方でね。で、ついでに、使いこなせなかったのか、私の安物パソコンのせいなのか、きちんと機能しないまま放置していた「ピナクル」という映画ソフトを、再インストール。再トライだね。

だから、このブログ記事の整理、どうすっぺえ。カテゴリーごとに、電子書籍、無料のやつにすっぺえかな、とか、考えてんだけど……。そして、結局、最初の問いに戻る。私はミュージシャンだから、本来的なブログは、その宣伝、でしょ？ なのに、私のブログは、なんなのってのっ！ うん、おっ、ブンガクかよおーって！ マジすかあー、となる。この記事のタイトル自体、なんなのっての！

2014.05.06 Tue

今日は日曜日。といっても、相変わらず予約投稿野郎と化しているので、日付は書かない。5月初め、ね。コンサートも一息だから、カミサンとセーヌ河畔をお散歩してきた。っても、パリじゃねーよ、田舎の方のセーヌ川。お天気いいし、セーター姿で、ちんたらちんたら。私の家から、30キロぐらいのところだけけど、地図をみたら行ったことない所があった。ビューポイントマーク、しかも、セーヌ川つき。絶対に、外れないことは知っているから、昼食後行ってみたわけです。「おおーい、写真写真写真入れて頂戴っ、愚文はいいからあーい」という読者様のお声が聞こえてくるけれど、写真駄目人間なのです、ごめんちゃい。華麗なる文章でカバーしちゃうから、ゆるちてね。あっ、だれかの文体だっ。

では、本日は、華麗なる随筆と致そう。

わしは、家内のちよとセーヌ河畔を着流しで歩いてきた。ほんの少しのところに、中洲が見えた。中洲にむかって太鼓橋が架かっていた。ちよとわしは、その太鼓橋を渡った。フランス語で「ポピエテプリベ」と書かれていた。豪邸らしきものが、芽吹いた若葉の狭間から垣間見える。

「あら、ポピエテプリベ？ 徒歩ならいいのでは？」

「ちよ、この嚴重な警備をみなさい。ここから先は、お金持ちの方々の土地なんじゃろ。警備員が、あっちこっちにおるのじゃろおーて」

わしは、ちよとふたりに引き返す。ふと、対岸から覗いてみようという助平心が、わしの中に芽生えた。

対岸のベンチに座り、その中洲をちらちらと覗いてみた。一軒ではなく、複数の家があることが分かった。庭で談笑する人々。川岸に向かう階段の横のボウト、バアーベエキューの臭い。

「ほほおーい、金持ちは、どこにでもおるのじゃのおー」

裕先生、すいません、オチ早くしてもらえませかあーい、忙しいんだからっ！

「あっ、ごめんごめん、今日、いんげんの芽が出たわけ。4月18日に蒔いたのだけれど、いきなり、寒くなって雨雨でねえー、心配してたの。よかったあーい」

本文の意味って、なんか、あったんすかあーい？

「あっ、ごめんごめん、豪邸って、掃除大変だろうねえーって、カミサンと話したわけ」
その、豪邸にお住まいの方は、自分では、なさらないのでは？ 「えっ、そういうことなの？」

2014.05.07 Wed

来賓祝辞

えー、本日も、ご来店、誠に誠に、ありがとうございます。えー、裕イサオ君の愚ブログ記事も、鬱陶しいことに500記事を突破致しました。この鬱陶しい切磋琢磨にご来賓の方々より、お祝いのお言葉を頂戴致したく……。では、裕君の小学校時代の校長先生、二ノ宮先生より、お願い申し上げます。

「えー、裕君は、小学校時代より、学業スポーツ人格と、なにをとっても金太郎飴のごとく、一番でありました(半分本当の話)。しかも、それを一切鼻に掛けず(しっかり、書いているのに?)、低姿勢謙虚なお人柄(単にお金がないから、そうなる)は、このブログにも、むんむんと出ているのではないかと……(むーんむんむーんむん、イサオちゃあーんだよおー)。わたくし、当時の校長と致しましても、この子は日本国の未来を変えるのではないか、偉大なる人物に間違いなくなる子だと、確信して居りました(大袈裟ねえー)。ないしは、その美貌(わっははは、自分で書いているから、いいのだ)をいかし、映画界に旋風を巻き起こすのでは……。などど、一人むひひひひとほくそ笑んで居りました。しかし、あらまっちゃん、しがないピアノ弾きとなられ、失望の念を、わたくしは禁じえないのでございます(ここまで大袈裟ではないにしても、そういう風なご意見は多々あると推測している。げっ!)」

「はい、ありがとうございました。それでは、元虚人軍監督横島重雄様より、お言葉を」

「あーー、裕君は、そうね、野球部時代の、そのなに、統率力っての？ スンバラしかったねえー。その運動能力および閃きプレーは、まっ、イチロー君が出る前だったけれど、それを彷彿とさせるものがあったのにねえー、しがないピアニスト？ わけわかりませえーーんねえーー」

「それでは、お茶山賞作家、三島由紀子さんより、お言葉を」

「はい、裕さんは、そのおーー、初期の頃の著作を読ませて頂くと、日本文学の地平を変えるのでは、という、かすかな予感に、わたくし、打ち震えて居りましたが、三十代半ばに、ジャズピアノを始められてから、お笑いおちゃらけ文へと移行なされましてえー、それ以降の……。ちょっと、わたくしには……」

「はい、ありがとうございました。それでは、ジャズ評論家の内股先生より一言」

「えー、イサオちゃんのミュージックは、ヘタウマ」

「はい、ありがとうございましたあー。それでは、共演者代表として、ジャズドラマーはまへりさんより、一言」

「イサオちゃんのヤノピ、最高よっ！ ふんっ！」

異常を餅まして、宴会も竹縄、実況中継をこの辺で……。この放送は、豊かなシニアライフ・スピーダマン・レコードおよび弛んだお肌に優しい健忘、元気澆刺ナナミン製薬の提供にてお送り致しましたあーー。

2014.05.08 Thu

あー、びっくり

先ほど、調べ物があり「裕イサオ」をグーグル検索していたら、あれっ、ある方のブログが出てきた。その方の記事の中に、私の名前が出てきているので、グーグル検索エンジンにヒットしたわけである。当然にして、「あー、私の愚ブログへのご不満か、またまた、賛辞か・・・」と思い開いて見た。あらまっちゃん、私の某記事が、全文出てきた。こういうことがあることは、他のブロガーさんの記事にも出てくるので、「あらあー」と。

私の率直な感想は、「なんでまた、私の愚記事を・・・」。なんとなく、その全文掲載してしまいたい誘惑に駆られたということなのだから、なんとなくこそばゆいし、嬉しい気もしなくもない。でも、ちょっと、理解に苦しむのは、私の記事の中に、「わたくし裕イサオは・・・」という件があるから、この部分をそのままにしていると、「裕イサオ」の検索エンジンに引っ掛かるわけだ。

そのブログは、ランキングサイト等へ参加しているものではなかったし、地方都市のコミュニティーブログで、私の名前さえなければ、私の目には留まらなかった。

まあ、大した記事でもないし、抜粋、引用、全文掲載、私自身は、それほど目くじらを立てるほどのことだとは・・・とも内心思いはしたけれど、「しかし」と思い返した。私だって一端のブロガーだと思えば、やはり、「いいんじゃない」という反応は無責任過ぎる。全ブロガーさんのスタンスにも、微小ながら波及すると急に、昔の中間管理職の感触が戻ってしまった。

そして、さきほど、お願いコメントを、そのブロガーさんへ送ったのである。

「私の記事の抜粋、引用、全文掲載は構いませんが、出典は、明記願います」と、要点はそれだけであるけれど、そのブロガーさん自体のブログの継続に支障をきたすことがないように祈るばかりである。

2014.05.09 Fri

老化とピアノ

「裕君、また、馬鹿な記事書いてえー、老化に立ってなさいっ！」

「はい、先生。っても、もう、ずっと前から立ってるけど・・・」

「う？」

この記事のタイトルの、真ん中の「と」を取ると、一体なんなの？ となるので、一応、「と」を付けた。

なあーんていうのは、本意ではない。私は老化しているがピアノ「だけ」は進化しているのである。正確には、私の、つまり、裕イサオ君のピアノ演奏は、確実に進化している。

でね、小山ながら、ピアニスト人生の、その最盛期ってのが、やっぱ、ある。第一期は、三十代後半。二期は四十代半ば、うで、はっははははあー、今だっ！ で、私自身は確実に老化現象。でも、こちらだけ、高度経済成長。やはり、高齢化社会に裕センセは、絶対に必要と分析しておるのであるのである。「明るい初老のプロトタイプ」、どうだねって！

小山君1 三十代後半

なんだか、ぎんぎらぎん。人前で弾くのが楽しくてショウガナイ。もてもて(だったような気がしている)。自己顕示とナルシスの藤原の塊。じえんじえん、ジャズ理論など知らずに、「俺は世界一だっ」と、本当に、半分(以上)ぐらいは思っておった。飛び入り出演とかも、やたら、やった。この頃の演奏は、カセット、少ししてミニディスクとして結構残っている。たまあーに、聴いてみる。下手といえはそうだけれど、なんか、その熱い思いがそれをカバーしていて、それなりには聴けるのである。当時から、指だけは、やはり、速かった。

小山君2 四十代半ばだったと思う

やっぱ、行き詰る。出鱈目の限界がくる。元々理科系だから、ちと、ジャズ理論を覚えよう。いつものパターンでね、以前書いたけれど、たとえば、フランス語、結構、へらららべららら状態になってから文法書を読み、「なあーる、ほどもー」と「後で理解する」という裕センセの突撃学習。うで、ついでに、老いの繰言、以前書いた、これも、あんたは、なぜにフランス語を習得したいのじゃ？ はい、ナオン(女)を口説くためであるという数式が成立するのだけれど、答えが出る前に、もう、口説いている。というわけ。ジャズの理論書を買って、読み捲り分析した。「おっ！」。私の座頭市ピアノは、なっ、なんと、ジャズ理論上、出鱈目ではないことが判明したのである。これには、自分でも驚いた。音感と手探りだけで、モード奏法をしておったのである。天才っ！ といいたいけれど、そうではなくて、ず

っと聴いていたジャズ音を指さんたちが、ピアノ鍵盤上で探っていたわけである。十四歳の時から聴いていたから、脳と指さんが、なんらかの音を蓄積しておった模様。で、理論を習得し始めたら、演奏がぎこちなくなった。おもしろいのだ、この現象。

小山君3

おっとお——、「今」、なのだよ。自己顕示欲、ふむ、あんま、ない。これは、あまり良いとはいえない。職業柄、「俺が一番」とか「俺の音楽を聴けっ！」とか、こういう鬱陶しい心のベクトルは必要である。けれど、実際、あんま、ない。人様に是非是非、お聞かせ、全然ない。これも、あまり良くない。コンサートの予定表を見ても熱くならない。立て込んでくると、「げっ」などと内心思ったりしている。なのに、弾いちょる。ふむ、ほとんど、「自分のために弾いている感」が、やっぱ、強い。これを、やっぱ、「孤高」っていうのでねえーべかって！

と、1から3の心の位置、じえんじえん違う。やっぱ、心の老化なの？ まあ、そうなのかも知れんが、ピアノを弾くこと、コンサート、絶対に止めることはない。ピアノの技術の進化、もう、これ自体が、私の人生っていうことなんだからねえー。ブログは書いても書いても進化しない。どきっ！ ああ——あ。

2014.05.10 Sat

と、いう訳ではないけれど、「ブログを書く」、ちょっと、飽きてしまっている。今見たら、この記事の番号が519(記事在庫ゼロ)。その内、カテゴリー分けされていないBlogger時代の記事が320。私は、整理整頓系、同じことだけれど几帳面系だから、「この未整理」というのが気になる。ユーチューブの動画はカテゴリー分けをし、カテゴリーごとに再生リストを作成したから、今度はブログ記事が気になりだした。それと、原稿用紙三十枚でストップしている「小説 シニアマン」、こっちも気になりだした。やはり、記事ではなく「作品」、出来が悪いにしても晴れ姿の作品であるから、執筆推敲の集中力はまったく違ってくる。

書くこと自体は楽しいのだけれど、別にブログである必要は、やっぱ、どう、分析してもない。じゃ、詩を書こうっても思わない。それぞれの中にそれがあればいいし、ない方は、別になくても日常生活が円滑であれば、ノープロブレム。

おっ、考えてみるにピアノを弾けない弾かない方々の人口の方が多いであろう。ブログ、小説、詩と、これも一緒であろう。要は、なくたってなんの支障もないもの。少なくとも白物家電の方が、ずっと、必要度便利度は高いのだ。「ちょっと、はっつあん、なに、三キロ先のセセラギ川までよ、冷やしビール取りにいー、いっちくれんか?」、やはり、不便だ。

と、私の心は秋の空ってな訳で、またまた、ちょっと、過去記事整理方面へ……。たまに、新記事? などと、揺れ動きつつ、

やはり、ここにブログの名句を刻みたいと思う。

更新を 育てる

よおーっ！ 自分で拍手っ！

2014.05.11 Sun

ピアノ狂との再開

羽毛っ！ ブログは、昨日の記事で、ひっそりこっそりと、週二回更新などと、思って居たら、私の記事の完コピが目に残ってしまったり(全然、そのブロガーさんに他意はありません。ブログ、続けて下さいね、出展明記してもらって、ばんばん、行って頂戴、私の愚記事に関しては・・・)、励ましのコメント、ちょっと、字が違うけれど、頂いたり(うんうん、ブログはいいよおー、うんうん、イイヨナオジサンで返礼)、それから、ぐっぐっていたら、一年半前にコメントしたブロガーさんから、知らぬ間にご返信、しかも、リンク付き。こちらは、ご無沙汰モードになっていたのである。すかさず、りんくるくるしてしまった。

私は、もちろん、ブロガーさんたちでも、その、わたくしの更新力の原動力になって下さっているブロガーさんは、愛おしい。うんうん。それから、この楽器奮闘記、とりわけ、ピアノは私の問題でもあるから、これについて書かれているものは、愛おしい。むしゃむしゃと読んでしまう。

で、そのブロガーさんの性別も年齢も、じえんじえん分からないのだけれど、書かれている内容は、ピアノ弾きだから、よおー、分かる。そして、裕センセのちゃらちゃらブログを読むと、「ピアニストであることの大変さ=楽器の習得が、いかに大変か=日々の努力および理論の把握、その理論を体に覚えさせる=切磋琢磨=人には言わない努力の結晶=涙ぐましい日常=巨人の星的バックグラウンド、つまり、尊敬に値する、その人格」は、まったくもって、またたくまに、木村拓哉であるから、その真意は暗喩と隠喩と隠微の彼方・・・。この方のブログを読ませて頂くと、私自身が、おおー、そうだそうだと「再」理解をする。先ほど、全記事、拝読致しましたあー。はい、本文、右下、23.221cmの辺りです。

2014.05.12 Mon

宇宙戦艦トトマ

「今オキタ艦長、準備が整いました」

「ふむ、主役の木村君とメイサちゃんも、ちゃんと、乗ったってことね？」

「はい、しかし・・・」

「なんだ、下田」

「警備室の話だと、木村君とメイサさんが、二度、乗船している・・・」

「勘違いじゃろって」

「いや、そのですね、二回目の木村君はすげえー老けていて、メイサさんは、ぎよわあー、しっ、失礼を致しました。親馬鹿の背中にいー、小馬鹿を乗せてえー、はい、艦長っ、二回目の方が、もっと、さらに、綺麗だったっ！」

「はあー？」

その頃、木村拓哉になりすました裕イサオは、宇宙戦艦トトマのプログラミングの再編成をしておったのじゃ！ その時の、映像じゃ！ 裕イサオ、英国重宝部員007、コードネーム、zzja。

2014.05.13 Tue

当初は、ブログ記事として書いた、訳の分からないSFもどきの記事を、推敲して原稿用紙五十枚ぐらいの読物にしようと思っていた。でも、そのコンセプトを吟味した。スーパーマンになってしまったオジサンの愛と笑いとペーソスの物語という形に纏めようとして、ブログ記事を下敷き書き始めた。文体は、少しだけ、ブログ記事より重め。

原稿用紙三十枚ぐらいまで書いたら、行き詰る。ブログ記事のアホパワーも捨てがたい。逆に、当初の記事より辛気臭い。

ここで、方向性が二分する。アホパワーに徹するのか、その笑いとペーソス系にするのか、となる。まあ、こういうところはピアノに良く似ている。しんみり系なのか、ぎんぎら系なのか、どこに音のポイントを置くのか、とか。

途中まで書いて、続かないものは、私は勤勉人間だから、元々のコンセプトに「無理がある」という結論となる。

さっき、じいーと、考えて、もし、笑いとペーソスのオジサン物語にするのであれば、「シニアマン化する、その前の部分」、つまり、五十五歳のおっさんの物語から始めないと、スーパーマン化した、その後のお笑いが導き出せない。ある意味、導き出す必要もない。突然、スーパーマンに「なるまでのお話」。カフカの「変身」の逆パターンでもある。

うーーん、難しいけれど、こういうこと考え出すと、止まらんのである。美術作品「復活(仮題)」、これも、もよもよと脳内で蠢いていて、うーーん、楽しいね。芸術芸能系人間、つまり、余生系だね。よせい、やいて！

2014.05.14 Wed

フランス語は難しい

先日、いつものショッピングセンター内のタバコ屋へ。いつものオバさん(つても私より年下だろう)に、いつも通り「ベンソンアメリカン三箱」。オバさん「あら、ごめんなさい、切らしている(わ) 作者解説、この「わ」っているのかしらねえー、男の女言葉じゃんって思うのですけれど・・・」。私、スペインの煙草フォーチュナにしようかと一瞬考えたけれど、ちょっと、別のにと思い「ラッキーストライク」と言ったら、オバさん「パードン」、もう一度言ってみたら、オバさん「ごめんなさい、どれ?」。結局、指差しでゲット。「オバさん、これさあー、フランス語で、みんな、なんて言ってるの?」「あっ、それね、ルッキーね」「おりゃ?」と、二十五年振りぐらいに通じないという事態。おおー、懐かしい。

私がフランスに上陸したのは、1983年。ロンドンからやってきた。その時、知っていたフランス語はふたつだけ。「トレビアン」と「コンビアン」、以上。タバコ屋へ行く。「ピーターステュイベサント」と言っても、売り子、眉間に皺、通じない。結局、指差しゲット。しかし、単語ふたつだけで上陸したんだから、まあ、無謀と言えはいえる。

で、きちんと勉強を始めたのか? これが、まったくのまったくで、耳学問「だけ」でなんとかしようとしたのだから、無謀である。でも、やはり、当時、ピアノを再開してはいなかったけれど、元々のミュージシャン体質。なんとなく、一年ぐらいで、日常生活はできるようになった。と言っても、面白いのは、「初対面のフランス人には通じない」という現象が起きた。満遍なく通じるようになったのが三年後ぐらいで、ジョークを言えるようになったのが五年後ぐらい。たぶん、その頃に文法書を読んだはずである。順序が逆である。先日も書いたけれども、ピアノの習得も、まったく同じで、人前で弾き捲くりお金まで頂くようになってから、ジャズの理論書を読んだ。脳機能が逆さなのである。

上陸して三十年が経過した現在の私のフランス語。お恥ずかしいレベル。読みはまあまあ。書きは全然駄目。最低である。今以て、日本語訛り剥き出しで、Rが言えない。デリシュー(超美味)、これも、ちゃんと言えない。でも、不思議と通じている。どうしてか? 私の周りのフランス人の分析では、「エスプリがフランス人しているので、お前のフランス語は良く分かる」だって。それと、下ネタ方面、ジョーク、ミュージシャンのスラングと、教科書に書いてない方面ばかりを習得してしまっただけで、良く言えば「自然なフランス語」なんだって。まあ、耳学問の成果かしらねえー。でも、三十年も住んでいるのに、なんだ、ちみのフランス語はっ! と言われると、お辞儀するしかないのである。作者解説 なんとなく読み返すと「自慢話」にも読めるけれど、そのまま読んで頂戴。うな、自慢するほど、フランス語、上手くはないのである。率直に、ね。

2014.05.15 Thu

書き散らす

今日は、5月12日なのですが、記事を書き散らし、16日まで、予約投稿のセットをしてしまった。ブログは、「夏休みの宿題」なのか？ という、素朴な疑問さえ浮かんでくる更新狂である。

なんども書いたけれど、更新「だけ」すればいいのか？ もちろん、そんなこたあーないのであるが、でもでも、それは大事なことでもある。心のリズムみたいな感じだから、更新力は生き力(いきぢから)かも知れない。とはいえ、もう少し、マシな記事は書けんのか、あんたはっ！という自問自答もしている。

突然の文体チェンジ・・・。

先ほど、わしは、ピアノの和音分析を終え、買物センターへと赴いた。脳が破裂寸前である。センター内を行き来する人々が水族館の魚のように見えた。わしも、この一員なのかと、急に、喜びのようなものが込み上げて来たのである。わしは、世間という概念は嫌いじゃが、人間は、それほど嫌いではないことが分かった。

多少マシかしら？

ところで、なんか、雨晴れ曇りと一日の中で天候が甚だしく変化する毎日が、三週間ぐらい続いているせいなのか、軽い鬱状態である。やや目が虚ろ。なんの悩みもストレスもないし、ピアノはここ近々、ぐおっとレベルアップしているしと、その理由がどこにも見当たらない。こういうノー天気なおっさんが鬱では、鬱病に申し訳ないのである。人間心理はなかなか厄介で、カンカン照りの真夏日に、突然、「百年の孤独」的、妙な感慨が込み上げてきて鬱のベールに覆われてしまったりすることもあるのだ。まあ、この不安定な天候と、ひとつにはピアノの技量が小山ながら、自分なりの満足地点に到達しているという軽い虚脱感、つまり、私の命名であるけれど「宴の後症候群」と自己分析している。

2014.05.16 Fri

更新を育てる

4日分の予約投稿、完了。ラジャーっ！ 「ブロぐる文学振興会」の、そもそもの基本は、「一に更新、二に更新」と、久保(はつじ)会長が書かれて居った。兄貴っ、早く、復帰して頂戴っ！

振り絞り 振り絞り ああー更新狂

ブロぐる心 見たことないけど 最上川

古頭 ブログ飛び込む ネタの音

ブログ書いても ひとり

更新狂 しめそかな？ 四面楚歌なり

適当に 振り絞ったら 一記事できた やったぜ 字余り

我 泣き濡れて 愚脳と戯る

「裕センセ、くだらん、俳句のような短歌のような和歌のようなものは結構ですっ！」

「井上和香、知ってる？」

「なんの関係もないっ！」

2014.05.17 Sat

フランス人男性が送りそうな週末の一日

朝、起きる。コーヒーをたてながら、夕飯の冷凍お魚コロッケといんげんを冷蔵庫から出す。お昼は、昨晚残ったフランスパンで、ホットドックにしようと、二秒ぐらい考える。コーヒー、煙草、顔を洗う。トイレに入る。すっきりする。二杯目のコーヒーと二本目の煙草。一杯目のコーヒーはカフェオレで、二杯目はブラックである。メールをチェックし、返信する。お気に入りブログ

ガーさんたちの記事を読む。次のコンサートのポスター、フライヤーを作成する。メール送信する。娘のスズキスイフトのアンテナが盗まれてしまった。といっても、棒の端切れみたいなものである。その辺で、代替品は見付かると踏む。それから、前々から気になっている左側のフロントガラスウォッシャー液が出なくなっている。ススギに電話する。ギャランティー内なのか？、ギャランティー内ではないとの返事。「自然的老化であり、メーカー責任ではない」という見解。庭の芝はぼうぼうである。と、芝刈りと車の修理を「自分でしないとイケない」という結論になる。グーグルするも、スイフト2の記事しか出てこない。検索の仕方を変える。出てこない。イメージが湧いてこない。変な風な修理は、壊すことであるから、いろいろと検索。それはいいのであるが、スイフト3のウォッシャーノズルは、フロントガラスの下部のプラスチック部分に内臓されている、この部分の名称が、まず、分からない。解体するといっても・・・。

フロントデッキパネル

ウインドシールアンダーフィラー

フロントカウルトップガーニッシュ

解体の手順が、どこにも出てこない。唯一、上記の部分に消音材を入れた方のブログが出てきた。それを参考に、やってみた。上手くいったのである。アンテナはスーパーで買ったアルミアンテナ五百円が代替できることが分かった。その後、汗だくで芝を刈り、石壁の縁の部分の剪定用の巨大鋏で切る。冷水で顔を洗い、ピアノを弾き捲くった。

2014.05.18 Sun

楽器

まだ、推敲していない記事が、またまた、溜まり始めている。先日、記事の在庫整理をしたばかりなのに……。では、そちらを整理してから、新しい記事を書けばよろしいのであるが、なんとなく、アイスコーヒー、煙草、青空とこの流れの中で、おっ、たまに楽器について書いてみようと思っただけである。

職業柄、いろんな方に、ピアノとか電子ピアノ、シンセサイザーを購入したいのだけれどといったご質問を頻繁に頂く。私の答えは、「出来る限りいい楽器を」以上なのである。なんか、どうせ子供の、しかも、将来、ピアニストになるわけでもない子供の練習用だから、安いピアノ、さらにもっと安い電子ピアノ……はどうかしら？ という主旨の質問。

もし、ピアノの演奏をしたいのであれば、当然、電子ピアノではなくピアノがベターである。弦楽器と打楽器を兼ね備えた楽器がピアノであるから、電子ピアノとは基本的に違うものと考えた方が理に適っている。奏法とか指の筋力という意味で、ピアノを弾いている人が電子ピアノを弾くことは、それほど、難しくはないけれど、逆はきつい。オートマとマニュアル車の関係に似ている。そして、当然にしていいピアノに越したことはない。ちゃちな音が脳内インストールされてしまうから、出来る限りいいものが、いい、けれど、スタンウェイ、1200万円っ！ 弾く前に倒れている。

ピアノの演奏ではなく、もっと、音、コンポジション、オーケストレーションを楽しみたいということであれば、ピアノではなく、電子ピアノかシンセサイザーの方がベター。ピアノとは違う空間芸術みたいな音世界を楽しめる。当然、ピアノの奏法とは違って来る。因みに、私が使っているのは、ローランドのステージピアノと呼ばれるもので、RD-700GX。一番安いアップライトピアノぐらいの値段だから、結構、高価ではあるけれど、こういう散財はピアノ弾きだから当然である。ヤマハの同レベルの電子ピアノにしようかと迷った。ヤマハの音源はヤマハのコンサートマス

ターランドピアノGFX。ローランドは、ドイツのベエゼンドルファー。ふーむ、となった。決め手は、重量。ヤマハ32kg。ローランド25kg。コンサート時の移動を考えると軽い方がベターなのである。もし、電子ピアノの購入を考えて居られる方がいらしたら、このステージピアノはお薦めである。といってもスピーカーが内臓されていないので、別に高性能のアンプを接続しないとイケない。こちらも、かなり高価。でも、レベルアップしても楽器が高性能なので飽きない。安物買いのなんとか……にならない、これは利点のひとつ。黙々と練習していると、時に、楽器の性能を自分の技量の方が超えてしまうから、先行投資かな？

オルガン、エレクトーンに関しては門外漢です。

あと、私が所有しているのは、スタッグのポケットトランペット。これは、一番安いトランペット。私のレベルには丁度良し。一番安い、パーカッション。一番、高い、ドイツ製のリコーダー。ピアノは、イギリス製のヤマハの中級者用のサイレントピアノ。これは、私の家の小さなサロンとの兼ね合いで、これぐらいがベスト。U-1というプロ用のアップライトが欲しかったのだけれど、私の家のサロンでは、音が響き過ぎるので、パス。

2014.05.19 Mon

過去記事のカテゴリー整理

この記事が525番目のはずである。これを書き出す前に、もう、記事タイトルだけを見て、強引に「未分類記事のカテゴリー分け」をしてしまった。ずっとBloggerで記事を書いていた。つまり、カテゴリー分けが出来なかったから、350ぐらいの記事が、FC2へ引越し後、「未分類」となってしまった。もともと、引越した理由が、「記事の整理」だったのに、過去記事を読み返す気が湧いてこない。一時期、新記事を書くことを中止して、それに時間を割こうとしたのだけれど、それも飽きてしまった。そもそも、ブログを書くこと自体、やはり、少し、飽きている。どうも、この「垂れ流し状態」がいけないのであろうと推測はしている。そうなると、過去記事を整理して電子書籍化するとか、なんか、纏めないとあーあーと思いつつ、結局、めどうになるし、うな、纏めるほどの記事なのかい？ とも思っちゃう。だったら、この垂れ流しは即刻中止して、作品である小説シニアマンに取り組む方がいいのでは・・・、という結論もちらちらと脳内に蠢く。

ブログを初めて一年と九ヶ月ぐらいになる。「筆トーク」「脳内シンコペーション」「ピアノは私だ」、そして、「ピアノは私だ2」。すでに、ブログの総タイトルが四回も変わっているし、問題は、変わるたびに、そもそもの裕イサオのブログコンセプトは薄らいでいく。第一、「筆トーク」、つまり、三十記事ぐらいでブログはお仕舞いと考えていたのに530っ！ ピアニストの、「その」宣伝を目的としていたミュージシャンブログだったのである。今じゃー、横丁の親父の戯言ブログになっちゃった！。潮時かしらあーあー？

それで、さきほどカテゴリー分けしてみて気が付いたというより、しみじみと・・・。

タイトルから、その記事内容が、書いた本人さえ推測できない=カテゴリー分けがタイトルから導き出せない。げっ。全部、読み返さないと、わからんのたんたらりん、なのである。自業自得。とほほほほほお。

引越しの際に、改行等が、へめらもになっている記事もある。読み返し、再編集かよおーあー！

そして、我ながら・・・。一記事内にお笑い、馬鹿、突然、文学等々、読み返してもカテゴライズがでけん記事ばかりなのである。私の愚脳錯乱脳の、その高性能振りに仰け反ったっ！ 読み返しても、じえんじえん、カテゴライズができないのですよおーあー、ばっかじえねえーのって！ うな、愚錯乱記事530の整理なんぞっ、私は、やらんっ！

「愚痴」

ユーチューブ動画は、総再生回数が7000回に近付いている。ピアノは、ぐわっと、進歩したとい

うのに、私のブログは、なんじゃらほい、なのである。このブログの責任者と是非ともお話しをさせて頂きたい所存である。作者を出せっ！ 大体よおー、最近はよおー、裕センセのコンサート案内さえ出てこないっ！ ミュージッシャンブログらしく、して頂戴って！ ところで、先週末は来客があり、ピアノを二日間触らなかった。休筋日である。ちょっと、酷かった背骨神経痛が、やはり、治まっている。やっば、休筆日も必要なんだろうねえー。正確には、私は記事書き溜めしているから、ノンアップ日ということかなあー。それより、一旦、この記事でこの連綿ブログは閉鎖して、別の始めようかしら・・・。ちょっと、考える。

2014.05.20 Tue

裕イサオブログデータ

本日、過去記事の本格的な整理を開始した。この記事は、私自身の覚書である。

「裕イサオ 筆トーク」9月12日2012年---10月10日2012年

私の本来的なブログコンセプトが鮮明である

「裕イサオ 脳内シンコペーション」10月21日2012年---11月30日2013年(この日をもってBlogger終了)

ある意味、ブログらしい。一年強と一番長期に渡る。あとがき等の記事はなく、たぶん、Blogger終了をもって、このタイトルは消えた模様。私の記憶も、すでに曖昧である

「裕イサオ ピアノは私だ」12月3日2013年---2月9日2014年

FC2にて執筆を開始。この時点で、ブログの総タイトルが変わったと思う。全記事のテンプレートが変わってしまったので定かではないが、タイトル変更の案内記事等見当たらないので、そうだったと推測する

「ピアノは私だ2」2月10日2014年---5月20日2014年

一旦、これで上記複数ブログは完結していると考え。ただし、同一ブログとして機能してきたので、先記のようにテンプレート、総タイトルが「ピアノは私だ2」に統一されてしまった。作者自身、525記事を再読し再編集、きちんとしたカテゴリー分けをしたい意向も少なからずあるけれども、正直、手に余る。Bloggerからの引越し時に、改行および画面サイズがおかしくなっている記事も複数ある。

1.上記、四つのブログを、ブログごとに電子書籍化する。選択肢の一つではある

2.私のブログ自体および、それを執筆することを一度、再考したい気持ちも強い。込み入ったブログ機能は良く分からないので、本記事の後、つまり、527番目の記事から「新装ピアノは私だ2」としようとも考えている。書き流しではなく、腰の入った書き物、私の考えるエッセイといったものにしようかと……。今まで、私が書き散らした記事の脳内再構成オムニバスバージョン。私のブログの集大成？ といった考え方もある

3.放置している小説十一作目シニアーマンをどうするのか？ という自問自答も続いてはいるけれど、そもそも、私はピアノ弾き。どうして物を書くことに執着し、拘っているのか？ これは謎ではあるけれど、一つの人生観なのであろう。私は、諸々の素材を通して、自分なりに世界を理解しようとしている。音であり、言葉であり、オブジェでありと、私は、一つの定規で世界を透かし見ることは、あまり、好きではないのである。私なりの、存在していないかも知れない自由という概念を探る一つの手段なのである

20.05.2014

2014.05.21 Wed

ブログの電子書籍化

いやあ——、脳内が実にすっきりした。どうして？ 簡単にご説明するとですね……。

ブログは、とてもおもしろいメディアであることは理解しているのだけれど、一点だけ納得できないでいたこと。はい、完結しない。これが整理整頓几帳面な私には、どうもなあ——、達成感がねえー、となっていたのである。そうすると、当然にして執筆意欲がなくなってくる。私はミュージシャンだから、当然にして演奏には始まりと終わりがある。どこかで完結させる。そこに向かって燃え上がる。完結するからハイになる。で、ブログにはそういうところがない。これが、ずう——と、違和感として脳内に残っていた。

で、わたくしジャズ屋だから、行き詰ると素早い。直ぐにソリューションを考える。「ブログを完結させる方法」はありやせんのかあ——？ あった。「ブクログ」というサイトが。

ブログ2000記事までインポートができて、無料で書籍化できる。直ぐに着手。既に、「裕イサオブログ集ピアノは私だ」。この電子書籍のマケットができてしまった。たぶん、ブログごと(筆トーク、脳内シンコペーション……)に一冊にする予定である。

読んで下さる方がいらっしゃるのか？ ははははあ——、いらっしゃらなくてもよかたい。

この完結感が、すんばらしいわけね。こうなると、たとえば、「タワシは私だ」というブログタイトルにして、200記事とか書くでしょ。うで、これを一ブログとして書籍化する。一旦、これで、完結する。うんじゃ、次に行くべ、となる。で、逆に、フェルナンド・ペソアの膨大な書き散らし文のような記事でも、「タワシは私だ」という書籍=Boxの中に、整理整頓される。時々、現れる裕センスのキラッと光る詩が、三編ぐらいだけ紛れ込んでいたりする。上等じゃん。

それか、「ピアノは私だ2」2013とかにもできる。うっししししし、楽しい楽しい。あっ、わたくしのダンボール箱の中に眠る珠玉のアホ小説も、でっ、電子書籍っにでけんだよなあ——。うっしししししし。

ピアノを止めちゃったりして？ ばっかじゃねえーの。

21.05.2014

2014.05.22 Thu

準備中

えー、わたくし、夏目書籍と申す者。裕センセは多忙を極めて居りまするため、わたくしが、代筆と・・・。

現在、裕センセは、「電子書籍筆トーク」のご編集というか、改行等の不備がないかのご確認中でございます。まっ、近日とは申しませんが、まっ、そんなに先ではない頃に、世間様にお目見えすると、わたくしは推測して居る次第でございます。

然らずんばの産婆のサンバのブラジルワールドカップ。失礼致しました。センセの文体がうつってしまいました。現在、センセは、「ピアノは私だ2新装版」、重厚華麗なる随筆集を夢見て居られる模様の縞模様。「夏目君、僕はね、インテリなんだよ、本当は・・・」と、昨日、申して居られました。

それと、裕センセのリール時代のユニット、バンサン・バン・ミラーのギタリスト、エリック・ミモザが来週の火曜日に、裕センセ、佐藤真師匠をバックに、パリデビューをするそうで、こちらの準備、つまり、集客および、その日の演奏に向けての脳内シュミレーション自主トレとご多忙を極めて居られます。この超絶知能指数天才ギタリストを、佐藤真師匠も同系列、この二人の知能に裕センセは、一人、立ち向かうという壮絶なバトル・ロワイヤル。アホのセンセがどこまで着いていけるのか、乞うご期待っ！

2014.05.23 Fri

自己顕示欲というもの

所謂、「丸くなった」というやつで、私は、これが狂氣的に強かった。そして、幸いなことに、自然の摂理バランスというもので、若年時に狂氣的に強かった分、減退も甚だしいのである。性欲と一緒に、全人生のそういった欲望電池は、皆、ほぼ、一緒なのだと仮定してみる。そうすると、相当量を、「既に消費した」のであろう。

私自身が、あまり、自分に興味がないのである。たとえば、「他人の目」にどう私が映るのか？
とを考えても、私の目にも、その他人が映っている。お互い様である。正直に、「どちらも」大したことはない。

偉人なんぞというものは、私には存在していない。姑息で腹黒くて善良だと、各自、「全ての要素」を持っている。となるから、自分なんてものも、大したことは、当然にしてない。こういう風に考えた方が、すっきりするし、善良になるのだよ、なんだか。

分かってもらえんかいねえー？

2014.05.24 Sat

こういう人種、職業の人たちがいる。私も、その範疇に入っている。どちらが先なのか分からないけれど、自己顕示欲の塊系が多い。いや、それを乗り越えて無我の境地に到達してしまう方々もいらっしやる。

いずれにしても、職業柄、自己を顕示、露出し続けなければならない。それが唯一の社会との接点であるから、籠ることは許されない。たとえ、よれよれでも顕示、露出を続けるのである。しんどい、もう、駄目駄目となったらアウト宣告を自分で下す。退場する。となる。

まあ、百万人に一人ぐらい、大手スーパー並みに景気のいい連中もいる。百万人ー1は、昔、小学校の脇にあった駄菓子屋程度の規模である。当然にして、細々と品物を揃え、細々と多角経営露出。当然、私も、この駄菓子屋組である。

うなもん、畳んでしまえっ！ そうは、いかんのである。屋根瓦が傾き、入り口の引き戸の建て付けが悪かろうが、芸術芸能系を名乗る限りは続ける。疲れちゃったあー組は、自己解雇する。

と、このようにしぶとくやっている内に、社会的な成功が訪れる？ ははは、訪れないのだ、永遠に。

唯一、自我を超越してしまう時が来る。私私私自我自己顕示露出・・・と狂気のように追い求めていると、わっわっ、空っぽだあ——という日が・・・。悟った者勝ち、なのだ。

2014.05.25 Sun

本日は、5月26日2014年。

これから再読再編集を予定していた私の第一ブログ「筆トーク」。再読再編集を断念し、完成公開と致しました。一番短いこのブログでさえ52編。しかも、私の記事は長い。読み返す気力も時間もない。諦めた。

内容は把握しているけれど、BloggerからFC2への引越し時の改行位置のズレ、および、それによる禁則文字の発生、これがやはり非常に気になっている。公開するならば、こういうことはきちんとしないと、と思うけれど、まだ、500近い記事が残っているし原稿用紙換算枚数で推定1,000枚以上。これは、現実的に、私の手に余る。いつまでも、うじうじしていると、またまた、永遠にブログが完結しなくなるので、本日、公開してしまった。ご容赦頂けますと幸甚です。

今後は、電子書籍化にて完結をする方向で、ブログ執筆を続ける予定ですので、ブログスタンスも変わってくると思われるし、上記のような不備もなくなるだろう。ブログ記事に添付されていた動画、画像等は、インポート時に自動的に削除されてしまった。再添付は可能とは思われるけれど、あえて、文章のみと致しました。ある意味「本」らしくなった。

この52編で完結予定だった私のブログが、なんとっ、500記事を突破してしまいましたっ！

私のプロ愚に長期に渡りお付き合い頂いている読者様、および、ブロガーさんたちのお陰です。涙と鼻水でぐちょぐちょになりながら、改めて厚く御礼申し上げる次第です。ありがとうございます。

この私の電子書籍第一号、もう、これだけで辟易い——は十二分に理解して居りますが、「脳内シンコペーション」「ピアノは私だ、ピアノは私だ2」と、まだ、後、二冊が登場致しまする上、お気付きの通り、完結完結などと騒ぎながら、相変わらず更新狂。この巨人の星的しつこさが芸能家の本質を支えていることが、どなたの目にも明らかであろうと慮ってパカパカして居る今日この頃、皆様、お元気でらっしゃいますか？

もう、いつまでも、うだうだしていても仕方がないので、全部作っちゃった！ 明日は、エリック・ミモザのパリデビューだから、脳をピアノの方へシフトチェンジっ！ へえーんーんしいーん。なんか、動画作るよりずっと簡単だった。もっと、複雑なのかと思い込んでました。

2014.05.26 Mon

日本語だと、誇大妄想狂。私も、そう「であった」と過去形になる。

世界史を変える。本当に、そう思っていた。政治経済という意味合いではなく、人間の意識を変える。本気だった。その手段が、「芸術」と呼ばれるもの、と、当時の私は理解した。意識をなぜに変わるのですか？ はい、不自由だからです。そういう鎧だの楔だの鉄の輪みたいなものは、酒煙草以上に、健康に良くない。

「制約」というものは、まず、「自分で決めるもの」としたかった。そうは、問屋さんは卸してくれない。だから、うな、馬鹿なっ、となる。うなもん、いらんわ。自由にさしてっ、となる。で、世間という人間のようなそうではないような巨大な暗雲が立ち込める。きゃーーと、皆、逃げるのだけれど、その暗雲の根源は、あらっ、なんだよおー、我々じゃん。

って、ことは、矛盾している。自分に首輪を嵌めて、不自由にしているのは、私の場合は、私自身ということになる。

でね、「自由」なんちゅう単語を五十五歳のチャンジー(逆読みして下さい)が言う。「なんだあー、てめえー」と若者に言われる。で、その若者たちが、「それ」を知っとるの、となる。うなもんは、ねえー。にじり寄るだけだ。

2014.05.27 Tue

またまた、じわあ——っ閲覧数が増えている。っても、23とかですよ。一桁台をいじいじしていたことを考えれば、凄いし、お読み頂いている方々へ、お辞儀です。どうなっているのか分からないのですが、ブログ村、FC2経由でない方々が増えている。閲覧されている国々も多岐に渡る。うわあ——、グローバルゼーション閑散ブログ大賞を、セルフ授与。各国に、一人の読者。格好良過ぎです。ありがとうございます。

でね、メガロマニアの続きなんだけれど、世界を変えるとかノーベル賞を受賞するとか、でね、実際にいるわけだ。でね、私も、その一人であろう、いくらなんでも、ノーベル賞は別にしても、と考えていたのである。正確には、四十歳ぐらいまで……。

「おっし、一記事完了、ラジャー」

「裕センセ、だぁーら、今、現在のご心境は？」

「あれっ？ こういう隠喩と暗喩と余韻を君は理解出来ないわけね？ 今時の若いもんは、言葉を知らない。マニュアル人間どもめっ！ 羽毛おー、わしは世界動向、経済動向、政治動向なんぞ、どうこうはいわんっ！ の馬鹿。カミサンとの平穏な老後。わしの子供たちの成長、孫たちの成長。以上っ！ どうでもえ——、他人なんぞっ！」 「うわっ、凄い剣幕っ！」

2014.05.28 Wed

芸能家

なるべく分かり易いタイトルにしようと思っているけれど、やっぱ、分かり難いかも・・・。
そう、私は、芸術家だった。と、すべてが過去形になるところが、客観的に、過去の人になっているということ。医学的に、科学者とか芸術家とか哲学者、こういう人々は、二十代に、基礎理論を構築する。で、それができなかった人は、アウトなのである。で、私はアウトなのかというと、うなことはなくて、美術の世界では、それはあった。ただ、続けなかったから、結果的にはアウトである。

一回、この世界から堅気になると、元には戻れない。アウトは永久追放ということになる。

で、芸術と芸能。やはり、前者の方が威厳があるし格上なんだとは思う。

私はなんなのだっ？ と理論上はなる。芸術家では、もはや、ない。芸能人？ 知られてなんぼの世界である。こんな無名野郎が芸能人であるはずがない。わっわっ、どっちでもないから、芸能家という、一番、潰しの利かない訳の分からないものになってしもた屋。ぎょ。まっ、いか・・・。テイクイットイージー、メェーン！

2014.05.29 Thu

アナログ人間からの脱出

考えてみたら、ブログは風呂具、ユーチューブは配水管、電子書籍、金持ち向けの高級品と二年前まで思って居た。パソコンは、その会社関係に必要な、というか、必要だった頃に、必要な分だけ習得しただけで、道楽方面のパソコン操作は、まったくのまったくであった。そして、今や、この道楽パソコン操作の鬼と化している。ふっふふふ。

これは、回りくどい卑下ではなく、わたくしが最も望んで居た「文化生活」である。

しかし、しみじみと、やっぱ、ピアノはいいなあーっと思っちょる。どんとした存在感。西洋理念がぎっしり。弦楽器であり打楽器であり、一人オーケストラができる。鍵盤を押している手の感触がはっきりしている。パソコンのキーとは違う、その強弱と重量感。私のようなおっちゃんでも日ごと進歩する。できなかったフレーズが淀みなく出て来るようになる。達成感がある。ああーっ。手に職が一番ねえーっと思う。しかも、ピアノはソロコンサートを簡単に開ける。日本国へ帰国する。ピアノお宅人口が世界で最も多いと推測する。あっちこっちにいいピアノがある。この環境下に戻る。ソロで弾く。ギャラが入る。しかも、ソロだから全額だし、揉め事もない。儲かる。うっししししし、でもある。助かるのである。清貧族には・・・。別に、金欲はないから、チャラになればいいのだ。つまり、餓死せずに、フランスに戻る。で、戻ってからも餓死しない。こういう家計簿上、辻褄が合えば良しとしているのである。

2014.05.30 Fri

ブログの盗用

XX

冒頭追記 6月1日

サイト名を一旦削除致します。

二つのハンドル名、各ハンドル名による複数のブログ。その中に、私の記事が定期的に無断転載されていることが分かりました。二つのハンドル名の各ひとつずつのブログへは、お願いのコメントをお送り致しました。現時点での返信はありません。大事にするつもりは、まったくないのですが、ご返信、釈明、出展の追記、記事の削除と、なんらかのご対応をして頂くのが、やはり、ブロガーのマナーと考えますので、やや、私の中で理不尽な気持ちが込み上げて参ります。しかし、なんらかの先方のご事情があるかも知らず、もう少し調べてから、レポート致します。

未だにこの方からご返信がない。この方の4月2日付けの記事「xxxxxxx」、私の記事「いちご」である。出展さえ明記して頂ければ、私のブログ記事がどこに掲載されても構わない。それが無い=盗作、盗用である。高々ブログ、無料の、営利の絡まないもの、である。

高々知れたもの、そんなものを更新するために、これまた高々知れた私の記事を「全文盗用」。大事にするつもりはないけれど、なんだか、その貧しさが嫌なのです。出展明記して、もう、全ブログ抜粋して下さいね。そんなに書けないのであるならば・・・。

私は、あなた個人に怒っているのではなく、こういうことを、私に書かせないで欲しい、と怒っている。分かって頂けますか？ 私はユーモアを信ずる温厚な親父。それだけなんだから、逆に不愉快なのです。そして、ブログというメディアを、私は大切にしたいのです。

だから、ルールは、お互いに守りましょうよ。

2014.05.30 Fri

二ヶ月振りに床屋に行って来た。

私はジャズマンのくせに超絶出不精だから、床屋も頻繁には行かない。そもそも、着ているものはいつも同じだし、髪型がどうのこうの、まったくもって興味がないので放置が続く。その内、段々とベートーベン頭になってくる。おっさんなのに、髪が太く量が多いから、もっと放置していると、櫛で髪を整えることも出来なくなってくる。キングギドラ頭。そうになると、まず、第一に頭を洗うのが難儀になってくる。それでなくてもめどうなのに、何百グラムもありそうな頭髪を洗う。鬱陶しいことはなはだしい。と、重い腰が上がる。

私の行き付けの床屋は、緩やかな坂を上った左の角。私の住む小さな町は、町全体が丘の上、および、斜面、裾野となるので、行く方向のほとんどに坂、階段がある。そういう意味だと、比較的高低差のない所にある。しかも、二百五十メートルぐらい。近い。ちんたら、煙草を吸う丁度いい距離なのだ。

その床屋の親父は、セビリアの理髪師ではなくアルジェリア人。四十三歳。国籍はフランスのはずである。この私より丁度一回り下の親父。床屋のちょっと先に県立高校があるのだけれど、窓の外を通り過ぎる女子高生。この親父は、私の髪をまったく見ずに、そちらばかりを見ている。そちらを見ながら、世間話、バリカン、鋏。スプレー缶なんぞ、シュとやった後に、カウボーイみたいにクルクルと片手で回してカウンターの上に置く。まあ、実に器用な親父で散髪の技術は素晴らしい。「天才余所見理髪師」と私は密かに呼んでいる。私の顔に切った髪の本一本も付いていないあたりは、見事である。

仕上げのスプレーを掛けている間、私の顔の右下、黒い上っ張りにぼわっとした髪の毛の塊。むむっ、その三分の二が白髪である。

「おりゃ、またまた、白髪増えちゃったあー、俺っ！」

「私は白髪しか切らなかったから、当然です。ムッシュ裕」

私、シャンプーしてくれたおばちゃんと爆笑。

ブロぐる文学振興会ユーモアジョーク大賞受賞っ！ 素敵っ！ そして、なんか優しい。これだけで、一日、機嫌が良いのであった。

2014.05.31 Sat

これは、当然にして、だれしもあるはず。私も、もちろん、ある。

頭の中に、わりと具体的な年間計画があるのだけれど、ここ近年、ブルドーザーのように、それに、にじり寄っている。

ユーチューブの動画、ブログ、ピアノの超絶技巧の習得およびライブ活動と、結構、当初の計画を達成して来ている。おまけに、これに、電子書籍が加わったから、老後は安泰である。書き掛けの小説と、ダンボールの中のそれをどうすっぺかという具体的な楽しみが増えた。もう、世界経済からは孤立化の一途。道楽親父へ向けて驀進中と相成った。

とはいえ、ピアノ演奏の完成なんぞは永久にないから、現在は小山の上で小休止。一服したら、次へ。楽しいったらありゃしない。下手で良かったよ、本当に。

2014.06.01 Sun

ブログの盗用2

私が、その方に出展明記のお願いコメントをお送りしたのは、5月9日である。怒りのコメント、感情的なそれではまったくくない。単にルールをお守り下さい。これだけの内容である。

私の愚記事で大騒ぎするつもりはさらさらない。ただ、私の常識では、私へなんらかの返信、記事に出展を明記する、ないしは削除する。いずれにしても、私のコメントへは返信を書くのが礼儀である。このノーコメントに対して、温厚な私の脳内に怒りが少しずつ積み上げ始めている。「そのまま、ノーコメントのまま掲載されている」。これは、無礼である。

私は元美術家。この世界での「盗作」とはどういうことなのか、私は良く知っている。全キャリアがチャラになりえる。とだけ書いておく。

なんか、急に、もし、そういうことをするのであれば、私のピアノの技術を盗んで頂戴、もし、できるのであれば・・・と、強烈な嫌味が脳内で渦巻いている。まあ、この件を記事にするのは、これぐらいにしておこう。私の本意ではない、こういう記事は・・・。

と、二日前に書いた。私は怒りっぽい人間ではないので、逆に先方のイメージをシュミレートしてみた。どうも、私の警告コメントを読まれている気配がない。そうであれば、一方通行。では、仕方がない、刑事コロンボの大ファンだから、調査を開始した。そして、なんだか、本当に刑事コロンボの世界が現出して来た。結局、良く分からない。以下、簡潔に纏めてみる。推理小説の世界に入り込んだ感じがしているので、サイトの特定名称等は分からないように書かせて頂きます。もし、最後まで、お読み頂ければ、その理由はお分かり頂けると思います。願わくば、その当事者であるブロガーさん、ないしは、さんたちが、この記事をお読み頂くことを・・・。ちょっと、長くなります。ご容赦を。

5月9日、私は、たまに自分の名前を検索してみる。ユーチューブの動画の行方を確認するためである。不正行為のチェックではない。どういうサイトで「紹介されている」のかの確認のためである。ブロガーAのブログが出てきた。おかしいなと思い開く、全文転載。コメントをお送りする。返信がない。三週間後、やはり、ない。正直、感情的になる。そして、「ブログの盗用」という記事を布団の中で書いた。

5月31日、その方が複数のブログを開設していることが判明。同じハンドルネーム。五つぐらいのブログの「共通項」を分析。中国の方であろうと推定。すべてのブログが昨年9月から。カテゴリーの中に、同じ中学校の名前が出てくる。プロフィールを検索。詳細がない。すべてのサイトが地方のコミュニティーブログ。クレームの窓口がない。その中学校の概要を検索して

みる。香港の中学校である。しかも、私の地元の私立大学と提携している。ほとんど、推理小説「点と線」の世界が現出。その中学校の概要を検索していたら、別のハンドル名の複数ブログが出てきた。

こうなると、読んでみるしかない。ブロガーAの複数ブログ。ブロガーBの複数ブログ。私の記事が定期的に転載されていた。

「コロンダ刑事、動機はなんなんすかぁー？」

「下田君、裕センセはグローバルゼーションインターナショナルアホだから、転載自体が問題なのではない。けれど、あぁー、見えても真面目な方だから、その、つまり、礼儀に反すると怒って居られるのだろうと……。うな、転載が必要なら、言って頂戴ねえー、水臭い、とか、そういうベクトルの方だ」

「しかるに？」

「下田君、諸々のキーワードを繋げてみたまえっ！」

「えっ、キーワード？ あっ、コロンダ刑事っ。その、つまり、香港の中学生が……」

「下田っ、これは、推理、推定ではあるけれど、私の見識では……」

「でっ、その動悸の同期の動機は？」

「ほっほほほほっ、香港の中学校で日本語の習得に励む学生、ないし、複数？ さんたちの、日本語習得の一助的ブログ、ないしは、あたしの日本語はスンバラしいのよ、と仲間に誇示するための盗用。ふっふふふふ、もし、タワシじゃね、私の推理が当たっているならば、裕センセのブログを持ち出したところは、はっきり言って断言の断言で、きっぱり、見る目があるっ！

と、言うことだけれど、センセの日本語ねえー、フリーズ屋だかんねえー」

と、私自身は推定してみた。もし、そうであるならば……。

まず、「ブログの無断転載はどろぼうの始まり」。でも、動機次第では、いいよって、別に、私の愚記事で良ければな。取り合えず、この記事を読んだのであれば、私に非公開で良いからメッセージを送ってな。日本語習得ということであれば、なんらかの手助けは出来るからな。

2014.06.01 Sun

ブログの著作権

急に色々な疑問が湧いてきた。

1.「そもそもブログに著作権はあるのか」2.「あるとして、だれの著作権なのか」3.「有料無料ブログの著作権上の違いはあるのか」4.「引用と抜粋と転載の違いは」5.「著作権明記の必要はあるのか」6.「ない場合は、著作権を放棄しているのか」7.「著作権、これ自体がなんなのか」8.「ブログ記事の無断転載は違法なのか」9.「たとえば引用した際の出展明記の仕方のルールは」、考え出したら自分でも訳が分からなくなってきた。

私のような愚ブログ、愚記事はまだしも、きちんとしたデータに基いて書かれているブロガーさんたちも多々いらっしゃる。無断転載の意味合いも違って来るだろう。10.逆もしかりで愚ブログだから、無断転載しても構わないのか？ という疑問も当然にして湧いてくる。「愚」の基準は、なんて考えていくと弁護士のところに行くしかなくなる。

やはり、ブログを書いているのだから、まず、私自身が把握しないと、と、急に思い付いた。調べてみた。

1.ある

2.書き手 ただし、ご利用のブログサイトの利用規約の確認要 FC2の場合は、ユーザー=書き手

3.ない

4.この説明は難しいので省略 検索すると詳しい説明がたくさん出て来ました たとえば、引用とは自分の意見を述べるために必要必然があり、その必要性の中での最小限度の引用文であること
二三行程度 出展を明記する云々・・・

5.さっき一番下に著作権裕イサオ2012を入れたのだけれど、明記の義務必要はない 自動的に著作権が発生している ただ、著作権の意識を喚起するためには入れる方が良しということらしい
6.5と同じことで、明記がなくても放棄にはあたらない

7.これは、文部省の文章をご参照願います 長いので省略

8.違法です 著作権を有する者の許可が必要 そもそも全文転載は引用にはあたらない ただし、著作権を有する者が訴えを起こさないケースは法には触れないと微妙な説明も散見されました
いずれにしても、出展の明記は最低限のマナーでしょう(引用抜粋転載の正確な意味がやや曖昧)
そうすると、無断転載を著作権所有者が訴え出ると、著作権侵害という立派な犯罪行為になってしまうので気を付けましょう 大事にもなるということです

9.これは「正式な書き方」というのが検索したら出て来ました 実は、私もお粗末ながら正式な書き方知りませんでした 出展がきちんと分かれば、もちろん、問題はないのですが、正式な明記の仕方、参考になりました

10.愚の定義はありません 私の場合は自分で言っているだけです、著作権に関しては、まっ

たく同じ

なんか、私自身、勉強になりました。詳しくは、ご専門の方々のブログがたくさん出て来ましたので、そちらをご参照願います。

2014.06.02 Mon

新「ピアノは私だ2」？

本日は、5月28日。昨晚、エリック・ミモザのパリデビューが無事に終わり、もぬけの殻状態。ぼおー。で、この記事のアップは6月に入ってから……。さっき、全部の下書きを予約投稿にしてしまった。月末まで、結構忙しいので、こうしてしまうと、ブログ更新が頭から消える。お気に入りブロガーさんの記事を、隙を見て拝読するのみ。

で、さっき、私の電子書籍のマイページを見て、仰け反った。「発売」と書かれているのだけれど、その発売日は5月26日。で、28日の午前には、閲覧数が、なっ、なんとっ！ 「筆」74、「シンコペ」83、「ピアノ」182。ダウンロードはされていないにしても、すでに一日足らずで、このアクセス。ふうーむ。どういう展開になるのかしらねえー。この私の体験は、電子書籍にご興味のあるブロガーさんへは、多少の参考になるかも……。私のブログの6--23なんていうアクセス数を考えると、凄い数字。本当にびっくりしました。あんまり、アクセスが多いと逆に怖くなってくるけれど、まあ、私の愚ブログ。KGBだのCIAの管轄になることはないからねえー。

話が戻る。エリック・ミモザ。当日、リールから夕方、パリに到着。エレキギターと小型だけれど重たいアンプを持ってきた。私は、なんか、アコースティックギターを持ってくると思っていたから、びっくりてんぎょう(逆さ言葉)というほどではないけれど、わっ、アコースティックピアノで「試合」かよおー、痺れるなあー、などと内心思いつつ、始まった。この天才のその音楽への姿勢、集中力。尋常ではない。ヒイヒイいいながら「試合」をした。(佐藤)真師匠(ドラムス)の援護射撃を受けながら、超ビシヤ(逆さ言葉)だったけれど、凄い演奏になった。ユーチューブに近日中にフルバージョンアップです。「Eric MIMOSA in Paris」。

あれ、タイトルなんだっけ？ あっ、そうそう、5月20日の記事まで書籍化したから、今書いているこれはなんなの？ となる。ブログの総タイトルも腰帯もテンプレートもなんにも変わってないけれど、一応、「新」ということにはなっているような……。もじもじ。ははあー、私の三冊目の書籍名は「ピアノは私だ」で「2」付いてないのよおー、明智君。

ということは、今、書いているこれが、行く行く「2」として上梓されるということになるのだけれど、なんも、かわっちゃらん。まっ、いいよね。おかしいな、重厚華麗な随筆って、裕センセ、どこかに書いてなかった？

2014.06.03 Tue

なんだか脳内が著作のケンちゃんに化してしまい、いつものプログラミングフィールドが戻ってこない。どんどん疑問が沸いてくる。でも、大切なことなので、いい機会でもあるから諸々と調べ始めた。

ところで、私のブログ記事の無断転載に関しては、現況は「静観」している。「黙認」ではない。二つのハンドル名(同一人物なのかは不明)による8つのブログの中から、私が確認した限りでは9つの記事が出てきた。一瞬、これは「悪質な・・・」とも考えたのだけれども、もし、中学生のブログであったと仮定すると、実に素朴な結論も導き出される。「著作権自体の認識、知識がない」。この可能性も大きいので「静観」となった。もし、営利悪意が絡まないのであれば、私の判断も変わってくる。

面白いもので、私の中で渦巻く単語が、「犯人」「動機」「犯罪」などと、いつの間にか警察物になっている。そして、じい——と考えていたら、これまた、実に素朴な疑問、人の振り見て我が身を直すではないけれど、「あっ、俺自身、著作権侵害を知らぬ間にやっているのではないのか?」。刑事目線が己の方へ。疑惑の根拠は……。ユーチューブの72本の動画。ライブコンサート時の演目。この二つである。調べて見た。ご興味ある方へは多少のご参考になるかも知れません。

「ユーチューブ」私の動画の中に著作権が消滅していない曲がいくつかある。当然、動画の中に原曲は明記してある。それと、動画の収益化という管理上の設定がオフになっている。調べてみたら、原曲が明記されていても著作権侵害にあたるという見解が出てきた。あっ、やっぱり……。拙いなあ——、もっと詳しく調べる。いやあー、私の無知も酷いもので、なんと著作権料はユーチューブサイトが支払っているから、動画の管理者の申告の必要はないと出てきた。ただし、自演であること。別途、CD化等で収益を得ていないこと。セーフだった。

「ライブ」アドリブの一部に、マイルス・デイビス、ウェザーリポートの曲をたまに入れることがある。もしかして、これは違法行為なのかという己への疑惑。結論から申し上げますと、著作権料の申告支払いはライブハウス側にあり、演奏者がそれを行う必要はない。ただし、これをCD化する場合は話が変わってくる。これもセーフだった。

もちろん、CD作成時のルールは把握しているけれど、上記二つが私自身曖昧であった。あり得るのである、知らぬ間に著作権侵害を自ら行っている。ほっとした。自分自身を訴えないといけなくなるところであった。ここからは、やや、笑い話に近くなるのだけれど、ジャズメンのアドリブの著作権は? あるのだ。でも、毎回、違うからどれが原曲になるの? ははは、毎回毎回のアドリブに毎回の著作権が発生するのである。ちょっと、私自身は爆笑したけれど、論理的には

そうである。そして、ジャズメンらしい裏技があることも分かった。コード進行に著作権はないから、原曲のコード進行を使い別の曲にしてしまう。著作権は本人のもの。裏技という用語弊がある。合法的な作曲編曲なのであるけれど、いかにもジャズメンらしい、こういうのは。私の著作権、この論理で行くと、ほとんど天文学的な数になる。同じ演奏は、絶対にないのだからねえー。

2014.06.04 Wed

「裕センセっ！」

「どうした、下田君」

「わっわっ、とうとうセンセのアドリブの完コピが出現っ！」

「マッハ3.2だよ、私の指さんたちは？」

「それが居るのですよ、完コピペコピーマンが」

「ほっほっほ、見事じゃのおー」

「またまたの玉玉、センセのそういう悠長なお人柄が、生活を圧迫して居るのですよ。著作権侵害で訴えますっ！」

「ねえねえ、下田君、そのさあー、完コピペコピーマンだっけ、本当に、私のアドリブフレーズを完コピペしているわけ？ マッハ3.2だよ、私の指さんたちは・・・、私より優秀なのだよ・・・、本当の本当であれば心外心外心外、嫌々、それは・・・」

「でしょ？」

「ふっ、下田君、で、そ奴のジャンルは？」

「ものまね、です」

「で、そ奴の名前は？」

「裕イサオコピーマン、です」

わっわっわっ、それは合法なのよ、下田君。ものまねって謳っている限りは・・・。

そうね、名誉毀損はあるけれどね。

俺より格好いい奴なの？ 小栗旬に似ているそうです。

くくくくくっ、そうなるとイメージアップね。くくくくくっ、じゃ、彼にセールス任しちゃいましょっ！

ついでに、売れちゃいたいわ、あたかも・・・。

2014.06.05 Thu

「もしもし、ベリー愚グットマガジン下田です。裕更新先生でいらっしゃいますか？」

「ふむ、わしじゃ。下田君」

「先生、五つの予約投稿記事、全部解除、下書きに変更なさりましたよね？」

「イエス」

「で、本日の記事は？」

「ナインナイン」

「えっ、それじゃー、会場(の前列)いっぱいのご愛読者様方はどうなるのですか？」

「ふむ、申し訳ないと思っとる。気分が乗らん」

「どうしちゃったんですか？」

「下田君、ひとつの名案が浮かんだのじゃ。百パーセント盗作を防ぐ方法が・・・」

「百パーセント？ まさか、人工衛星で監視する。フランスのノルマンディー地方に抑止用のミサイルを設置する。日本ヘジエームズ・ボンドを送り込む。ターミネーター、スパイダーマン、ついでに、シニアーマン・・・」

「ちゃうちゃう、一番、安価な方法」

「またまた、センスのお好きなオジギャグでしょ、それ？ ポール・アンカの曲を流すとか・・・、羽毛お！」

「ちゃうちゃう・・・、記事を書かなければ良いのじゃ、下田君」

2014.06.06 Fri

「裕センセ、巨大化した裕センセ、クローズゼロ風小鹿花園学園、この二記事、アップして下さいっ！」

「いやだね、下田君。私はね、改名したのだよ、臍曲太と」

「相当の心的打撃ですねえー、記事の盗作」

「ぐえー——、その二文字、止めてっ！」

「すっ、すいません、センセは美術、詩、小説、ピアノと遍歴をなされた。つまり、多芸は無芸、器用貧乏を自ら具現化された、世界で最も有名な無名ピアニスト、心情はお察し致します」

「ありがとう、下田君」

「ところで、その二文字ブロガーの新情報ですが、当社、ベリー愚グットマガジンが追跡調査を致しました。そのOOO、当社が確認済みのブログサイトが、10。閉鎖が3。同一人物と思われるOOO、ブログサイトが4。センセの記事の無断転載数9。御年22歳の女性。中国の方と推定。当社文体分析班の調査結果では、各記事に統一された文体がない。テーマの共通性がない。第何話という標記が現れる。ブログランキングサイトに参加していないのに、ランキングバナーが現れる。つまり、センセの記事以外に・・・、もしかすると、全記事に近いものが、無断転載なのではと推定して居ります。これが、悪質でないはずはありませんっ！ 裕センセ、当社経由のクレーム、裕センセご利用のブログサイトからの被害届。裕センセご自身が、訴える。サイト名を公表する等々の制裁が必要というのが、我々の結論です」

「下田君。今、制裁といったよね。私は嫌いだ、そういうことは。高圧外圧も嫌いである。その個人が、私に釈明、記事に出展の追記、ないしは記事の削除。良識のある対応をして頂ければよい。それだけだ。被害者が必要以上に加害者を追い詰める。力関係が逆転する。そういうことはしたくない」

「センセ、我々は悪質と判断して居ります。被害に逢われたブロガーさんの数も相当数と推測して居ります。放置はいかんのではないですか？ これが、その人であろうプロフィール写真です」

「あらまっちゃん、可愛い子ちゃんじゃん」

「ご本人なのか、営利組織がサムネイルとして使用しているのか判別ができません。センセ、いきなりベズリー目にならないで下さいっ！」

「ふむ、下ちゃん、あのね、私はね、ユーモアを信じている。そっ、私はね、こういう愚記事を書き続ける。その子が読む。改心する。つまり、私に釈明、出展明記、記事削除となんらかの対応をする。それでいいのだよ。私は、それ以上はやらん」

「裕センセっ、それを世間では、お人よしというのですよっ、はっきりいって社会的アホ、ユートピストじゃんって、そんなのっ！」

「まあまあ、下田君。そう、君がカッコするな。忍びの者を日本国へ送り込む準備はできとる。胃我の心臓、腎臓、肝臓の三名じゃ。しのびないけどなあー、そういう事態はのおー。でもさあー、その子も、わしの愛読者のお一人なのじゃ、よ」

2014.06.07 Sat

風景画

突然、夏日になって、カミサンと小さなお城の庭で、ぼーとしながら、小冊子を読んでいたら、近所に石切り場があると書いてあったから、うな、行ってみんべ。史跡旧石切り場駐車場。車を止める。歩く。緑の鉄門、閉まっている。右側に石切り場の写真。ここなのかなあー？ 閉まってるから、もっと、行ってみんべ、なあー、といいながら、更に雑木林の小道を歩く。乾いた馬糞。幅が八十センチぐらいの小道を歩いていたら、イギリス人三人が、小道のど真ん中でピクニック。イギリス人のおばちゃん、我々を見て苦笑い。「ボッ、ボンジュール」。二キロぐらい歩いたら、広大な麦畑。カミサンに、「あれれ、あっちかなあー、石切り場？」。中学生ぐらいの女の子二人。大型犬x3。「ボンジュール、石切り場、探してんだけど・・・」「山の向こう」「あれっ、そっちから来たのだよ、我々。緑色の鉄門があったけど」「そこそこ、閉まってるよ、危険だから」「あらまっちゃん、やっぱねえー」。でも、麦畑が綺麗なので、もっと歩く。車道に出たので引き返す。引き返してきた、女の子大型犬たちに、再度、「あれっ、ボンジュール」。

前を歩くカミサンの背中。イギリス人。女の子たち。

石切り場の写真の下に、説明書き。六十五億年前に生成された石灰岩を十五年前まで切り出していた歴史的な石切り場です。「俺、五十五だけだよ、みんな、今、生きてんのかよ」と脳内に独り言が木霊しながら、帰路。帰宅、展望台みたいなサロンから空を見上げながらビール。赤オレンジ色のソファーにカミサンと伝書鳩みたいに並んで、ぼーとする。

2014.06.08 Sun

鏡

パリにいる息子が引越しをすることになった。新居の方に姿見が必要。カミサン「あっ、あなたの昔の作品が半地下室にあったわよね。あの縦長の鏡、丁度、いいんじゃない？ 作品だからまずい？」私「1985年作。息子の年ぐらいの時だよな。二十七枚のパネルの一部だったから、単体では作品としての機能はないよ。いいよ、持って行って。木枠の部分、自然木じゃ嫌だということなら、ペンキ塗っていいよ」。

私が二十五歳から二十八歳、ボルドーとパリのアトリエで制作された作品で、高さ二メートル全長十七メートルの大作だったけれど、ほとんどの作品部分は残っていない。置き場所がなかったから、あっちこっちに分散して預かってもらっていたのだけれど、一部は大雨で浸水してしまったり、気に入ったという友人に上げてしまったり・・・。

半地下室に下り、埃で白くなった縦長の鏡を庭のテラスへ。木枠の部分を濡れたスポンジで拭く。鏡の裏面も同様。鏡の部分だけ、真っ白。二十九年前に作ったんだなあー、これと呟きながら、窓ガラスを掃除する洗剤をシュシュ。紙ナプキンが真っ黒。五回ぐらいやったらやっと鏡らしくなってきた。

二十六歳の坊主刈りの水泳で鍛えた細身の筋肉質の男、凄く怖い目をしたやつが映っていた。昔は・・・。

この縦長の鏡は、「あなたの等身大を見て下さい」というメッセージとして制作された。

最後に乾拭きしたらピカピカの鏡。五十五歳の白髪交じりの全筋肉が引力と融合し始めている優しい目付きの親父が映っていた。

2014.06.09 Mon

躁鬱病のような天気

6月6日2014年はD-DAYノルマンディー上陸作戦70周年。その日の夜から、フランスは熱帯性高気圧に覆われる。バーベキュー好きのフランス人、翌土曜日のお昼は、そうしようと思っていたはず。私も帰省中の息子とその話。翌朝、げっ、雨。予定が狂う。夕方からじわあーあーと夏日。庭の畑のトマトがぐおっと大きくなっている。日曜日、夏日。26℃。カミサンとTシャツ姿で近場ドライブとウォーキング。その日の夜。ぐうおーあー、豪雨、雷、雹。その晩は大雨注意報。祭日(聖霊降臨祭翌日の月曜日)の月曜日、朝、曇り、お昼頃から夏日。庭の芝刈り、汗びしょびしょ。風呂に入る。夕方から雨雨雨。そして、火曜日、雨雨雨。風景だけ見ていると、「やや、鬱になりたいんだけど、僕」と思うけれど、なんだか、もわあーあーと暑いから体が、やや、躁。昨日なんて、アルザス地方のストラスブルグで、なっ、なんとっ38℃を記録。新記録だそうです。そうすると、ドイツ、スイス方面も猛暑日だったのかしら？お天気様のフルワンマンショウ。すべての天候をお見せ致そうと気合が入っている。微細なるヒト科の微細なる一人であるわたくし、心がやや鬱、体がやや躁。分かり難い状況に置かれている。あの目だけ笑っていないとか、目は笑っているのに口がへの字とか、こういう感じなのだ。おっ、またしても豪雨っ！

絶対に、庭の畑のトマト、ミニトマト、いんげん。嬉しそうに、あの曲を歌っているはず。

「アムシー——ンギング(イン)ザレイン」

2014.06.10 Tue

私の密かな夢は、ピアノ室兼書齋を持つこと。

二十年前に、今、これを書いている家を買った。豪邸では、もちろんないけれど、縦長の四階建て(半地下室を入れると)。まあ、各階が若い学生さんとかカップルにとっては、そこそこの面積。で、当然にして、この面積があれば、「私の部屋」が持てると踏んではいた。サロン、台所、我々の寝室、工作室、子供たちの部屋と割り振りしたら、「私の部屋」はなくなった。私は家庭内流浪の民と化し、廊下、サロン、最上階のホールと転々としてきたのである。で、今、息子、帰省中。サロンで、ブログを書いていると、カミサン、眉間皺子。おっ、娘は、今、東京じゃん、娘の部屋を占拠。展望台サロンの、その上だから、こりゃー、本物の展望台である。もう一つ上に行くと、天窗から、三十五キロ先のパリのデフェランス地区まで見えるのだ。

こんな状況下でも、小説を書き続け、ピアノを弾き続けた。

父は強し。

追記

サロンのピアノは移動できないから、私が、ピアノの練習を始めると、「その他の方々」が別室へ移動する。移動というのか、正確には、避難する。「その他の方々」は、この仁義だけは、守ってくれた。のだ。の、クレタ島の途方に暮れた。のだ。

2014.06.11 Wed

ヌストット・エンタープライズ本社。

忍びの者、胃我心臓と肝臓を引き連れた「プロぐる文学振興会会長代理・水戸野一茶夫」。

「心さんや、ここかね？ 大きいビルじゃのおー」

「はい、水戸野のご隠居、ここでございます。わたくしが調べました限り年間売り上げ〇億円」

「羽振りがいいのおー、うんじゃ、行くべ」

広大なホール中央奥に洒落たカウンター。元レースクイーンと勝手に作者が決めてしまった別嬪x2。

「へい、可愛い子ちゃん、社長、いる？」水戸野自ら、声を掛ける。ベズリー目である。

「突然のアポイントメントは、当社はお受けして居りません。申し訳ございません」

「あらあー、可愛い子ちゃんなのに、日本語、結構、まともじゃん。でも、横文字入っちゃったねえー、おいしいおいしい」

「そのほう、この方をだれだと・・・？」

「まあまあ、心さんよ、いいんじゃない。うで、社長の左門盗作っている？」

「大変、申し訳ございませんが、当社は、そのような突然のご訪問に関しましては、ご対応致し兼ねます。重ね重ね、お詫び申し上げます」

「おっ、横文字、入らなかったねえー、ぱちぱちぱち・・・、口拍手ね。で、左門君に、水戸野が来たって内線と言って頂戴、取り合えずね」

下腹が突き出した脂ぎった男が、ハバナ葉巻を銜えながら巨大な社長椅子をくるくるとイラつきながら回している。

「なっ、なんだとおー！ あの親父、しつこいなあー、本当。大体にして分かるだろうって、我々が営利団体であることは・・・、なんなんだっ、このしつこさはっ？ あの親父っ、個人の良識云々なんちゅうコメント寄越しやがって馬鹿じゃねえーのって！ 世の中はマネーマネーのダツオールっ！ ユートピストのお人よしの馬鹿じゃ、あいつはっ！ まあ、エイリちゃん、赤貧のはずだから、二万円ぐらいで、話を付けよう。通して」

受付の別嬪x2、ひたすら同じお詫びを繰り返す。

「そのほう、通さんのであれば、バズーガ砲はいかがかな？ あの哀川翔の名シーンをお見せしても吝かではないっ！」

「これこれ、心さん、家庭画報はしまいなさい」

「えっ？」

ピホピホピホ、内線電話。「あっ、えっ、はっ、はい。はい、はい、はい・・・」
「よろしいそうです」別嬪二人、ざわざわ。「なっ、なにもんなの？ あいつら」

最上階社長室。

「わっはははははあ、あんたかね、左門盗作っちゅうのは。駄目よおー、駄目駄目っ(日本エレキテル連合)、盗作は・・・」

「はっ、水戸野先生、申し訳ございません。これで・・・」白い封筒。受け取らない。

「しかし、どうして、ここを？」

「左門君、私の後ろの心臓と肝臓は、忍びの者じゃ、甘くはないぞって、世間はのおー」

「おいっ、エイリちゃん、赤ワインをお持ちしろっ、極上の」

「馬鹿垂れっ、わしは、安ワインしか飲まんっ、ブログ、ちゃんと、読めっての」

「すみません」

「先生、これをお納め頂き、何卒、穩便に・・・」

「左門君、まだ、分からんのかね。じゃ、いいやって、今さあー、二つの案をね、出したるからどっちかにして、ね。はい、その一じゃ、たとえばだよ、今日のベスト記事を世界から集めましたあー、ベストのベストおー、というサイト名にして、出展をちゃんと書く。いいんじゃないのって、ブロガーの更新力アップ。で、そのサイト自体をメジャーにしちゃえばいいじゃんって。合法的でしょ？ うで、あんたらの宣伝、ばしばし入れる、な。世界のベストブログをご紹介って

やってみ、みんなハッピーじゃん。その二、うじゃ、いいよって、無断転載するなら、な。そんな姑息なことするのなら、わしのブログにあんたらの広告入れたらいいじゃん。同じことだろって。堂々と便乗すりゃーええのんちゃうかあー。家賃なんぞ、わしや、いらん。本文のスペースは残して頂戴ねえー」

左門社長、秘書のエイリちゃんとヒソヒソ。「おい、二万じゃ、無理だぞ、これ。三桁台だろうな？ 二百万、包めっ」

水戸野ご隠居の前に、どん。大きな封筒。

「ねえ、左門君、はっきりいって、おめえー、馬鹿じゃん。金なんていらんのじゃ、わしは。元々ないから・・・。そうじゃなくてえー、無断転載をしないで、あんたらが儲ける方法を、考えてやってんじゃん。わしは、気持ちよく、ブログを書きたい。それだけじゃ。金銭亡者どもめって！ 琴線の方を大切にしろっての！」

2014.06.12 Thu

句読点

私にとっては、苦闘点であって、この位置には敏感である。

やはり、ミュージシャンなのであろうと思う。

私にとっては苦闘点であってこの位置には敏感である。やはり、ミュージシャン・・・。

私にとっては、苦闘点、であって、この位置には、敏感である。

タワシの取っ手は苦闘であって、、、、この一でも二でもいいけれど、過敏である。

花瓶いーーんっ！

と、意外にも、このブロガーはこういうところに拘り過ぎて、本文が、蔑ろにされているのである。と、その時っ！ は、思ったのであるけれども、、まああー、？ は要らないけれども、どもども・・・。

その時っ、フミフミはモミモミのモミの木だった。けれど、、、、プッパアーーと・・・、やったら、矢鱈、、鱈が出て来た鱈？ こんな文章、駄目よおー、駄目駄目っ(日本エレキテル連合)。すっ、素敵っ！ 過ぎっの杉の木っ！ 君たちは、私の愚脳を具現化しているっ！

すっ、素敵いー、すっ、素敵いー、すっ、素敵いー・・・・・・。「もおしもおし、イルドフランスの裕ちゅうもんですけどお、せんじいつうー、こうにゆうしたあー、ブログうーワイフうー玉枝ですけん

どおー、こいつ、壊れとるうー、みたいなあんでえー、ステッキとこうかあんしてもらえませんか？」「すっ、素敵いー、すっ、素敵いー、すっ、素敵いー」

「おい、下田っ、この、裕ちゅうロボット、壊れとん、ちゃうかあー？」

作者私見追記

「日本エレキテル連合」女性二人のお笑いコンビ。本記事は、「朱美ちゃんシリーズ」のパロディーである。筒井康隆、志村けんを合体したような作風。お笑い芸人というよりも、笑いのクリエイターの方が適切と思われる。笑いの芸人である。このライン(シュールな芸風と呼ばれている)の先駆者はさまあーず大竹さんであろう。大竹さん、アンジャッシュの系譜と分析する。私見では、お笑い芸人とは一線を画している。余談であるが、言語実験系コンビにナイツがいる。

「日エ連」のコントは、先記のように筒井康隆的シュールレアリズム、不条理劇を志村けんの視覚化している。この愚ブログの作者も、同じ系譜にいるものであろうと私は推測している。現在、ユーチューブ「感電パラレル」を毎日更新している。このユーチューブ狂も、この愚ブログの作者と共通しているのである。あれ？ これ、だれが書いてるの？

2014.06.13 Fri

ブログ記事無断転載者への公開私信

emily231=cocoyidd様

あなたが、個人、組織、企業、団体なのか、私には分かりませんので、便宜上あなたと致します。

5月9日以降、emily231「ござ」へお願いの公開コメントを三回、cocoyidd「少しだけ」へコメント二回およびメールを二回お送り致しました。残念ながら、6月14日現在、なんらのご対応もありません。

二つのハンドル名による八つのブログサイト内にて、無断転載された私の記事九編を確認して居ります。

私は私の記事の無断転載を認めて居りませんので、早急に、「出展の明記」ないしは「記事の削除」、いずれかのご対応をお願い致します。

私にとってブログは、なんらの営利も絡まない個人的な楽しみごとです。だからこそ、大切にしています。あまり、愉快的気持ちにはならないこと、ご理解頂けましたら幸甚です。

裕イサオ

このような記事は、私の本意ではありませんが、黙認は出来ませんので公開私信とさせて頂きました。

2014.06.14 Sat

ブログ記事の無断転載について、グーグル検索してみると、被害に遭われている方が沢山いらっしゃる事が分かる。皆さん、やはり、非常に不愉快であると書かれている。もう少し、検索を続けてみると、もうひとつの見解も現れてくる。私なりに要約してみると、「インターネットとはそういうもので、公開されているブログ記事の無断転載、こういうことが起きることは十分に考えられる。大事にする、訴える等は現実的ではない」。この見解も、私は理解できる。一理ある。そうなる、「仕方がない。インターネットの副産物ということで、黙認するしかないかな」となる。実際に被害に遭っている私自身の見解が結局、揺れ動いてしまう。揺れ動いてしまうと、当然にして、ブログを執筆しようという意欲が削がれてくる。

こういう心的状態になってしまうこと自体が、ブログ記事無断転載の本質的な被害なのだと思う。当然、長期化すると感情的になってくる。私自身、複数の記事を予約投稿にしてみたり、下書きに戻してみたり、削除したりと焦点が定まらない。そして、圧倒的アホ的更新力が、昨日、とうとう、ストップしてしまった。

たとえば、私のピアノソロの動画が沢山あるのだけれど、仮に「二宮金次郎」を検索していたら「二宮金次郎ピアノソロ」というサイトが出てくる。開いてみる。冒頭に「二宮金次郎ピアノソロ」と冠された動画。聴いてみる。紛れもなく、私のピアノ演奏だったとする。この時の、私の対応をシュミレートしてみる。ブログは、なんらの営利が絡んでいない個人的な楽しみごと。ピアノは私の職業である。営利が直撃される。同業の仲間たちもいる。もし、私が黙認する。ピアニスト裕イサオの、その職業へのスタンス、果ては音楽感、世界観まで問われることになる。同業の仲間たちのルールをも壊すことになる。これは、当然にして私の取るべき対応ではない。先方へのお願い、警告、法的処置と打開しない限りは、このような手順になる。

では、ブログとピアノは違うのか？ 「営利の絡まない個人的な楽しみ」。その個人の人格、尊厳、著作権……。その個人のスタンス、人生、世界観。結論として、営利なんぞは判断基準にはならないのである。同じことである。ピアニスト裕イサオだって、一個人である。違いはない。

マルセル・デュシャンの代表作、通称「大ガラス」。このレプリカが世界に三点ある。この三点のレプリカには、「原本と相違なし。マルセル・デュシャン」と署名が入っているのである。これが、社会のルールと呼ばれるものだ。

2014.06.16 Mon

ジャズと譜面とサッカー

サッカーワールドカップ2014。いきなり、スペイン対オランダ。前回の決勝戦の組み合わせ。スペイン、前回の優勝者であり、ワールドカップよりハードとも言われる欧州選手権を二度制している。世界ランキング一位。

試合開始三十分後ぐらいに、解説者の一人であるアーセナル監督アーセン・ベンゲルが解説というよりも独り言のような感じで、「今日のスペインは型に嵌り過ぎだな・・・」。私、「なんだか譜面見ながら演奏しているジャズグループみたい」。

私と息子の予想は、1-0ないし2-1でスペイン。

ところが、アーセル・ベンゲルと私の独り言が的中してしまった。5-1でオランダ。

譜面を見ながらぎこちない演奏のスペインに対し、スピード、力強い動き、咄嗟の判断、アドリブ、湧き出るインスピレーション、まるで極上のフリースタイルユニットみたいなオランダ。

頂点を極めると守りに入る。金持ちがお金を出したがる。人間心理はおもしろい。

頂点も極めていない、お金もないわたくし、心はオランダ(オジギャグじゃありません)。この試合を見て、フリースタイルのあるべき姿が見えたのである。フリースタイルを人生という単語に置き換えても、差し支えはないと思われる。

2014.06.17 Tue

パソコン音痴の無断記事転載対処レポート(急遽追記)

やっと、この件、進展の目処が立ってきた。もしかすると、私のこの経験、他のブロガーさんのお役に立つかも知れず、以下、レポートしてみます。まず、私は、多少改善はしてきているけれど、「パソコン音痴」。初歩的な対処方すら分からないでの対応、この辺りを簡潔にまとめてみます。

1 どうして私の目に留まったのか

これは、私の記事内に頻繁に「わたくし、裕イサオは・・・」、この文章が出て来るので「裕イサオ」をエゴサーチするとヒットする

2 ヒットしたブログのハンドル名を検索してみた

複数のブログ。複数の無断転載記事

しかし、個人なのか、組織なのか企業なのか判別が付かない。私の常識的な判断で、ブロガーさん自体へお願いコメントを複数回お送りする。返信、対応なし。ここで行き詰る。「人の気配」がない。少し感情的になってくる。インターネットという暖簾に腕押しの徒労感がなんとも不愉快。ブログ執筆に心的雨雲。対処方を検索している内に、ドメイン調査という言葉を発見。考えてみると、個人のブロガーさんが無断転載をする。非常に矛盾している。書くことが好き、書くことによって自分の立ち位置を確認する等々、他人の記事の転載、意味がない。そうになると、個人ではない可能性が大きくなる。なんらかの理由で、ブログを更新しないといけないとなたか。

3 複数の無断転載ブログのドメイン調査を行う

IPアドレス、ドメイン、公開連絡窓口が出て来た。公開連絡窓口にお願いのメールを入れる。2日後に丁寧な返信が来る

ここで、やっと、「人」が出てくる。こうなると話が進展する。

無断転載された私の元記事のURL。

無断転載記事のURLリストを作成する。注、記事のチェックをするために、たとえば、何年何月と叩くと、その月の全記事が出てくる。その月の全記事のURLを私はコピーしてしまっていたので、該当する私の記事の部分のURLへ訂正する。

公開連絡先へメール送信。この辺りが良く分からないのだけれど、公開連絡先とブログオーナーは必ずしも同一ではない。論理的にはそうなるはずである。特に地方のコミュニティーブログポータルサイト(私には意味が分からない)を代行して取り纏めているインターネットマーケティング会社のようなものがある。FC2のようないわゆる大手ブログサイトは、各サイト自体が公

開連絡窓口になっている。

私のケースは、代行窓口および一記事に関してはブログ運営サイト自体の窓口へ、上記リストをメール送信。確認後、窓口がブログオーナーへ削除依頼。

なんか、やっと辿り着きましたという感じです。カフカの城の世界。「人の気配」がない世界で、感情的になったり見解が揺れ動いたり、なんか嫌な感じでしたが、すっきりしました。でも、今回は「たまたまグーグルにヒット」しただけで、氷山の一角なのでしょう。その「冰山」を脳内シュミレートしてみると、もう、お手上げ状態。もう、それぞれの良識にお願いするしかないのですが、この人間の営為の中に、必ず、こういうことが現れてくる。盗作、盗用、無断、こういう貧しい営為は根絶したいところですが・・・。

私がいつも買い出しに行くスーパーのレジ。時々、屈強なガードマンが私に寄ってきて、「ムッシュー、失礼ですが、リュックの中、拝見させて頂いてよろしいでしょうか？」私「もちろんですよ、でも、ガードマンさん、私は物を盗んだら、盗みましたって、ちゃんとそちらに言いますからご心配なく」。ガードマン、レジのお姉さん、爆笑。

解決しないと、「ピアノは私だ2」自体が、ブログ記事無断転載についてのブログ、記事の中に検索のために必ず私の名前を入れる。そんな記事、当然、だれも転載できないですよ、なんて、馬鹿なことを考えて居りました。無断天才ですね、そこまで行くと(笑)。よっし、これで、伸び伸びと愚記事書けるっ！大ブロガー養成ギブスを外した裕センセ、一挙に7記事を予約投稿にしてみました。アップを見送っておったのであります。心的雨雲のせいで。

急遽の追伸

インターネットに詳しい方からご教示頂きました。涙涙の深謝です。

どうも、スパムブログと呼ばれるものらしいとのこと。私には何のことなのか、カンパンチンパンなのですが、「機械が」特定のキーワードを基に、検索コピーしてブログをアップする自動システム。もちろん、その理由は、同時に多数のブログを開設更新する。その根源的な理由は、当然にして……。そうなると、個人である人間ブロガーの心情など木っ端微塵。ふむ、「私の記事を選別した悪意はない」。これは良しである。でも、そのシステムをプログラミングした「人間」がいる。ターミネーターの世界と、まったく、一緒。ふむ、個人ブログ防衛隊隊長裕イサオとすれば……。忍びの者、ターミネーター(機械にはいい機会ね。そりゃ、悪意はないよ、彼らに)、ジェームズ、ネットのスペシャリスト、スパイダーマン、本物だよ網がねえー、バットマン、流離のピアニスト1、ジャズ菌さんたち、シニアーマン、おっ、俺だっ、今、そちらに向かったんで、よろしく。親愛なるプログラマーさん。インターネットは蜚気楼ではないこと、再考して下さいね。「人間」が先、ということ。著作権とは人権と同義である。機械が理

解できるまでは、そういうことは控えて下さい。

2014.06.18 Wed

巨大化した裕センセ

「コロンダ警部(いつの間にか警部になっている)、とうとう、巨大裕センセが東京湾に出現してしまいました」

「ふむ、そういえば筒井康隆先生のご本の中に、評価されない科学者が巨大化する話があったはずだ」

「うーん、あったようななかったような・・・(あります。作者注)。それにしても、裕センセ、巨大化しても、全然、威圧感がありませんねえー、やっぱ、痩せ型の老眼鏡を首から吊るした怪獣なんてねえー、相変わらず、にこにこしているし・・・」

「まあ、しゃあないけどさあー、裕センセ、小学校とかに躓かなければいいんだけど、公共物破損で逮捕しないといけなくなる。なんぼ、盗作問題で身悶えの果ての巨大化といえどもな。そうなると、被害者なのか加害者なのか、訳が分からなくなる」

「いや、警部、さすがに裕センセ、ジャズメンだから身のこなしは軽いのですよ。公共物を踏ん付けないように上手く歩いておられます。あっ、巨大マイクを持ち出したあー！ おっ、北島三郎の与作の替え歌ですっ！ 当然、盗作。相当、にこにこしながら怒っておられるのですねえー、裕センセは。しかし、あんな愚記事なのに？」

「しっ、下田君。静かにっ！ 愚ぐつとくる愚ブロ愚とセンセは自らおっしゃられている」

「三回も愚付けちゃって、裏自信じゃないすか、それ？」

「いやいや、下田君、愚脳から振り絞られた愚記事だよ、愚脳なりに心血注いでおられるのだ、センセは」

「なんか、家事の合間にチャカチャカなんじゃないすか？ 裕センセ、元泣く子も黙る凄腕営業マン。メール返信なんか、十二秒。ややこしいいざこざはあっという間に解決。解決などない、そもそも問題がないからだ、なあーんて、マルセル・デュシャンの一節を持ち出したり、怒り狂うお客さんと、そうですよねえー、ひでえー会社だ、給料安いし、サービス残業ばあーかりだし、一緒に訴えましようなあーんて仲良しになっちゃったりお手のもんすよ・・・。しまいには、そのお客さんと肩組んで飲み屋で一緒に歌っていたり、お客様の立場に立った営業なんて嘘八百っ！ お客さんの怒りを空中分解させるプロですよ」

「おいおいおい、下田君、そこまで、本当のことをばらさなくても・・・」

「絶対に、下積みがあまりに長いから逆切れ巨大化の売名というのか売体行為に違いありませんっ」

「まあ、そういう見方もあるよねえー、下田君。一挙に無名からの脱出。センセも超ラジカルな手段をとったわけだね」

なんなの、この小説？

その後、盗作問題解決。裕センセは元の姿へ戻りました。

2014.06.19 Thu

インターネット再考2

今日は、6月19日。5月9日から、頭を悩ませていたブログ記事無断転載について、解決の目処が付いた。随分と勉強になった。

何度も書いている通り、私はパソコン音痴。昨日まで、「スパム」という単語の正確な意味さえ知らなかった。なんとなく、日本語の「迷惑」という感じなんだろうなあーという程度。「スパムメール」「スパムコメント」、そして最後に「スパムブログ」というのが出て来た。ついでに「スパムブログの隠しリンク」なんていう単語まで出て来た。その次に「アフィリエイトブログ」ですって！ ブログの四割近くが該当している、なんても出て来た。結局、私はなぞの組織「スペクトラム」ではなく「スパム」に翻弄されていたわけである。もう、こうなると忍びの者とターミネーターが合体している感じで、お手上げである。

凄い世の中になったもんだねえー、なんて、縁側、豚の瀬戸物の中の金鳥蚊取り線香と団扇、こんな感じで親父は呟いたのである。まあ、そういうもんをプログラミングしているのは人間ではあるけれど、たとえば、その方が私のブログを読んでいるわけではないし、私の名前さえ知らない。あとはシステムがキーワード「アホブログ」なんちゅうコードで作動する。私の記事が引っ掛かる。コピペする。私という人格個人著作権への悪意、中傷、誹謗なんてものは、まったくない世界で、「自動的に」、人格個人著作権が無視される。これでは、私の人間らしい怒りはどこに行くのかしらあー、となる。やはり、もう、カフカ的世界に紛れ込んだとしかいいようがない。私の人間らしい怒りも空中分解してしまった。腹を立てたところで、そのターゲット自体がないから、自爆だねえー、こりゃ。

私のいくつかの無断転載(者)へ宛てたメッセージ記事はなんだったの？ 「者」はどこにもいないから、自動販売機に向かって書いていたわけだ。あーあ、アホらしいねえー、ったく。

もう、パソコン音痴のまんまでいいのだ、そうなるとうとう。でも、良かった、勉強になったし、今後の対処の参考にもなった。おおー、段々、一端のプロガーになってきたぞっ！

2014.06.19 Thu

笑いのクリエイター

こちらフランスはイルドフランス地方、くわっと夏日になった。ちょっと、くさくさしていた気持ちも晴れてきた。こうなると援護射撃的に、「日本エレキテル連合・感電パラレル」「とるるさ
まぁーず」をユーチューブで見捲くるのである。

くくくうーとかげらげらとか、ふっふふとかやっているると脳内錦状態が現出する。

いわゆるお笑い芸人さん方が「シュールな芸」と呼んでいるもの。先日も書いたが、先駆者はさまぁーず大竹さんであろう。これは、芸人さん方が認めている。ユーチューブっていて残念なのは、さまぁーずのみの番組があまりなく、諸々のお笑い芸人さんと混ざった番組が多い。そういう時、シュールリアリストの大竹さんは、あまり、しゃべらない。そもそも、彼は、俺が俺がというところもないし、受けを狙うとか、そういったお笑い顕示欲がないのだろう。確実にお笑い芸人とは一線を画している。笑いのクリエイター。文芸家。短編作家といった趣である。この大竹さんの持ち味を最大限に引き出している三村さんの存在も大きい。この普通のおっさんが横にいるから際立つのである。おもしろいことに、やや意外な感じも少しするのだけれど、三村さん、大変な読書家であることが分かった。大竹談話では、書店で平積みされている本は全部読んでいたとのこと。凄い読書量である。

その系譜の中から、とても素敵な女性二人組みが出て来た。略して「日エ連」。まず、アンドロジィヌス(両性具有)的雰囲気。筒井康隆的シュールリアリズム。これに志村けんのノンセンスとどたばたが加わる。おもしろくないはずがない。そのブレインである中野さん。その存在を際立たせる橋本さん。

十五年前、某出版社の編集者が私の全小説作品を読んでもくれたことがある。初期の散文詩形で書かれた(いわゆる)純文系のものが圧倒的に良いと言われた。お笑い短編集には、やや、眉間に皺。「裕さん、筒井康隆も(エッセストとしての)山下洋輔も我々には過去の人です」とおっしゃった。「そんなことは絶対はない」と私は反論した。その証拠が、こういう形で現出しているのである

。

2014.06.20 Fri

「おりゃー、どいつだっ！ 裕イサオの記事を無断転載したやつはっ！ 芹沢わぁー盗ちゅうのは、どいつやぁー！ (以下、暴力言語描写は割愛)」

「おい、忠太郎、先方にも事情があるだろ？ 釈明聞いてからにしろ(小栗旬の声音で)」

「すみません、大将。おりゃー、舐めとんのかぁー、おりゃー。出て来いいー、芹沢わぁー！ ブロ愚の天辺はぁー、イサオが取るのじゃ！」

「ねえ、忠太郎、最後の愚はいらないじゃ、ね？」

「すみません、大将。うりゃー、出てくるまで、ひつこくひつこく、書いたるでえー。わしら、フリーズジャズ学園を舐めとるんかぁー！ 楽器持って、次は来るでえー、校舎は飛ばんけど、脳が変になるでえー、わしらの音聴くと・・・」

「裕君、私が校長の二ノ宮です」

「俺は、あんたに用はねえー、盗と話を付けたいだけだ」

「いや、そうは申されても、わたくしが当学園の責任者」

「俺は、本人と話をしたい。上から話が行く。こういう経路は好きじゃねえー。俺はぁー、個人主義者。お上の世話にはならん、そういうポリシーなんだぜっ」

「あっぱれっ！ わたくし、君のポリシーは分かった。しかし、わたくしも隠れフリーズジャズ狂、許してもらえんか？」

「むむっ」

「なっ、頼むっ！」

がやがやがや。

「校長先生えーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーっ！ 裕さんっ、あたしたちが・・・、やりましたぁー、ごめんな

さいイイイイイイイイイイイイイイイイイ、あんまり、プロフィール写真が格好良くて・・・、ごめんなさぁーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーい」

AKB48のような娘たちが、校庭に飛び出してきた。

小栗旬のものまねを辛うじてキープした裕センセ。

「おい、忠太郎、俺が負けたんだっ、俺の負けだ。さっ、帰るぞっ！」

といいながら、ラッキーストライクの本に火を付けた。

追記

こんな結末を裕センセは夢見ていたのである。

2014.06.21 Sat

トマトと赤ワイン

庭の畑で採れるトマトの味は格別である。
太陽の形を、赤い皮の弾力が包み込んでいる。
太陽系、いつから存在しているのだろうか？

赤ワインも、南仏の陽光が瓶の形に縁取られている。
とても綺麗である。
私は、毎日毎日、ちびちびと陽光を吸収しているのである。

快晴の日、私は時よりウルトラマン。

2014.06.22 Sun

えー、わたくし、略して天才ブロガー。正確には、天才(的な愚脳から紡ぎ出される倒錯錯乱文体を縦横無尽に駆使した愚記事を書く)ブロガー。えー、昔から、フリージャズ界にはフリー落語というものが存在して居りましてな、創始者は初期山下洋輔トリオの中村誠一。タモリ、坂田明と受け継がれましたものの、風前の灯火。そこで、わたくし、天才(略)ブロガーが、更にパワーアップせしめて、ここにご披露申し上げる。超絶スピードでやる。これが、ポイント。毎回、アドリブ満載にする。言葉のフリージャズ。ではでは、アーユーレディー？

おい、ちょっと、ブラッド、背筋をピットせんかいっ！ そこの髭ジョリ取ってくれだと？ わしゃー、途方にクレイグ。ご注文は？ えーとおー——、エデット・ピラフ。イブっ、なにモンタンモンタンしてんでえー——。あらっ、ドロンしちゃおう。それは、駄目ジャン・ギャバン。

ジョージは狂うねえー。おっ、会場を見渡すと、ピース・ブス難。などど、申しましてな、おい、はつつあん、そこのタバコ屋まで、ひとつ走り、カール・ルイス。えっ、ジョニーはデブなの？ 僕は匂う——ん。なんだあ、コマネチ？ 谷桃子なの？ それっ、三村っ！ おおおー、高けえー。ちょっと、そこのショーンを捏ねりなさい。おっ、ジェラチンのフリップになった。カトリーヌは？ どぶろく？ ソフィーは丸そうだけど……。イザベルは？ あっ、じやねえー。

と、超絶スピードでやる。できれば、落語家姿で、扇子を持ち、蕎麦を食う動作などを随所にいれると、マッチ諸ベターである。または、超スローバージョンで……。

たぶん、警察は来ないと思うので、大丈夫。

2014.06.23 Mon

これって、インターネット依存症のひとつらしい。それをやってみた。アルコール依存症に、もうひとつ病気が加わっちゃったの？ うなことはない。私は手仕事人間であるから大丈夫。

で、続々とまではいかないけれど、なんだか私の記事の無断転載が複数、新規に出て来た。ちょっと、呆れた。どうしてヒットするのか？ ちょっと前に書いたけれど、私のご愛読者様方はご存知の通り、私が多用するフレーズ「わたくし、裕イサオは」、これがコピー記事内にあるから、検索エンジンにヒットする。

「裕センセ、もう、手に負えませんな、こうなると・・・」

「うん、下田君」

「ヒットしているのが氷山の一角であれば、お手上げですよ、これは。でも、どうして裕センセの愚記事を転載するのかしらあー？」

「うん、天才なんだろうねえー、僕」

「羽毛、盗用人という人種ということで、サムネイルしましょうっ！」

「下ちゃん、泣き寝入りのこと？ それ」

「えっ？ センセのピアノ演奏も荒らされているかも・・・」

「うん、アリエル・ドンバルだねえー」

「センセ、酒飲んで、北島三郎、著作を歌いましょうよっ！」

「ううーん、どうしようかちら(あっ、久保の兄貴の文体だっ)・・・」

「または」

「ふむ」

「センセの秘密のアッコちゃん。シニアーマンとして・・・。ねえー、センセ、バットマンライジングの本物の衣装用意しておますねんけんど・・・」

「下田、おま、アホだねえー、俺が著作権侵害で映画会社諸々から訴えられるっのっ！ 空飛ぶ著作権侵害罪だよって！」

2014.06.24 Tue

下書きの山登り

「裕センセ、下書きが山の様と言う安直比喩のように溜まって居りますが・・・(さっき、全部予約投稿にしました)」

「下田君、るっさいねえー、来週、わしは、クリスチャン・バツサールとのデュオコンサートなのよ。今、我々の演奏チェックしているの、静かにして頂戴っ(この記事自体が予約投稿だから、コンサートの翌日にアップされる。あっ、コンサートの宣伝にまったくならんねえー)」

「どうして、アップしないのですか？」

「えっ、あっ、いい感じいー(ローラの口調で)」

「いちいち、その出展を文章に入れるのですか？」

「えっ、なんか、拙いかちら(久保はつじ兄貴)?」

「羽毛っ、裕センセ、書くなら書く、書かないなら書かない、どっちかにして下さいよ」

「おっ、おっ、いい感じいー(ローラの口調で)」

「センセえー、聞いているのですか？」

「えっ、だあーーら、聴いて居るのだ、我々の演奏を」

「どうだね? 下田君」

「センセ、最後のお笑い八時のニュースって、今週のベストお笑い動画サイトに選ばれていたんですよ?」

「うん、お笑いサイトにね、お笑いだろ」

「センセ、あの、日本語が一部・・・。苦言を申して頂けませんかって相手にはいわんですよ、おっしゃるとかですよ、普通は。苦言を申し上げるは、本人が述べる時です」

「うううううう、そう、僕も気が付いていたの、すつれいをばいたすますたあー」

2014.06.25 Wed

サイバー戦士イサオネーターと化し、謎の組織「スパムラム」と戦っていると・・・。

おっ、エゴサーチビームうーー！ グーグル通砲おー、撃てえいっ！ ドメインiiiiiiiiん調査ぁ！ とか半日ぐらいやってみた。やってみて、おっ、これがインターネット依存症の初期症状なのね、と直ぐ理解。しょ、しょ、症状寺っと歌いながら続けると、本当になってしまう。アルコール依存症に+。やや、禁治産者に近付く。

ブログ中毒は、能動的なのでよろしいのであるが、依存は拙い。と直ぐに別のことをする。

庭の草むしり、芝刈り、トマトの茎を八の字にした麻紐で支え棒に結ぶとか、おトイレの掃除を丹念にやる。風呂桶、洗面台、段々ハイになり洗濯機の表面まで掃除する。もう、盛り上がり、ガスレンジ、食洗機とピカピカにしてしまう。ああー、いいねえー、手仕事はあーと眩きピアノを弾き、サッカーの試合を見る。

さようなら、スパムラム、宇宙の彼方へ。スペシウム光線っ、しゅわっ。

2014.06.26 Thu

本日は6月26日2014年。5月9日から頭を悩ませていた、「ブログ記事無断転載」について、ほぼ、決着が着いた。この件の記事は、これで最終になると思う。

「無断転載数」サイト11 記事12

「削除されたサイト数」10(記事11が含まれている) 公開連絡窓口より、ブログオーナーへ削除依頼。いわゆるスパムブログと呼ばれるもので、私が一番危惧していたのは、「私の記事だけ削除される」。これでは意味がないと思っていた。私以外の記事の無断転載はそのまま……。無断転載サイト「自体」が削除されなければ、意味がない。人権著作権、当然、個々の問題ではあるけれど、その個々の集合体が社会と呼ばれるもの。私の人権著作権のみの保護では大いなる矛盾が生じる。良かった、結果、サイト自体が削除された。良かった、私の芸能家としてのポリシー上の矛盾が生じなかった。最終、ピアニスト裕イサオの全ポリシーが問われていたとも言える。この部分は、どうしても曖昧には出来ないのである。芸能家の宿命なのだろう。黙認は出来ないのだ。

「グーグル検索エンジンよりの削除」現在、グーグルにサンフランシスコのスパムブログの削除依頼を出している。承認待ち。

今回の経緯は、「人のいない世界」的な騒動ではあった。自動ブログ。もちろん、営利のみのブログ。営利ブログ自体の存在に異論はない。私のような無営利個人ブログの領空侵犯がない限り……。私の職業が、とりわけ特殊なものではないけれど、ジャズピアニスト、私が芸能家と呼ぶカテゴリーに含まれている。その一人である、私の立ち位置が問われたわけである。問われたら、答えを出す以外に方途はない。そうしないと、ピアノの蓋を開けることさえ出来なくなってしまふ。でも、人権著作権はピアノ弾きのみの問題では当然にしてない。多少、敏感になるのかも知れないけれど、それは大切なことで、個々の人間の問題であり、その集合体である世界の問題でもある。私個人は、理不尽なこと、納得出来ないことにはNonである。一人一人の人権著作権、こういう世界の構成要素の中で微細なものが踏み躪られる。これが始まると、醜悪な世界が現出する。世界史を見れば、一目瞭然なのだ。曖昧な見解は危険なのである。

2014.06.27 Fri

泣き笑い

またまた、閲覧数が一桁と二桁を行ったり来たり。一時、20の大台に乗っていた。
なんだか、良く分からないのが、たとえば、閲覧者が11、ページビューが68なんていう日がある。溜め読みなさって下さる方々がいらっしゃるみたい。

以前にも書いたけれど、私のブログの閲覧数とライブハウスの動員数がほぼ同じである。もちろん、主催者がいてシアターでなんていう時は100なんていうことにもなるけれど、ライブハウススペースだと、そんなことはない。

私のブログが面白いのか面白くないのか、今一つ、自分では分からないけれど、まあ、私のピアノと一緒に、眉間に皺の方の方が、熱狂的ファンより圧倒的に多いはず。これを、眉間皺子さんの眉間をほぐすような演奏をすると、熱狂ファン子さんからパッシングとなる。結局、マニアックな方々にしか受けない体質が顕著なわけだ。これは、今更、治らんわな。

面白いのは、ピアノとかブログではなくて、裕センセ個人は、大抵の人に「超面白い」と言われる。それなのに、ピアノとかブログが介入すると、一部にしか受けなくなる。あっ、そうそう、スパムブログの方の私の記事の閲覧数が、私のブログよりずっと多かった。変な表情になりました。あの、笑っているのか泣いているのか分からない顔。

たまに、ふむ、本音毒舌ブログにしちゃおうか、とも考える。でも、私は社会事情には触れない主義なので、そうすると矛盾する。それから、人の批判等もまったくしない主義でもある。そうするとねえー、本音毒舌ねえー、無理だつてよ。

暇潰しにちんたら書けばいいじゃん、とか気楽な感じいーー、っても、私は文章を書くスピードは時速800キロぐらいで、一記事に要する時間は5分程度。暇潰すには、10編ぐらい書かないといけなくなってしまうから、ほれ、山のように下書きが溜まる。予約投稿にする。アホ更新狂のように結果になってしまう。でも、裕センセ、その執筆内容をお考えになるお時間が8時間ぐらいなのではございません？ 約、長く見積もっても2秒弱なのだ。愚脳が言葉の貯水池状態だから、蛇口を捻ると愚ぐっと、どばあーーなのだ。うなもん、だれが、読むかあーばあーか、というご意見の方が、むしろ、正解なのかも知れんのである。またまた、泣き笑い。

まあ、脳内が音だけになるのを、ブログでちょっと防いでいる感じかしらあーー。

2014.06.28 Sat

ソロピアノ

ぼちぼち、パリでも、ソロピアノ公演をしようかしら、と思い始めているわけではなくて、そういう声が耳に入ってくる。そういわれてみると、日本では、基本、仲間を連れていけないからソロでやる。でも、こっちは仲間がいるからユニットになる。そりゃー、ソロって、ある意味、家での練習だってそうだから、わざわざねえーとなる。「一人になりたい」なんちゅう精神状態でミュージシャンがジャズクラブには行かない。心の盛り上がりを求めて行くのであるから、取り立てて、ご要望がなければ、ソロピアノっていう感じには、あんま、ならない。でも、なんとはなしに「裕センセがソロで弾くとどうなるの？ 聴いてみたいわ・・・」という声が耳に入る。そして、最後に、この「わ」が入ると、急に、ふっふっふっ、と、なる。

まあ、ソロピアノだと、私の脳構造が、全部、ベロリン状態。このベロリンが聴きたいというお方には、表彰状とテッシュを受付でお配り致す所存でございます。

ソロでやるとねえー、私がメロマンであることが、ばればれのメロンパンなのだよ。志村さんと柄本明の芸者シリーズの中に、「ねえねえ、けんやっこさん、魚の目は、ね・・・」

ぎょ」。

このギャグが、脳内木霊する。「木霊」っていう漢字、超いい漢字いーー。

2014.06.29 Sun

たとえ話

何度か書いたけれど、私の家は丘の上に建っている。日本式階数だと、一階が庭の高さになる。入り口、台所、サロンのある二階から見ると、庭の位置が地下に当たる。シティーハウスなので左右が隣の家とくっ付いている。家の幅=庭の幅。私の家は「その通り小さい家第三位」だから、家=庭幅が五メートル。

母屋から推定二メートル五十センチの所の中央に、樹齢百十四歳の菩提樹。つまり、5x5mの正方形のど真ん中に菩提樹が立っている。庭の中央から見ると、どう見ても、私の家はその菩提樹の上に「生えている」ように見える。たぶん、この菩提樹と私の家は連結していると思っている。

昨年冬は枝切りをしなかった。プラス、今年のフランスは好天が続いているせいなのか、力瘤のような幹から伸びる細い枝がぐんぐんと伸び、ぐんぐんと太くなり、菩提樹の葉っぱの部分の高さが五メートルぐらいになった。直系も五メートル。テラスのある5x5mの部分が5x5x5mの緑のソフトクリームみたいな葉っぱの固まりにすっぽりと覆われた。日除けのオレンジ色の巨大パラソルの出番はないのである。二階のサロンの窓からは、グリーンソフトクリームしか見えない。展望サロンの視界がこのようになった。

夕方、ピアノの練習を終え、庭のテラスでビールを飲みながら、その菩提樹を見上げる。夏なのに、あまりの葉っぱの量に、日の射さないソフトクリームの底辺部分の葉っぱが既に枯れている。夏なのに、テラスを毎日掃き掃除しないと、枯葉に覆われてしまう。ルネ・マグリットの絵に、空は快晴なのに地上の家の周りは夜というのがあるけれど、菩提樹の下だけ秋。底辺内部の葉っぱが枯れていくから、緑のソフトクリームの内部はだんだん空洞化していく。日の当たる葉っぱは元気一杯。夏の真っ只中っ！ でも、その下は秋。そこでビールを飲む男は人生の秋。夏なのに・・・。

あれっ？ たとえ話じゃねえーじゃん、これ。実話だぜってよっ！ セ・ショボオーン。なんのこれしきっ！ はい、それでは、二十八ページ「難のこれ式」を開いて下さい。はい、5x5は？ 好きな数字にしちまって構わんです。

2014.06.30 Mon

上履き

私は室内用に、ブルース・リーが履いていたような中国風黒の上履きを使用している。五百円ぐらいの安物だけれど、ピアノの練習時のペダル操作がし易いので愛用品となった。半年ぐらいで、よれてくる。いつも買い出しに行くハイパーマーケット、あら、その日は、私のサイズは白しかない。小学校の上履き、そのものになってしまう。仕方がない、ちょっと先の別のマーケットへ。

革靴のサイズより一回り大きいものを、いつも購入するから、試し履きもせずに即、購入。帰宅し、試し履きもせずに値札だなんだを取る。履く。あっ、がばがば。見てくれが同じだけれどメーカーが違うのだろう。私がいつも購入するマーケットのものより一回り大きい。ありやりやあー。

五百円「も」出したのにがばがば。くやしいから、二日間履き続ける。予想的中っ！

カミサン「あなた、なんでいつもの上履き履かないの？ パタパタパタパタ、そのスリッパ止めてくれる」

私「スリッパじゃないよ、いつもの上履きなんだけれど、ちと、大きいわけ」

「だったら、領収書持って取り替えてきたら？」

「もう、チケット全部取っちゃったし、二日も履いているから駄目」

「どうして、試してから買わないの？」

「靴脱ぐのが面倒なの・・・」

私、眉間皺子さんの脇を、パタパタパタパタ。これって、オジサン音のひとつなんだろうねえー。私はズボンの試着もしないから、同じようなことが起きるけれど、ズボンは音はしない。まあ、衣類に無頓着だから、面倒なのだよ。出来る限り安くて、着心地が良くて、えっへん、私自身を引き立てるものしか身に着けないのだ。衣類は俺の後だ。

2014.07.01 Tue

ぼけぼけ音頭

私の愚記事「いたちごっこ」へ、私の郷里、福島県いわき市在住の陶芸家、石井光栄さん(遊心窯)よりコメントを頂いた。

コメントの中に、石井さんの素敵なブログ、および、詩が添付されていた。私は返信をお送りし、再度、石井さんからご返信を頂いた。その中に、添付されていた詩の福島県の夏井弁バージョンが添付されていた。私は拝読。笑いながら目頭を押さえた。そして、石井さんへ再度の返信を差し上げた。

その私の返信の中に、標準語と方言はクラシック音楽とジャズに聞こえると書いた。もちろん、標準語のエスプレントとしての美しさも十二分に承知している。けれど、方言の中の「ブルース」「ソウル」、これがジャズメンの心の中枢を直撃するのである。しかも、私が慣れ親しんだ方言である。膨大な思いが込み上げてくる。その思いは、ここでは書かないけれど・・・。

石井さんのブログの中に、その詩に曲を付けてみたいと書かれてあった。私もミュージシャンの端くれ。色々と考えてみた。「ぼけぼけ音頭夏井弁バージョン」、この素晴らしい詩と対抗できる音はなんなのか？

私の音楽脳内での閃きは、メロディー楽器ではなく、パーカッション系。小太鼓とか金物の音。リズムはノリで変幻自在でいい感じがしている。笛、歌のない夏祭りの民謡のイメージが湧いてくる。ないしは、ジャズ風だと、ウッドベース一本で茫洋とした伴奏を付ける。いかがでしょうか、石井さん？ または、もう、ラップにしてしまう。これも、一案かも知れません。電気楽器に囲まれて、超格好い演出でやってしまっても面白いかも・・・。

以下に、石井光栄(遊心窯)作「ぼけぼけ音頭夏井弁バージョン」添付させていただきます。皆さん、ご一読頂けますと幸甚です。福島のスウルが聴こえてくるはずです。

<http://yuusinn.happy104.info/ondo-natui.html>

2014.07.02 Wed

お金持ち

なんとなく、久しぶりに記事を書く。ずっと、予約投稿だった。なんとなく、ブロッキングフィールドが戻ってきた感じがする。

インターネットでサッカーワールドカップの日程確認をしていたら、クリスチャノ・ロナウド、所属クラブの年俸が二十三億円と出て来た。副収入を入れると年収四十三億円。ライオネル・メッシが四十五億円。勢い付いて、色々なサッカー選手、日本の芸能人の年収なんかを見ちゃった。おっおっおっ、日本のお笑い芸人さんたちの年収が、ヨーロッパのサッカーのスター選手に近いことが分かった。随分、稼いでんだねえー、皆さん。更に勢い付いて、各国の一般人の平均年収というのを見ちゃった。

この平均というのが曲者で、1000万、300万、300万と三人いると、足して三で割る。マジョリティーとすれば、300万が現実に近いわけだ。因みにフランスの「平均年収手取り」が280万円と出て来た。私は四半世紀フランス国でサラリーマンをしていたから現実を把握している。管理職ではない一般事務の月収のマジョリティーは1400euro前後である。フランスは基本的にボーナスはない。当然である。年間五週間の有給休暇があるから日本式のボーナスは存在しない。

ユーロと円の換算率で変動してしまうけれど、実感とすれば年収200万という感じ。ここから住民税、建設税、資産税が引かれるから、どんぶりだと170万ぐらいかしら。これでは食えないから、ほとんどの家は共稼ぎである。

因みに日本国は、380万と450万というデータが出て来た(どちらが正解なのか分からないけれど、たぶん、前者が多数派なのだろうと推測する)。バブルの頃は750万だったとのこと。

へえー、やはり給料もデフレなのですね。確かに、日本国の生活が豊かな感じはあまりしない。フランス国、かつては不動産が日本の三分の一ぐらいの値段だったけれど、今や、日本より高くなった。物価も高い。もう、唯一、低賃金でも家庭崩壊しない理由は、基本的に学費がないことだろう。原則的に国立大学しかないから日本のような高額な学費の必要はない。それと、残業がない。そういう意味で、あまり、生活の圧迫感がないのかも……。ただし、持ち家があれば、だろう。パリの家賃なんぞ、一月の給料が飛んでしまう。

フランスは、もう、永遠の不景気という感じだから、逆に、生活が切羽詰っていますという感じが無いのかも知れない。豊かに貧乏シフトだね。私なんぞ、絶対に先駆者である。物欲がないから金銭欲もない。第一、他人に金持ちに見られたい欲求なんぞまるっきりない。年収四十五億なんてあったところで、自分じゃ、到底、使いきれん。お金は家族のために稼ぐという意識しかない。

でも、お金持ちになると、ホンダシビック1997年型というわけにはいかんのだろうなあー。でも、ゴム草履履いてフェラーリでコンビニに明太子のおにぎり買いに行くなんちゅうのは、ちょっと、粋かもしんないね。それか、僕は軽自動車が好きでね、なんていって、スズキアルトワークスに乗っているお金持ちなんていうのも、いい感じかしらね。

「えっ、下田君、お金がないの？ あっ、そう、うんじゃ、これさ、いつも登場してもらってっから気持ち気持ち、持って行きなさい。子供に自転車買いたいわけね、うんまあー、二億もあれば足りるかしらねえー。いいからいいから、押入れ閉まんねんだよ、ぎっしりでよおー」

わっはははははあー、ピアノの技術はお金で買えないのだ。こっちが欲しいの、私は。

2014.07.03 Thu

「あなた、金庫室増築しないと、もう、場所がありません」

「あら、もう、いっぱいなの？ 金庫入れる部屋じゃなくてよ、銀行の地下の金庫室みたいの作るしかないかな。おい、玉枝、安藤多田駄与先生に電話してみろ。百億ぐれえで足りんだろ」

「はい。でも、あなた、金庫自体の整理をなさって頂けません。暗証番号がどの金庫なのか、どの金庫になが入っているのか……。金庫が多過ぎてちんぷんかんぷんです」

「あっはははははあー、図書館みたいになっちまったもんな、金庫のよ。でも、玉枝、どの金庫も現金と金の延棒とダイヤモンドしか入ってないよ」

「あなた、だから、どこに金で、どこにダイヤかを整理してもらえませんか？」

「あっ、忘れちゃったよ。混ぜてはいないけど……。そういや、なんか市営プール作るとか市長いったよな。金庫ごと取りにこいってって頂戴。今更よおー、昔のピアノ曲がグラミー賞なんか取るからよおー、傍迷惑甚だしいねえー。わしゃ、金なんかいらんのによおー。いくらあんだ？」

「わたくしも、分かりません」

「でっかい家なんてよ、掃除大変だし、家の中で台所がどこだったか忘れちゃったりよ、不便だからいらん。もう、でっかいピアノ室にヤマハGFXも買っちゃったし、車なんかよ、軽で十分だし、使いきれないねえー。おい、玉枝、また、あのご寄付リスト作ってくれ、寄付しても寄付しても減らんのだよなあー、ったく。あっ、それと多田駄与先生に、さっきの金庫室と、パリのオペラ座ぐれえーのよおー、シアター作ってもらおうべよ」

「あなた、先日入らした宝石商の下田さんが、壁紙、全部、一万円札にしたらどうですかって」

「あいつ、趣味悪りいーねえー、成金が考えそうなこった。金持ちであることを誇示してどうすんのってのっ！ 第一、インターネットによおー、わしの推定年収と生涯推定年収がでちよる。ビル・ゲッツと並んでよ。兆なんちゅう単位、自分でも分からん。なにもいわんでも、皆、わかちよる。いいのだ、今まで通り質素で。第一、今更、キャラもライフスタイルも変わらん。ヨークベニマルの冷えたコロツケだの、わしゃ、河童寿司だのしか食べたくないのだ。トールダルジャンの鴨のオレンジ風味なんぞ食べたくない」

意固地な裕センセの人気は、もはや、絶大。テレビ出演、講演会、著作はすべて世界的ベストセラー。ついでに、刑事コロンの乗っていたプジョーと並びセンセのホンダシビック1997年型が、マニア生唾車となった。運転席のパワーウインドウが壊れていることまで真似しないと気が済まないマニアが続出。とうとう、ビル・ゲッツを超えてしまった。

2014.07.04 Fri

フランス食事情

フランス料理は世界遺産に認定されているけれど、フランス料理といっても日本の懐石料理に当たるものを差している。

私が書こうとしているのは、「普段食べているもの」と「国民食みたいなもの」である。前者で御馴染みは、牛の挽肉を固めたもの=なんにも入っていない牛肉だけのハンバーグにフライドポテト、グリーンサラダ。これがもっとも食べられている普段食。後者は、日本だとラーメン、そば、牛丼みたいなものなんだろうけれど、フランスだと、フランスパン、各種チーズ、ハム、サラミに赤ワインとこうなる。日本みたいにバリエーションがあまりない。

フランスにマクドナルドができたのは、そんな昔ではない。出店前の下馬評では、まあ、フランス人は美食家だから、マックは駄目だろうだった。蓋を開けたら大ヒット。マックとピザと、自分で中身を選べるサンドイッチばかりになった。やはり、バリエーションが偏っている。日本国の、この「お手軽料理系」の数は凄まじい。第一、ラーメン、そば、うどん、スパゲッティーと麺類だけでも物凄い種類である。これに丼物に弁当だのカレーだの、庶民化した回転寿司、中華料理全般だのと、おっ、涎っ！ ふん、そういうものはないことにしてしまうのだ。

うううううううううう、涙。たぶん、日本に半年帰ったら十キロぐらい太れるだろうね、私でも・・・。

と、あまりバリエーションがないフランス国ではあるけれど、私が愛する「お手軽料理」、ギリシャないトルコ料理ということになっているケバブがある。日本にもあるのかしら？ 見たことないけど・・・。まあ、バカデカの円錐形の肉の固まり、牛、子牛、鶏肉が混ざっているやつを薄切りにしてサンドイッチの中に詰めてくれる。物価高のフランスで、もっとも安い食べ物でもある。肉と一緒に野菜もばさっと入れてくれるから、栄養バランスがハンバーガーより多少いいはず。これに、ペースト赤とんがらしをどばっと入れる。この味は、けっこう病み付きになる。これを出すレストランの雰囲気と内部の臭いが、日本のラーメン屋のそれにそっくりなところも気に入っている。唯一、欠点、その私にとっての、は、基本的にイスラム圏の食べ物だから、ほとんどのところがお酒を置いていない。これが、困るんだけどねえー。持ち込みさして欲しいのだけれどな。でも、トルコ人系のところは、客に出す酒として置いていっているところもあるから、入店前に、私は、「えー、毎度毎度の失礼をば・・・、いや、なに、ふおほほほ、いや、その、なに、いやあー、ちょっと、いや、その、まあー、ためき抜きでポンポコリンなどと、もうしましてな、おいっ、はつつあん、ちょっと、横丁の、いや、なに、その、ちょっとなにをなにしてなんなんだ・・・」「ムッシュー、うちはワイン置いてますよ」「なんだよ、早く行って頂戴、それを・・・」

2014.07.05 Sat

ハードボイルド

三十代半ば、なんだか、日本のハードボイルド小説に嵌っていた時期がある。元々、ジェームズ・ボンドの大ファンだから、それほど、不思議なことではない。もう、貪り読んで、主人公と心のリンクをしていたのである。あまりにリンクし過ぎたので、いわゆる元文学少女の女友達に無理矢理読ませた。私と真逆の感想が数日後返ってきた。

「裕さん、ラバーソールってゴム底のことよね？ どこが格好いいわけ？」

「えっ、響きが・・・」

「素早い身のこなしで、ブロック塀と母屋の間をすり抜けた。これってさ、敷地一杯に家が建っているってことよね。なんか貧乏臭くない？」

「あっ、そういわれればねえー」

「それとさ、日本人にしては彫りの深い顔立ちってさ、こっちにきたらさ、皆、東洋系でおしまいじゃん」

「もじもじ・・・」

「でね、女の会話んところに、最後に、そうですわって、わ、が付いてるけどさ、そんなしゃべり方、だれもしないよ。これ書いてるのおっさんだよ」

「もじもじ・・・」

「格好いいっていうよりさ、なんか貧乏臭いのよ、描写が・・・」

どっわあ——————ん。

この感想にびっくりっ！

その後、私は、和服を着たハードボイルドの主人公が登場する小説を書いた。納豆を食べながら横転してワルサーPPKを腰巻から取り出すシーンとか満載で、こっちを、その女友達に読ませたら、目が少女マンガ目になった。

2014.07.06 Sun

閲覧数 2 を記録した

閲覧数 2 だと、「閲覧数」という記事の 2 のようになっちゃうので、「を記録した」を追加した。ふむ、とうとう、2 の時代が来た。私のブログを読んでもくれた知人から、「どうしてもっと宣伝しないの?」と言われたのだけれど、「宣伝?」。そのやり方が思い浮かばないし、そんな宣伝するほどの内容なの? と、書いている私自身が思ったりする。インターネットで、ちょっと見てみた。二つぐらいのノウハウものを斜め読みして、一分十二秒後に辟易。うなもおー、2 で十分うううううん。

インターナショナルネットワーク。これをシアターだと考えると、席の数はパソコンを持っている世界人口、十、ロボットさんたち。こうなると想像し難いから、東京ドームぐらいにしようとうと、席数五万とか六万。

「裕センセ、そろそろ開演のお時間が・・・」

「ふむ」

ステージの上には、スタンウェイのフルコンサートマスターグランドピアノ。私のソロピアノであるが、スタッフ総勢三十名。一張羅を着た私が、軽く右手を客席に振りながら笑顔でステージ中央へ。ちょっと、顔を右に捻る。客席が暗くて、どのぐらいのお客様がいらっしゃるのか分からないけれど、拍手がまばらどころか、最前列中央から、ほんの少し聞こえただけである。「ほほおー、お客様の方が緊張しているわけね」などと、ポジティブシンキングで弾き始める。一曲目が終わる。大分、目が客席の暗闇に慣れている。もう一度、ちらっ。

「わっちゃあ—————」

お客様、最前列にお二人。しかも、カミサンとシアターの支配人。

と、こういう状況に、私のブログは近い。

だから? うわあー、ゼロになった時に考えるっ!

2014.07.07 Mon

しつこい男

閲覧数が、風前の灯という、なんとも素敵な日本語そのものに近付いている。ゼロの日も近いのだろう。ふむ、帯を締め直し、盆栽の手入れでもするのか、というと、またまた、しつこく、書く。

私は、取り立てて、しつこい性格ではない。どちらかというとなんか淡白。なのに、なんなのだろう、このしつこさは？

芸能系に関して「だけ」、超しつこい。確かに、そうじゃないとピアノ弾きなんぞにはならんのかも。でも、ピアノは日毎、上達しとるぞおー、俺っ、という達成感があるんだけど、ブログには、あんまない。なんか、酒煙草に近いのかしらねえー。赤ワイン三本空けちゃったあー、なんちゅう、達成感はないけれど、その翌朝、達成感の真逆、逆噴射が訪れる。ぎょ。

なんで、ブログ書きに精を出しているのか、二秒ぐらい熟考してみる。

やはり、ミュージック脳化を食い止めるためなのだろう、という結論。脳内が音だけになっちゃうと、目がベズリー目、象さん、象さん、お鼻の下が長いよね、と、こういう顔付きになってしまう。企業戦士は、増産、増産、今日おーも残業なのね。そうなると、読者様ゼロでも、やっぱ、書くのだろうなあー。とうとう来たっ、サハラ砂漠のど真ん中に座布団敷いて卓袱台の上で執筆するブロガー。なあーんていいながら、結構、楽しく暮らしている私。やはり、あの名言、「山があるから上るのだ」だねえー。意味を見出す必要ってあるのかしら？

おおー、あの、ドイツの哲学者ヴィドゲンシュタインの超絶難解な哲学書の結論が、「すべては無意味である」だったし、マルセル・デュシャンの晩年のインタビューの中に、ぽそっと、「人間のすること、作るものに意味などありません」。

意味なんぞ　そもそもないから　考える意味もない

アクセスアクセス　書き続け　結果ゼロになってもた

「下田さん、裕センス、大丈夫ですかねえー、一人でぼそぼそ・・・」

2014.07.08 Tue

頭打ち

と、変なタイトルだけれども、頭を打ったわけではない。

後、一編で予約投稿記事がなくなる。うおっ、日毎の閲覧数が片手の指の数で収まるようになってしまった。もう、魚魚魚で、うおっときょぎょうっ。こんなに読まれんのも、なんか、凄いことのような気もしている。でも、この数字って実数なのかしらという疑問も脳内を過る。

「過ぎよ今夜もありがとう」歌 石原裕次郎 作詞 浜口庫之助 愚編詞 裕イサオ

風前のブログアクセスを

つつむ過ぎよ

知っているのか

その実数を

晴れて分かる

その日まで

かくれておくれ 過ぎ過ぎ

僕はいつも

そっと言うのさ

過ぎよ今夜もありがとう

開店休業のBloggerの方の記事が読まれていたり、そっちが閲覧数7とかで、FC2の方が2とかなんだけれど……。2って、電話かファックスで済んでしまう。インターナショナルネットワークという、とてつもないスパイダーマン網の世界で、2。2んまり、するしか、ねえ——、ね。

考えてみたら、お付き合い頂いていたブロガーさんたち、閉鎖ないし休筆。ブログのない「健全な日常」に戻られているから、当然、私の愚ブログへのご訪問はない。それからそれから、うう————、理不尽この上なしっ！ スパムブログを削除して頂いたから、親愛なるロボットさんたちのご訪問もなくなったわけだね。やっぱ、こうなると、閲覧数がぐぐっと減るわけなのね。

「裕センス。世界中から応援のお手紙が38.002通届いております」

「えっ、下田君、その最後の2は理解しておるが、その前の部分の方々はなんなんでっしゃろ？」

「はい、要約するとですね……。読んではいないけれど、やはり、くだらないブログの存在意義は大きいと。癒し、および、励みになると。読んではいないけど……。ということです」

「やっぱ、私の読者様は、2じゃんかよおーって！」

「はい、そういうことです」

「よし、下田君、もう、ブログは止め止めっ！ そのお二方にだな、毎日、手形入りのだな、毛筆のお手紙を差し上げることにする」

「なんか、お相撲さんの後援会みたいなノリですね」

「ところで、下田君、喫煙室とかけて・・・・・・・・、横綱ととく。その心は、相撲キング。ぎゃははははあー。壊れたアクセス解析とかけて・・・・・・・・、ボクシングととく。その心は、カウ

ンターパンチ。ぎゃははははあー」

ある知人から、「裕さん、OOさんもブログやっているって聞いたよ」。私は、検索してみた。なんと六年前から、年間の記事の数が320編。つまり、ほぼ、毎日、執筆なさっている。しかも、大変に上質な随筆である。淡々と人、自然を見詰めて黙々と書かれた記事郡を拝読した。熱いものが込み上げて来た。

それから、「閲覧数2」の記事を読まれたブロガーさんたちから、「裕さん、カウンター見てみたけれど、私の閲覧がカウントされてませんよ。時間帯を変えてやってみただけどゼロのまま・・・・・・・・、カウンターがおかしいと思います」「裕さん、そんなはずはありません、私は毎日読ませて頂いております。カウンターがおかしいのでは？」と励ましのメッセージを頂いた。危うく、臍曲太へ変身しそうになっていた私は、和服に着替え、正座し、丸眼鏡をかけ、再度、パソコンをOn=恩にしたのである。

2014.07.09 Wed

ブログリング

なんか、閲覧数の激減嘆き記事みたいのを書いちゃったんだけど、正直、そんなに気にしてはいない。ランキングの順位に関しては、これは全然、気にしていない。単に、なんとなく目に付きやすい位置にいればいいんじゃない、という感じなんだけれど、その理想的な位置がどこなのか分からないけれど、今の位置ぐらいが、勝手に丁度いいということにしている。あんま、上も照れちゃうし、ずうーとページを捲らんと出てこないというのも、捲らない人が多数派だとすると、目に留まりにくい。おっ、やっぱり、「読まれて欲しい」わけか？

そりゃー、そうだって！

ピアノのコンサートだって、お客さん多い方がハイになる。あっ、来週、パリでは十五年振りにソロピアノをやることになった。もちろん、世界一のピアニストだなんて、じえんじえん思っていないけれど、やっぱ、お聴かせ致したいのだよな。そんで、その拙いところはさておき、その良いところのみを抽出して、お褒め頂きたい。そうすつと、付け上がって、さらに上手くなる。なんかねえー、自己顕示欲の塊なんちゅう精神状態は、随分前になくなっちゃまっているけれど、ううーん、やっぱ聴いて欲しいのだよなあー。ついでに、もてたいのだった！ 鼻屑目、鼻屑耳で聴いて聴いてっていう感じ。

まあ、明るい芸能家、ってなわけかしらね。

まあ、出不精の元引き籠もりオヤジの晩年逆噴射っ！ もう、走り続けて走り続けて、いろんな人に逢って、盛り上がって・・・、楽しいじゃん。走る王様、ラン・キング。えっ、キング・コン愚？

追記

そういや、ブログ記事の右側のカウンターではなくて「FC2アクセス解析」というのがあったなと思い、今、見てみた。昨日、7月9日、ブログ上のカウンターだとアクセス5。なっなんと、本式の方だとアクセス25でページビューが34だって。どっちが本当なの？ 後者ぐらいだと、よし、という気に、やっぱ、なる。どっちも実数ではないような気も少しする。やはり、名曲「通り」を歌いながら、書き続けようっ！ 目指せっ、キング オブ ブログうーん。

2014.07.10 Thu

ブログ脳の停止

時々、こういう現象が起きる。たぶん、十五年振りのパリでのソロピアノコンサートが近付いているせいなのだと思う。言葉の貯水池と化している私の優秀(憂愁)な愚脳が干ばつ地帯となってしまった。では、以上。また、会おうっ！

「あらあー、イツちゃん、お珍しい。脳内干ばつ？　そもそものもそもそで、あんたは、しがな
いピアノ弾きなのに、ブロブロするからよ、ざまあーみなされっ！　ミュージシャンは、音、
あるのみ。もう、ブロブロは止めなはれっ、うな暇あったらピアノの練習しなはれっ！　はれ
るうーやっ！　無限の音宇宙がまっとなるでえー。君は、音の宇宙飛行士やでえー。ピヤピヤしな
はれっ。もう、ブロブロは、あんた、あかんで・・・、止めなはれっ、うなもん。おっとととと
ととおーー、音が脳内に蔓延し、君の脳内を浸食し、言葉を弾き出し、もう、君の脳はピヤ
ピヤ。目はベスリーのルパン三世顔おーー、いいのいいの、それで。
よおー、ミュージっちゃんっ！」

あっ、急に思い出した。先日、息子の親友の写真狂がハンバーグを食べに来た。昼食後、私のポ
スターを作りたいとのことで、庭で写真撮影。「はい、煙草銜えて、はい、ちょっと、下見て、
はい、空の方に顔上げて、いい感じいい感じ、おっ、写真映り超いいねえー、様に
なってるねえー、パシパシパシパシ・・・」。その撮った写真を見た。どう見ても「超売れ
ているジャズピアニストのオヤジ」にしか見えない出来栄え。なんか、色々と「加工して(たぶん
、光および皺皺および顎の弛みちゃん等の修正)」、完成したら送ってくれるんだって、ふっふ
っふっ、ブログにアップしちまおうっ！　絶対、イメージ変わるだろうなあー。
カミサン「わあ、実物より超絶的に格好良く映っているっ！」。

2014.07.11 Fri

さっき、7月11日まで、愚記事の予約投稿をセットした。

半年ぶりに娘が日本から帰ってくる。忙しいのである(すぐに、親父の私は15年ぶりパリソロピアノなのだ)。たぶん、遅しくなって帰ってくるはずである。諸々、お世話になりました。ありがとうございました。愚記事の執筆者といえども、父親である。総責任者として、お世話になった方々へ、深謝致します。

日本式に「海外」、この蛙(かわず)が海(井)の外にでると、よかれあしかれ、タフになる。

私自身が福島の蛙だったから、よく分かる。しかも、瀕死の蛙。それが、マレーシアを經由してヨーロッパへ。大海へ。百倍ぐらいタフになった。でも、その瀕死の状態が、どこから来ていたのか、それを忘れはしない。すべての「私の源泉」がそこにあるから・・・。「あしかれタフ」にはなりたくないのである。人と人、サッカーの試合みたいだけれど、「敵の事情」も忘れたくない。そういうこと。タフになると攻撃力は超絶アップする。でも、心の筋肉むくむくでは、そうではない人、たとえば、「昔の私」のような人間もいる。パワーパワーでは、潰してしまう。

そうね、私の場合は、蛙だったから、そのぴよんぴよん感がパワーアップしたわけである。心は一緒だけれど、躍動感が違うわけなのだ。空だって飛べちゃう。世界を眺望できちゃう。たぶん、娘も、その辺りを実感してきた、はずだ。

2014.07.12 Sat

ブロテク

ブログ執筆のテクニックなんぞ、なんもないけれど・・・、よく、私が使う手法に、第三者、あれ、第三者、あれ、

「ねえねえ、下田君、なんだっけ？」

「裕センセ、勝手に出さんで下さい、俺を・・・」

と、これ、ね。

もちろん、自分で書いているけれど、うまあーーー、小説家が日毎やっとなるわけだ、こういう作業を。でね、こういう風になると、「自分を客観視」できる。

「裕さん、もう、イイカゲンにしてくれませんか？ あんた、しつこいんだよ、大嫌いだっ。大体、あなたの書くものに意味を見い出せない。芸術家ぶっちゃって。はっきりして、スタンスを・・・。ぐだぐだ、うぜえー、世界状況、フランスの政治、なんでもいい、もっと、重要なことが沢山あるんじゃないですかあーーー、それなのに・・・、くっ、くだらん記事ばかり、それこそ、世界を舐めている、鳥瞰目線ではありませんか？ そのスタンス、即刻、止めて頂けませんかね、おおーーー、なんだ、その目付きはっ！」

とかね、自己批判してみると、おもしろいどおーーー、健康には悪いけどなあーーー。

芸術目線は、ふむ、鳥瞰目線なのである。

でもさあー、そうじゃない目線のブログなんて、俺は、読まん。つまんねえーって。ふっふっふ、鳥瞰図の中に、「自分も含まれている」、ここ重要。

2014.07.13 Sun

下戸という言葉

下戸(げこ)。私は、大酒飲みではないけれど、酒は好きである。

二十歳の時に、東京の美術大学進学予備校に通っていたことがある。私は、非常に真面目な気質なので、酒煙草は二十歳になってから、これをきちんと守った。ご想像願いたい。美術予備校の学生達。どこの国もそうだけれど、壊滅的自虐的ペシミストのシニシストのアルチュール・ランボー的酒飲みが多い。

二十歳になった私は、強引に飲み会に連れて行かれた。ピカソとブラックの違いなんていう議論をしていたら、むりやりビールをコップ半分飲まされた。五分後、トイレで倒れたのである。煙草？ やはり、初めて吸った時、眩暈がした。

と、こういう下戸の若僧だったのに、いまや、なんなんだ？

酒煙草がないと、生きている感がなくなってしまうのだ。

こういう「逆鍛え」みたいなものもあるんだろう。でも、寿命は縮まったのか？ たとえば、私は、今、ジャズ屋だ。もし、この「逆鍛え」がなければ……。素面のジャズメン=クリープを入れないコーヒー(なんて、というCMが昔あった)=ノンアルコールビール(OOOのない男の子)=紐のない禪(手拭だっ)=顔のない目(これ、だれかの曲だった、ちょっと、怖い)=お笑いのない裕センセ、と、算数上の定理が崩れてしまっていた。

生きていること自体が、「毒」と仮定すれば、「毒をもって毒を・・・」、この、「難のこれ式=屁理屈」が成り立つのであろう。

注 お若い方々、「下戸」は、あんまい言葉じゃねえーから、自分のことを自分でいう時はいいけど、相手に向かっては、駄目よ駄目駄目(日本エレキテル連合)。それと、急性アルコール中毒は、致命傷になるからね。ううー、酒煙草なしで生きられる人が、ちょっと、うらやましい。俺もよおー、若い時分よおー、酒の勢いで馬鹿をやり過ぎてしもたのだ。人に危害を加えたことはないけれどねえー、思い出すと、わっ！

2014.07.14 Mon

もう、なんどもブログの閉鎖を考えたし、もう、なんども、そのための「あとがき」も書いた。でも、止めていない。

だれだったのか名前が浮かんでこないのだけれど、高名な作家が、こう書いていたことを覚えている。

「禁煙？ 禁煙ほど簡単なものはない。私は、もう、なんどもやった」

こういうのが最上のユーモアの一つではあると思う。ブログと喫煙は、非常に似ているのである。嗜好品、つまり、中毒。とりわけ、私は芸人であるから、その傾向が強い。だから、嵌る。止まらなくなる。

でも、酒煙草を擁護するために、これを書いているわけではなくて、「揺れ動きながら書き続けるブロガー」について書きたいのである。この、「物を書く中毒」。これは、けっして悪いことではない。「物を書く」、なにも考えずに、とはいかない。ピアノの方が痴呆化しやすいのだ。

ぺちゃぺちゃやる、これもライブ言葉ではあるけれど、内奥に迫れるのは書く方なのである。でも、後者をやり過ぎると、ライブ感覚がおかしくなってくる。ライブ言葉で人間の内奥に迫る。これは・・・、お笑い芸人か、悟りの人の世界であろう。

2014.07.15 Tue

「あとがき」狂

私は、プロローグとエピローグ、この二つは溢れ出んばかりに書ける。いくつか書いた小説も、下手をするとプロローグとエピローグ「だけ」になりそうになる。本文がどっかにいってしまう。「これから書かれる予感」と「宴の後」、なんぼでも書けてしまうのである。一度、エピローグだけの小説を試みてみた。つまり、「書かれてはいないけれど書かれた小説」のエピローグ。

この感覚は、私のお気に入りブロガーさんの言葉を借りれば、「終わりは始まり」ということである。その逆も成り立つ。「始まりが終わり」。どちらかという、私は元鬱病であるから、後者の方がしっくりとする。でも、「生まれたことが終わり」では、あまり、楽しくない。

段々と、「終わり」が近付いてくると……。ブログのあとがきはなんどでも書けるけれど……。

あの、心電図のツーツー音が、本当のあとがきになる。から、バァーロー、だから、あとがきを「書き続ける」のだ。

あらら、毎日があとがき、だったあー。あれっ？ これも、お気に入りブロガーさんからの請け売り？ 「若くはなれない」って書いてあったぞ。違う違う、この文章、本当に凄い、「今の私が一番若い」っ！

2014.07.16 Wed

几帳面

私は、もしかすると「超」が付くぐらいに几帳面である。

机の上、基本的に必要なもの以外はないし、ペンも、すべて、真っ直ぐに等間隔に並べてある。探すのが面倒なのである。それと、元美術家だから、コンポジションの崩れが嫌いなのだ。肉体の老化、これもそうであるけれど・・・。

でも、私以外は、私の家族は「普通」である。でも、だれかが、私の机の上を通り過ぎると、あるべきペンがない、曲がっている、余計なものが置いてある、眼鏡がある、ちり紙がある、領収書がある。と小さな台風のようにコンポジションが乱れている。

それで、私は怒るのかというと、全然の全然なのだ。

それが、生活とか暮らしと呼ばれるもので、私の「超几帳面コンポジション」、これが、柔らかく乱れている。これが、心地良いのである。非常に性格の良い超几帳面なのである、これは、稀だと思う。よ。私は、私以外の人間が、私と同じでないことを確認すると、むらむらと喜びが込み上げて来る。変かしら？ 嫌だよ、俺みたいな奴。

追記

考えてみたら、自分では、それほど、嫌な奴だとは思っていないし、ミュージシャン仲間が私を嫌っているとは思えない。でも、ミュージシャン以外の人・・・。謙虚なサディストだから、たぶん、相当にキツイジョークをいう、笑いながら。それから、元芸術家だから、上から目線だ。ほとんどのものを受け付けない。ノンノンノンなのだ。でね、私の仲間、ある意味、皆、そうだから、別に普通な感じなんだけれど、そうじゃない世界に住む人からすれば、相当に、嫌な奴のはず。良かったっ！ ミュージシャンで。

2014.07.17 Thu

娘の日本からフランスへの帰国、来客、コンサート、コンサートと忙しく、一週間ぐらい予約投稿。なにを書いたのか、本人がまったく覚えていない有様である。

ソロコンサート当日。娘の車でジャズクラブ到着。19h15。オーナーとだべる。娘と中華レストラン。21h30-22h30、ソロ終了。打ち上げ。23h00、取り合えず荷物を車へ、私だけ車に戻る。後席右の窓ガラス粉々。後席が倒され娘のボストンバックが盗まれていた。トランクに荷物があることを元々知っていた人物。目撃者三名が名乗り出る。身長190cm、顎鬚を生やした男。娘、「あっ、到着した時、ジャズクラブの入り口まで、後ろをぶらぶら歩いていた男・・・」。ボストンバックの中に、今回、日本で購入してきた衣類。娘のしょぼくれる顔を見ていて怒りが込み上げて来る。警察署へ。盗難届け申請の人で溢れている。すでに零時を過ぎている。届出を諦め、翌日、自宅最寄の警察署へ。保険会社、ガラス修理工場のアポ、盗難届け。その日の夜、再度、ジャズクラブへ。娘は、息子のアパートへ。最寄の地下鉄まで送っていく。

「あっ、パパぁー！ あたしのワンピースっ！」

角のパン屋。歩道の下水溝の鉄枠の上に一塊の衣類。その中に、娘が一番残念がっていたワンピース二点。

町が汚い、犬の糞、浮浪者、ジャンキー、煙草金を集める人々、えげつない女性への口説き、荒っぽい運転、人を押し退けるような歩き方、盗難盗難盗難・・・。

娘、半年間の日本滞在後、わずか五日目にて、このパリの現実を目にすることになってしまった。すでに、辟易し、日本に戻りたいと零している。

2014.07.18 Fri

いんげん

いやあー、久しぶりに記事をアップする日、つまり、今日、つまり、7月19日2014年の夕方に、これを書き始めた。本当は、予約投稿記事がアップされるはずだったのだけれど、起き抜けに下書きにしてしまった。ヘビーな文章、つまり、あまりに文学、つまり、私の核心部分に触れちゃっているから、止めたのだ。もちろん、ブログがヘビー級の文章でも構いはしないけれど、でも、なんか、ちゃっちゃと読まれるのは、ちと、憚りながら憚れる文章もある。噛み締めて書いたものは、噛み締めて読んでもらいたいのである。まっ、筆者の勝手だわ……。

で、ヘビー級は止めて、スーパーライト級にしてしまう。

その、今年は庭のいんげんが豊作なのである。毎日毎日、堂々たるいんげんを1キロぐらい収穫しているわけ。てんぷら、お浸し、中華サラダ、洋風と毎日毎日、食べ続けている。毎日毎日なのだけれど、うっ、うまいっ！ 自家製だもんねえー、アルデンテに塩茹でて、しょうが醤油うーー、うっ、うまい。しかも、3日前からフランス、猛暑。うっ、うまい。昨日は、36℃だよおー、今年初めての熱帯夜だよおー。あっちいー、わけ。おっ、これ書いたらよおー、緑唐辛子をだね、種ごと刻んでだね、どばっと入れたエビあんかけ焼きソバを作るのだよ。ここにも、いんげんが入るのだ。こりこり歯ごたえ自家製堂々たるいんげんが……。

人間がいんげんを食べているのか、いんげんが人間を食べているのか、わたしは人間なのかいんげんなのか、どっちが偉いのか、なんとなく、いんげんのような……、暑いから、忘れちゃったあー！

お暑うー、ございます。

2014.07.19 Sat

リュックサック

おーおー、またまた、当日アップ記事っ！ 下書きがあるのに、だよ。どういう心境の変化？ うん、今後ねえー、毎日更新は、相当、シビアになると思うよ。その内、書きますね、そのわけは。ちょびちょび更新ながら、止めはせんから……。健康問題でもねえーから、大丈夫だあー。

そんなことは、どうでもよろしいのであるが、私の家から車で三十分ぐらいのところに、アウトレット専門の巨大ショッピングセンターがある。私もカミサンもブランド志向ゼロ人間。でも、お散歩を兼ねて、たまに行く。半分、冷やかしなんかもしれん。でも、品質の良いものを安く買う、これは、もちろん、悪いことではない。しかも、少し前までバーゲンの真っ盛りであったから、行ってみた。

で、ずっと、私の愚ブログをお読み頂いている方々をご存知の通り、私はブランド品は一切着ないのだ。「ブランドは私だ」と息巻いているからである。でね、たとえば、だよ、私がスーパーの千円の黒いTシャツを着ている。実際、そうである。でね、因みに、それをアルマァーニの一万円のそれと入れ替える。仮にだ、実際に私がそれを着ていても、前者にしか見えないのである。九千円の差額の意味がないのだよ。だから、「ブランドは私」なのである。「難のこれ式理論」上は、ね。

あと、なんか嫌なわけ、衣類とか装身具に「他人の名前」があるの。俺が着ているのに、ジョルジュ・アルマァーニなんちゅう、面識のない人の名前なんぞいらん。私の仲間の名前だったらしいけど……。

と、なんちゃらいいなながら、アウトレットしてきたら、マイナス七十パーセントなんていうものがある。一万円が三千円。これは、すげえー得した感じがする。でも、だ。俺がスーパーで三千円を買ってきた「ほぼ、同じ靴」が、元値が一万五千円で半額だから七千五百円。どうみても、同じ靴だ。試しに履いてみた。同じ、なのだ。いいものを安く買う。たとえば、一生もんのを安く買う、これは、分かる。でも、なんなんだって、こういうのっ！ はっきり、「ブランド料」なのだ。うなもんに、金は出しませんっ。馬鹿にすんなって、な。ピアノのクオリティーは、ブランドとは違うよ、いいものが、ブランドになった。それだけだ。イメージではないのである。装身具は、要注意。化粧品なんかもな。

あれ？ ここまでが、前置きじゃんかよおー。でね、ブランド名がほとんど見えない小振りのリュックサックを私は購入してきた。七割引ぐらいで……。確かに丈夫に出来ている。こういうのはいい感じ。ブランドも、黒いチケットに黒字だから、まったく見えない。こういうのいい感じ。使っているうちに、そのゴム製のブランド名は、どっかに行ってしまった。ますます、

いい感じ。しかし、である。チャックの開け閉めが、布地が覆い被さっている上、チャック自体が、凄く固い。両手で結構、マジでやらないと開かないし、閉まらん。いらつく。「羽毛お——、だぁ——ら、フランス人ってよぉー、気遣いがねえ——」「第一、気が利くっていうフランス語、存在してねえ——、羽毛、野蛮人めえ——」と、使うたんびに思ってた。

れれれ、先日、娘の車が荒らされた。その翌日、ピンときた。

「おっおっおっ、この開閉のし難くさは、後ろに背負っている時の盗難防止ということだったのねえ——、さすが、フランスのメ
ーカ——ああああああああああああああああああああああああああああああああ」と、真逆の見解。

2014.07.20 Sun

逆フランス 1

久しぶりに、フランスの羽田に到着した。長いフライトの後だから、日本で、いつも、食べているケバブを食いたかったけれど、ここは、フランス。しかたがない、コロッケそばでがまんする。ここ、フランスには、いつも、俺が食っている各種のチーズはない。まっ、たまには、フランス料理、すし、さしみ、うなぎ、まっ、海外だから、当分、バゲットともお別れ。

大体、フランスに来ると、日本語しか通じない。俺の日本語は、今一つ。謙遜語だの謙譲語だの、私のような外国人には、理解不能なのだ。しかも、他人を思う、気を利かせる、気遣い、日本人である私には、こういったフランス文化は難し過ぎる。年長者を気遣う。私の国、日本では、こんな文化はない。

ああ——、赤ワインが飲みたいけれど、フランスのスーパーには、日本の屑ワインばっか。しかたがない、せっかくフランスに来ているから、日本酒でがまんするか。

どこの店に入っても店員の礼儀正しさには愕然とする。スーパーのレジのスピードなんて、あの有名なスピードピアニスト、裕イサオを思わせる早さである。日本のレジなんて、ぺちゃぺちゃ、だらだら、出来る限り間延びした勤務時間、こういうのが普通だ。このフランスという国は、ちょっと怖い。バカンスもないし、サラリーマンは、毎日、午前様。日本では、考えられん、そんな生活。

でも、フランス文化のいいところは、コンビニと居酒屋かしら……。自販機とか……。日本は不便で、こういうものがない。皆、バカンス定年個人主義と、自己中の極北。自分が楽になる。以上おしまいだから、他人がどうなろうが知ったこっちゃないのだ。そんな日本から、フランスに来ると、ちょっと、私もほっとするのだ。

2014.07.21 Mon

理想の生活

なかなかブログを書く時間が見出せなくなってきた。本当は、この記事、腰を据えてゆっくり書きたいのだけれど・・・。

私が会社を去ってからの二年間、私が夢見ていた「理想の生活」というものをやってみた。それはそれは楽しかった。その中の一つにブログの開設も含まれていた。ある意味、私にとっては擬定年だったのだとも思う。結局、私の場合は、芸能三昧になることが分かった。まあ、本物の定年も、そんなに先ではないから、現実シュミレートになったわけである。

そして、もう一つの結論。これは、私の仲間たちが延々と零し続けている非情な定理を確認したわけでもある。

「パリではジャズ、とりわけフリージャズでは食っていけない」という定理。食っていけないことを延々とやる経済力は、当然、私にはない。

ということは・・・、選択肢はないのである。またまた、「理想の生活ではない生活」に戻るしかない。ということになる。芸能三昧の禁治産者から社会復帰へとなる。本物の禁治産者になる前に・・・。とはいえ、出来る限り芸能活動とぶつからない勤務形態にて復帰したいという思惑も強い。そんなに世間は甘くはないけれど・・・。

と、社会復帰の準備に追われ始めている。そして、実際の復帰が待っているから、ブログの毎日更新は、当然にして相当難儀になる。でも、多忙の合間にこそ、むしろ、憩いの一時の意味合い、その重みは増してくるから、ブログは続けてみようと思う。更新のない日が続いたりもするとは思うけれど、私は元気にやっているから大丈夫だぁー！

と、シフト変更のお知らせでした。皆さんも、ご自愛下さいね。それと、毎々の、しかも、長期のお付き合い、繰り返し繰り返し重ね重ね御礼申し上げます。

2014.07.22 Tue

読んどる、よ

応援メッセージを複数頂きました。うるうるして居ります。ありがとうございます。

でね、この「毎日更新」、「してたんだけど」、これって、「相当、凄いことなんじゃないの」と「しみじみ」しています。「過去の栄光」かな？ まぁー、今後は無理だろう、けれど、へろへろなんだけど、これを書き出したのである。そのわけは、応援メッセージ。効くのです、本当に。メルシー僕です。書きたいことは、山ほどあるんだけど、三分ブログで許して下さい。深謝です、本当に。

でね、私は、ヨンドルクリックは止めていないのです。ヨンドルは飛んでいかないのっ！

2014.07.24 Thu

おっとおー、ちこっと、時間が出来た。記事を書いちゃう。そういや、ピアノの練習も出来なくなっているの・・・。

「時間は作るものです」、なあーんて、会社の偉いさんはおっしゃる。俺も、ちびっと偉いさんだったけれど、言わなかった。ないものはないし、物理的な時間がある、ではではと、ピアノ弾いたりブログ書いたり、そうは心がシフトしないのである。芸能時間がないということだね。

でね、社会復帰、ちと職種は書かないけれど、今までのキャリア上にてのフリーランス。健康診断書と必要書類持って、県庁に申請登録に行ったら、今年の1月1日から法律改正だって。五十五歳のオヤジの俺は、二ヶ月、学校に行かんといけなくなってしまった。しかも、授業料が経済難になる前に復帰しようとしているのに、このために、経済破綻しての復帰とシビ屋だぜっての。世間は厳しいのだ。

うで、めげるのか？ うな、もう、段々、心のシステムがビジネスマンに戻ってきているから大丈夫だあー。元々、泣く子も黙る猛烈凄腕営業マンだぜって。うなもんで、折れたりはないのである。あっ、こういう精神状態でね、ピアノ弾くと、凄い演奏をする。アルキヘンデスの反比例の法則なのであるが、元々、ジャズという音楽の根源が、辛い労働、この苦しみを緩和するために歌ったブルース。これがベースだから、ジャズメンの端くれの俺は、折れないのだ。次回のコンサートは、ちょっと、音の重みが違うだろうなあー。

2014.07.25 Fri

鳥に勝つ

今日は、土曜日、さすがに時間が出来た。

家の庭の奥の方のイチジク。毎年毎年、おっ、そろそろ食べ頃と思い、たとえば、翌日、もぎに行く。鳥が、全部、食べてしまっている。相当、美味かったに違いないのだけれど、私は味見をしていない。イチジク、大好物というわけでもなくて、簡単に言うと、幼少期の懐かしい味なのである。私が、チビの頃、イチジクだの柿だの、そこいら辺に沢山あったから、むしって食べていた。その頃の味を思い出すので、ちょっと、俺にも味見させろっ！ と思っていたら、たぶん、今年の剪定、今年の気候がヒットしたのだ。豊作。五つぐらい鳥が食っていたけれど、昨日の収穫、推定六キロ。五つぐらい、もぎりながら食べた。懐かしい味だった。

大笹山盛りx3。食べ切れないから、カミサンが、ご近所に今から配りに行く。

やっと、「鳥に勝った」はずだった。しかし、である。うるうるしているイチジクの実のもぎ取り作業。落下したら潰れる。と言うことは、枝を引っ張る。ETの指みたいな……。抱えながら右手鉞で左は実を捕獲。これを。赤ワインをちびちび飲みながらやった。気を抜くと、ET指がびよおーと、空の方へ行ってしまふ。二メートルぐらいの梯子の上で、それをやっていた。今度は、梯子が右の方へ倒れる。ET指がそれを止めた。止めた反動で梯子が元に戻ろうとする。私の足元は、どっかに行っちゃったあー。当然、ニュートンが余計なことをしてくれたから、二メートル上空から地上へ。赤ワインちびちびだから、三半規管がジェームズ・ボンドにはなっていない。地球の表面へ。

イブ・クラインの窓から飛んでいる写真が脳裏を過る。地球の表面との融和を、ちょっと、考えたはずだ。右側からが受身になると脳が解析したはずだ。そのように吸い込まれた。三分ぐらい、息が止まった。ワールドカップのサッカー選手の激突シーン。ありゃ、相当、痛いだろうなあーと蹲りながら考えていた。それから、右手骨折=ピアノちゃらの公式が脳裏を過る。

三分後、ターミネーター2目が回復する。段々、ダニエル・クレイグ感。

と、体右側の打撲なのに、今日、起きたら、首左、肩、左肩甲骨の辺りが腫れている。風呂に入りサロンパスを張り、久しぶりにピアノの練習をしたのだけれど、痛い痛い痛いっ！

でも、どうして、左側なんだろうねえー、人間の体って不思議。たぶん、右側がエアバックしたのであろう。

結局、私は「鳥に勝ったの」？

2014.07.26 Sat

書き溜め

おっし、書ける時に、書き溜めしまおう。溜めよおー、溜め溜め(日本エレキテル連合のパロディーです)。

しかし、この女子ユニット、素敵。本当に。中野さんがブレインなんだけれど、なんとも、橋本さんの存在がいい感じ。やっぱ、さまーずにユニットとしては似ている。でね、昨晚、寝しなに「有吉進路相談」というのを、もう一度、見てみた。今や、お笑い界のメジャーになった有吉さん。一言で、「頭のいい人だな」と思った。

お笑い界に君臨する。これって、凄まじく凄いことである。たけしさん、タモリさん、さんまさんとか、このビックな連中に共通しているのは、学歴とは違う「頭の良さ、空気読みのスピード感」。

有吉さんも十二分に、それを持っている。彼が、「テレビにくだらない連中が多過ぎる」なんて豪語している。でも、彼が言うと、豪語に聞こえないし、進路相談を受けているタレントさん方のリアクションを見ていると、格の違いが明らか。こういうのを、諸々、分析していると、「知能指数」、これって、相当、お笑いの大きな要素なのだと思う。

いや、「お笑い知能指数」って、半端ではないだろう。チャップリン、キートンを見たって、それは、歴然としている。

受けを狙うとか一発芸とか賢そうに見せようとか、もし、こういう方向であるならば、「馬鹿に徹する」「逆知能」が必要。誤解を受けると困るけれど、「逆知能の大家」は、志村けんさんだし、上島竜兵さんなんか、フリージャズしている。

うーーん、誤解を受けると困るんだけど、「知能指数系」のお笑い、「逆知能指数系」のお笑い。どっちも凄い。

売れない芸人の特徴は、前者のキャバがないのに、後者になれない連中だね。あれっ、

ぎくうーーー！ えっ、おっ、俺

すかあ-----

！

2014.07.27 Sun

ノルマンディーという海

さっき、ディエップから帰って来た。

カミサンと海を見に行った。

砂浜ではなくて、石浜。

小石の山が、海の方へ。結構な勾配。

防波堤の上のフライドポテトの屋台。

カミサンと二羽の鳩のように、海に向かって腰掛けた。

防波堤のコンクリート、石の山の向こうに、海と空。

フライドポテトとソーセージとビール。

山とか海、巨大なものを見ると、心が、和む。

でも、あの映像が、また、脳髓を過る。

あれは、水ではない、泥、流れる泥だったことが、よく分かる。

2014.07.28 Mon

考えてみたら、結構、しぶとく更新している。間もなく、8月。フランス全土がお休みモードになるから、私一人がしゃかりきしていても仕方がない。とはいえ、ブログタイムの確保は、やはり、難しくなってきた。でも、逆にいえば、書きたいことのエッセンスを抽出するというスタンスになるから、むしろ、記事内容は濃くなったりもする。

ディエップの安ホテル、今時珍しく喫煙ルームがあった。しかも、コーヒーメーカーも置いてある。私の朝食はコーヒーと煙草だから、これは、本当に助かる。これなしでは脳のピントが合わないのである。では、朝食をホテルで取ればとなるけれど、私は、朝はなにも食べたくない。コーヒー、煙草でポーと空を見るのが習慣だから、朝食を取る意味がない。今は、フランスのカフェも禁煙。テイクアウトのコーヒーショップを探す羽目になる。髪ぼさぼさ、虚ろな目で朝の見知らぬ町を五十男が彷徨うのである。やっと、見付けて、公演のベンチで一服。ここで、目の焦点が合う。これ、私には苦痛。今回は、快適この上ない。

ホテルの裏側に面した窓を全開にする。なんかの学校とパーキングと大聖堂の時計台。無数のかもめ。建物の屋根、窓はかもめの糞で白い。この風景を見ながら、コーヒー、煙草にかもめの鳴き声。素敵だった。

かもめの、あの鳴き声。精神状態によっては、励まされている感じ、ないし、嘲り笑われている感じ、いずれかに聞こえるよなと思った。私には、なんとなく、客席の拍手のように聞こえた。うーん、いい感じ。

2014.07.29 Tue

ねじり式

ねじ式は、ツゲ義春の漫画作品だった。あれが、漫画というカテゴリーだったのか、分からない。

澁澤龍彦、もう、どうも駄目だという方も多いと推測している。澁澤財閥の御曹司、東京大学、美男子……。鬱陶しいの極北にもなりえるけれど、私は、好きな人の一人である。どうして？

なんか絵に描いたような仏文学者、まあ、日本国に生まれたジャン・コクトーなんだろう。仏文学のエッセンスは、この人から、私は随分吸収した。

澁澤さん、俺は観念世界の旅行者、だから、旅はしない、なあ——んていついたのに、晩年は、結構、旅している。晩年っても、たしか、五十一でなくなっているから、今の私より若かった。おわっ、三島由紀夫は四十五で……。不思議な感じが、やはり、少しする。偉大な人々の人生は凝縮しているから、私なんぞと比較すると、変な感じになる。

あれ？ 自己弁護っぽいけれど、私の敬愛する美術家、作家は、皆、結構長生きしている。ミュージシャン以外は。

「裕センセ、大丈夫ですか？」

「なにが？」

「胆略に申し上げると、イチジクもぎ時の転落事故」

「うん、骨折はないけど……」

「左首、左肩甲骨、左肩と左慢心創意……む」

「うん、イタイイタイの、鎮痛剤と赤ワインで宥めているわけ。おっ、下田、マンシンソウイの、その漢字、いい感じっ」

2014.07.30 Wed

即興シュールレアリズム

犬が 空の上空で脱糞している
かもめが 右足を上げて道路標識に おしっこしている
かつおが 横断歩道で 信号待ち

手漕ぎ船のおっちゃんが 空を横切る
飛行機が リヨン駅に 羽を畳めて入ってくる
乗り易い

私は 角のタバコ屋まで ちょっと スキップしたら 着いちゃった
わっ なんかに集られた みみず だった
エスカルゴって 宙に浮いていたかな

ルーブル美術館のタブローが 全部 逆さだった けれど 逆さの定義はない
そう 思っただけである
そうになると 私は 飛ぶしか ない
2014.07.31 Thu

Chemin des Dames

Chemin des Dames

私なりに日本語に訳すと、「貴婦人街道」。フランス、ピカルディー地方Aisne(エーヌ)県にある。Laon(ラン)の南。

今回、フランス語標記とした理由は、たとえば、Laonは、どうしても「ラオン」と読んでしまうからである。もうひとつの町、Soissons(ソワソン)、これも、ソワッソンという標記も多い。

分からない、日本の方々が、この名前にピンと来るのか？ 私は、まったく、ピンと来なかった。まったくの別件で行ったのである。別件といっても仰々しいものではなく、ラン大聖堂を見に行った、それだけである。アミアン、シャルトルのそれへ多大なる影響を与えた初期ゴシック大聖堂。見てみたかったのである。びっくりした、大聖堂以前に、ランの町自体が中世の城塞都市を「そのまま残している」のである。まったく、知らなかった。しかも、その都市構造が実にユニーク。簡単に……。Cの字の城塞都市。そのCの真ん中の部分が、お椀の底状態の森。こんな町、見たことがない。以上に留める。

「貴婦人街道」、全長25.9km。西から東へ、ほとんど、真っ直ぐ麦畑の中を貫いている。西側から走って行くと、右側。つまり、道路と麦畑の間に、フランス語で、その名の通り「ブルー」と呼ばれる「青色の菜の花」が咲いている。牧歌的な風景である。

私の無知も、甚だしく、この街道、第一次世界大戦1914-1918の主戦場だったのである。フランス側死傷者187.000。ドイツ側163.000。

開戦から、丁度、百年。人間が、人間として、つまり、理知のある動物として地球を支配した。

もし、その結果が、この数字であるならば、「理知」とはなんなのであろう。

しかも、まだ、続いているのだ、同じことが。同族を殺戮する。種の保存と、まったく逆のことをするのは、我々だけである。ねずみの集団自殺に近付き過ぎている。とても、怖い。

2014.08.01 Fri

WOLFSSCHLUCHT2

Laon(ラン)の観光局で、「これからパリ方面へ行くのだけれど、見所、ありますか?」。非常に美形、しかも、感じがいいし、観光案内をしていること自体のモチベーションのオーラ。こういう若い美女は素敵である。私は、上の空で、その美女を見ていた。別に、若くなくてもいいけれど、こういう感じは、とても、いい。生き生きしているから美女に見える。でも、やはり、元もとの美女だったから、なおさら。ブ美女っていうのもいるのだ。物体として綺麗なだけけれど、私にはブスにしか見えない。私が、変なの?

二箇所の説明があった。その一つが、この記事のタイトルである。地図を見る。ほとんど、ルート上。Laffaux(ラフォー)という村に出る。大雑把な地図。まったく、分からない。取り合えず、村役場へ。愛煙家らしいオバちゃんが、役場の階段で煙草。カミサン、聞きに行く。カミサン、「説明自体がほにやらで、なんか、よく分からないの、取り合えず、Margival(マージバル)方向だつて」。

「なんだ? おめえはフランス人だろが、フランス語の説明がわからへん? 変やないかあー」

「うーーん、そうなんだけれど、なんかねえー、あんまり、行って欲しくないっていう感じなわけ」

「あつ、そうゆうことかあー、分かる気いーー、する。ほな、行ってみんべ」

行く。隣村に着いてしまう。おかしいから戻る。1917と書かれた十字架。この奥かなと思い、車を止めて歩く。突き当たり、なにもない。村役場へ戻る。オバちゃん、相変わらず、煙草。いつ仕事しているのかしら? 二度聞くのもねえーとなり、村役場をぐるっと回る。農家のお爺ちゃんがトラクターの整備中。「あつ、おまえ、あのジーちゃんなら、分かるでえー」、カミサン、聞きに行く。延々と身振りで説明が続く。でも、あまり、笑わない。

「あなた、やっぱり、隣村に行く途中に、馬の肘鉄の形のカーブがあつて、その右側の小道の奥っていった」

「肘鉄カーブ? さっき、通ったやんか、あそこ、なんもないでえー」

「通りからは見えないって」

行った。車を止める。あちこち歩く。雑木林しかない。もう、いいや、諦めようと車に戻る。ほんの少し先に、右に曲がる道。あつ、あれかな? カミサンと坂を下りる。鉄柵。右の鉄の扉。カミサン、開けてみる。あつ、開いてる。「進入禁止」と書かれた領域へ。右側、コンクリートの平屋。もっと、歩く。巨大なトーチカ。怖くなって引き返す。

WOLFSSCHLUCHT2

狼の谷2 第二次世界大戦 ヒットラーが指揮を取っていた場所

18ヵ月 22,000人を動員して作らせたフランス侵略のための要塞

建造物 860 トーチカ つまり コンクリートの防空壕 が その内 475

この「負の建造物」。日常のない建物。目的は、侵略殺戮。コンクリートの巨大な塊。建物。人が中に入るためのものである。ある意味、大変に芸術「的」でさえある。

ただ、それを作らせた男。芸術と戦争を同義にしてしまった倒錯者なのである。人類史上最悪の・・・。

破壊と創造。彼は、それを戦争と取り違えた。芸術は、人類最高の至上のものである。理知であり、破壊、創造、これらすべてが「脳内」で行われるからである。人間が発明したものの最高峰なのだ。もちろん、ブログも含まれている。スマイル。

2014.08.02 Sat

「と」を「の」に換えると、ガルシア・マルケスの小説のタイトルになってしまうから、「と」にした。

さっき、テレビのニュースで今日が、第一次世界大戦の開戦日と流れていた。

豊かな農業大国でもあるフランス。美食、ワイン、バカンスと、地上の楽園と勘違いしている外国人も多い。確かに、相対的に、そういう印象を与えてもおかしくない国だ。巨大な国ではないけれど、気候は温暖、土地が肥えている、観光名所が盛沢山。食料自給率が二百パーセントという恐るべき数字を誇る。芸術の都でもあったし、航空産業等のハイテクも発達している国でもある。

ノルマンディー、ピカルディー地方。北フランス一帯。麦畑、りんご、牛……。のどかな風景が広がる。

いくつかの町へ行ってみると、他の地方と歴然と違う。町中央の大聖堂、教会、その一部分だけが古い町並み。町全体が、新しいのである。第一次、第二次世界大戦。この地方は甚大な被害を受けている。のどかな風景が広がるノルマンディーの海辺。コンクリートの対戦闘機用のトーチカが、突然、風景の中に現れる。負の宇宙から飛んできた謎の物体に、幸いにして、今日では見える。ありがたいことである。

2014.08.03 Sun

脳ビル

二十代後半に、半年ぐらいボディービルをしていたことがある。腕回りが倍ぐらいにはなったけれど、元々太らない体質だから、ずっと続けると筋肉ムクムクというよりは人体標本化しそうな感じ。その後、旅行会社に就職し、週七日勤務の睡眠三時間という生活になり、半年間のボディービルの堆積は、三週間ぐらいで、木っ端ミジンコとなった。

なんか日付をみたら、五日間、ピアノの練習もしていないし、ブログも書いていない。お気に入りブロガーさんの記事を拝読はしているけれど・・・。

ピアノは禁断症状が出ている。ムズムズしている。ところが、ブログの方に、それはない。脳のブログ筋が、少しずつ溶解し始めているのだと思う。そして、昔のボディービルのことを思い出した。

ブログ筋が衰えてくると、「とりたてて書きたいことがない」という心理状態になってくる。プロの物書きではないから、当然の自然の摂理である。

やはり、私の脳はピアノ筋でできて居るのだな、と、再確認している。脳内が音で充満し始めている。

2014.08.08 Fri

書く

書く。

その必要は、多分ない。

でも、書かない人、俺は、あんま、好きじゃねえー。

自分と向き合わない、そういう人間、俺は、あんま、好きじゃねえー。

ブログ、なめんなよっ。

意味深かしら？

書く時間がねえーと、その、有難味が分かるんだぜって、健康と一緒によお。

2014.08.09 Sat

なんとか二回、更新した。いつ書いたのか記憶にない。なんか布団の中で書いた気がする。

そこまでしてブログを更新する必要があるのか？ もちろん、ないのだけれど、一度、書くことから遠ざかると、脳内執筆筋が溶解し、音筋軍団に占拠され、もう、世界全体が音でしか脳内に投影されない状態となる。それはそれでいいのではあるけれど、ちょっと、目が垂れ目になってしまうので、やはり、なるべく書くのである。ミュージシャンなのに、ミュージック脳化に抵抗しているのだ。脳キャパは広い方が、絶対によいと思っている。

「ヘーイ　メー——ン」

「イヤァー」

「ワッ　ゴーイング　オン」

「オー　イエー」

「オー　イエー　メーン」

昔、アメリカのブルックリンのベース弾きの家にお邪魔していたことがある。ミュージシャン同士の会話は、すべて、こうだった。やはり、業界外の方が聞くと、パープリンと間違えられる。日本人ミュージシャン同士だと、「ヤノピをくんなましシースをクーイでクナトンな」と、やはり、パープリン。うー——、こうならないように、私はブログにしがみ付く。

日本語「らしき」部分　作者訳

「ピアノの練習終わったら、なんとなく寿司を食べに行きたいね」

2014.08.10 Sun

ドリアン

ドリアン音階、ピアノ等の楽器を、歯で齧った方はご存知の通り、音階の六音目が半音上がる。

音階には、その、楽器を歯で齧った方はご存知の通り、短調と長調がある。ドリアン音階は、短調なのであるけれど、その六音目が半音上がっている分、少し、明るい音色になる。現代ジャズの基本音階です。物寂しい短調に、ちらっと半音上昇した音が混じっている。ジャズメンは根暗。でも、一途の光は必要。で、暗闇の中に、ちらっと長調音。トンネルの先の光音、みたいな感じ。

私も、ジャズメンだから思考回路は短調系である。暗いのだ。でも、ドリアン音階を、むしろ、それだからこそ、多用する。

単調な生活と波乱万丈。これを、当て嵌めると、短調な生活と波乱長調。

この逆説パラドクスアルキヘンデスの反比例の法則と引力を、足したり積分したりすると、ぐえ、私は、前者を愛しているのに、後者の人生という、むむむむむうーの矛盾が生じているのである。わっわっわっ、盆栽老人になりたいよおーー、俺っ！

先日、カミサンに痛いところを突かれた。

「あなたって、やっぱり、物書き向きだと思うわ」

2014.08.11 Mon

「えー、下田さん、あっ、愚グットブログマガジン、花丸です」

「あー、鼻丸三」

「花丸です」

「えっ、口頭で漢字の間違いつてあるのですか？」

「あります、裕センセがこれをお書きになられている限りは・・・。ところで、裕センセは大丈夫なのですか？　なんか、最近、記事を書かなくなったし、ピアノさえ触ってませんよ。あまり、笑わないし・・・」

「うーーん、鼻丸三」

「花丸です」

「うまあーー、なに、その、まっ、いろいろと、まっ、色も十色なんぞと申しましてな、お若いの、うまあー、その、その股かしらあー」

「れれれ、のオジさんにしかならんですよ、そういう回答」

「いや、なに、園まり子がね、所情事とね、ビートしたら、設楽さんが出てきて、そんな歯ナシ、よく有吉だあーーっていうからさあー、うまあー、今日のところは、まっ、懐も暖まったしとろこてんで・・・」

「どもども、裕です。うまあー、ちこっと、いそがすうけんど、みんなのブログ、よんでっがら、すんばいすんなあー、今、ずかんが、ちこっとでぎだがら、かきだめすとるんだあー、おれはげんきだがら、すんばいすんなあー。肥え(Brog)もよおー、ためれば大丈夫だあー」

「下田さん、あの麦藁帽子と肥たごのオジさん、だれですか？」

2014.08.12 Tue

ジャズピアノ

ジャズ、全然、興味ないし、私は駄目です。ジャズ、えっ、ちょっと、お洒落ね。と、二分化傾向がある。

別に、ジャズが最高の音楽とか、そういうランキングの話ではない。音の好みは、それぞれのもの。以上。

でも、現代日本で、「まず」、三味線から入りました音楽に……。こっちの方が、少数派のはず。一般的には、ピアノ=バイエルからというのが普通のはず。ましてや、五歳からジャズの英才教育を受けました。いるのかしら？ もし、いたら、そいつのピアノは、絶対に芋だ。そんな、塾でジャズの勉強しました。うなもん、ジャズにはならん。ジャズ理論の集積だから、超上手いとは思うけれど……。ということにしとかないと、私の立場が危うくなるのだ(笑。自己防衛のために、自分に都合のいい解釈をしてしまうのだ)。

だからね、ジャズという音楽は、受験勉強を勝ち抜いてきた「というベクトルの人」には、向いていない。

「はいはい、裕ですけど……」

「裕さんは、東京(の)大学でジャズピアノを専攻していらしたとの噂が……」

「えっえっ、僕、盗聴大学で、人体デッサンの勉強はしてたけど……」

「なんですか、盗聴大学って？」

「あれっ、ジェームズと、俺、同級だけど……、英国諜報部員養成学校よん」

「えっえっえっ、オックスフォードとかケンブリッジっ？」

「あのねえー、あんたさあー、俺の学歴聞いて、どうするつもり？ 俺は、確かに憂愁だった、幼少期から、振動とも言われてきた、良夫賢父(編集部一同?)ともな、はっはっはっ。いいよ、うじゃ、教えたげる。イギリスのよおー、ダックスフンド大学音感工学部卒(編集部注。裕センセはロンドンのアートスクール出身。昔から、なぜか、ミュージシャンが多いのである)だっ。うなもん、ジャズ屋には、ゼロなのだよ」

2014.08.13 Wed

芸能時間

昔、マヒナスターズというバンドがあった。もう、お気付きの通り、ミュージシャン用語である。私なりに訳すと「暇な人たち」。ちょっと前まで、私も、その一員という感じであったのに、現在は、そうではなくなってしまった。

とはいえ、物理的にブログの一記事を書く時間がないのか？ そんなことはない。十五分ぐらいの時間は、もちろん、作れる。しかし、人間の脳は、しかも、私のような老脳が、そんなにテキパキと脳チャンネルを変えるほど器用にはできていない。うーーん、以前にも書いたけれど、芸能時間というのは物理的なそれとは明らかに違うのである。

「うんうん、今日は、これを書こう」と、一日のなんとなく節目節目に考えていた。これが、ピタッとなくなっている。

残念無念ではあるけれど、仕方がない。ピア脳のみ健在。これだけでも十分だけれどねえー。

2014.08.14 Thu

バカンスという文化

フランスは、ご存知の通りバカンスの国である。その源泉はフランス革命と、私個人は理解している。バカンス、正確には、年間五週間の有給休暇。ずっと前に書いた通り、その代り、日本式のボーナスは存在しない。

八月中旬の今、私の住む通りの住民の三分の二ぐらいがバカンスに出掛けている。私が、日本を離れたのは三十三年前。その頃、私が現在の年齢になる頃、日本も残業がなくなり、少なくとも三週間ぐらいのバカンスがあるだろうと踏んでいた。私の予測は、まったく外れてしまった。結果は、真逆。

たとえば、こちらで従業員がバカンスを取れない状況になる。これは法に触れる。もし、その状況を雇用している側が強要する。これは、労働裁判になる。当然にして、従業員側が勝利する。個々人が、国=法律で守られている。この感覚は、日本の方には、意外と分かり難いように思う。会社という組織への帰属意識が薄いのは、そのためなのだ。帰属先は、フランス共和国という国なのである。そして、その国の運営者は、個々人なのだ。個々人が、バカンスというシステムを作り上げた。だから、バカンスとはフランス文化の一つであり、個人主義のもう一つの形でもある。

追記

私のブログの閲覧数、3という日が多いのですが、数字の問題ではなく、お付き合い頂いている方々が少数ながらいらっしゃる。改めて御礼申し上げます。閲覧数という数字自体に、随分前から興味を失ってしまいました。0の時に考えようというスタンスです。それと、ちょっと、ブログバカンスを取ることに致しました。なんか、更新するために無理矢理書いている感が強く、小休止。脳内にブログリズムは、すでになくなっているのに書いている。なんか更新という自ら設定した「擬似締め切り」に追われているという倒錯状態。職業作家じゃあるまいし、ジャズのピアノ弾きがなにをしちやるのだ？ 毎々、お付き合い頂いている方々へ、改めて正座お辞儀です。ご自愛下さいませ。では、アビアントっ！

2014.08.15 Fri

2014.08.18 Mon

2014.08.20 Wed

2014.08.22 Fri

私の音感だと、「ソム湾」。今、日本語訳を調べてみたら、「ソム」となっていた。「1」としたわけは、まとまった記事にしようと思ったのである。いや、ひとつの「小説に」と。

ブログが「文学」であっても、なんの、差し障りもない。今、私が拝読している、たった三人のブロガーさんの記事を、不在中のそれを、すべて拝読。その方々の筆力、文学能力に、あらためて感服した。長期に渡り、お付き合い頂いている「姉さん」の記事、その裏表逆転している文章力に、あらためて感服したし、隣国の先輩、その筆力、ニューモアに圧倒されたし、日常を詩に昇華させる名手の久々の更新記事に、うんうんと頷いた。久保の兄貴が不在。男性陣として「ブログる文学振興会」を守るのである。本当に、このお三方の文章力に圧倒された。これが「無料」で読める。「隣国情報」を読める。「日本の祭りの残像」を感じられる。ブログのパワーは・・・、半端ではないと思う。ならば、文学で構わない。

と、ソム湾の馬、羊、

魚屋・・

・を見ながら、考えた。で、ブログではなく、それを、私のブログ欄で「小説化」しようと思った。

2014.08.24 Sun

ブログという残像

「ソナム湾」と題した紀行文のようなものを、きちんと書きたいのだけれど、地名の日本語訳から始まり位置距離と、あまりいい加減な記事にはしたくない。ということは、きちんと調べないといけないのである。そうすると、なかなか、纏まった時間が見出せないとなってしまう。

私の生活環境が変わってしまっている。諸々の事情があり、フランス史の勉強もしないといけない。フランス国旗の意味から人口面積と、曖昧な知識をきちんとしたものに変えないといけないのだ。いやあー、これは始めてみたら実に楽しい。三十年以上お世話になっている国の歴史を学ぶ。悪いことではない。

ブログ更新のためのおちゃらけ文は、私の優秀な愚脳の蛇口を捻ればいくらかでも流出するのだけれど……。私自身、いや、それ以上に、読んで下さる方々が辟易されていると想像する。腰の入った記事を書きたいと思い始めているのである。ブログタイムが圧迫されてくると、こういう逆現象が起きる。ピアノの音も重くなってくる。

2014.08.25 Mon

フランス国旗

紀行文「ソム湾」、ちっとも、進まない。書きたい欲求ばかりで、調べ物も多く、難儀なのだ。と、なんか、突然、思い付いたのは、フランス史の勉強をしている。では、これを書けば一挙両得・・・。

「フランス国旗」

左から青白赤である。1794年に制定。青が自由、白は平等、赤は博愛ということになっているけれど、フランス革命軍の帽章が青赤。白はブルボン朝、つまり、王家の色、つまり、白百合。王家と庶民の和解という意味合い。

ところで、ソム湾の北にあるクロトワという漁村。南側のサンバレリー。明らかに漁民と、それを吸い上げる商業港。まったく、雰囲気が違う。延々と、庶民と王家とのアンバランスは続いているのだけれど・・・。

もちろん、ジャズ屋は、庶民なのだ。

でね、今、初めて分かった、この色の配分が・・・。

左から、33-30-37なんだって！ 庶民が計70なのだよ！ でも、王家の配分も30かよおー、オーケーかな？

ところで、クロトワ村の「名物？」って、私が直訳すると「徒歩漁師」なんだけれど・・・、また、しょう。

2014.08.26 Tue

昔気質

ユーチューブで、ゴルゴサーティーンを見ていたら、実写版の主演が高倉健と出て来た。

健さん、うちの親父と同じ年である。うわさでは聞いていた。非常にスタッフに気を使う方。

ユーチューブを弄っていたら、健さんのインタビューが出て来た。

健さんの映画は、たぶん、一本しか見ていないけれど、日本映画の大スターであることぐらいは知っている。

強面の俳優さん。あっ、「ブラックレイン」も見ている。

いい加減な記憶による健さんの受け答え。

非常に、無口な方だから、やたら、沈黙が多い。

「飛行機はファーストクラスだし、ホテルはスイートなんですけど……。飯食うために俳優をやっていたら、こうなりました。不器用だし、他に、仕事のあてもなくて……。でも、今でも、お金は欲しいのですけれど、でも、なんか、そういうものではないと、最近、この年(インタビュー時六十九歳)になって、僕も、少し、分かり始めています」

無口、こけおどしゼロ、スターっぽい言動ゼロ……。

寡黙ながら、なんとなく振り絞るような話の仕方。発音は、はっきりしているのに、ぼそぼそという感じ。

NHKの女子アナの誘導。沈黙。さらに誘導。短い答え。

「僕は、演劇の勉強とか、まったくしてなくて……」沈黙。

「ただ、飯食うために……、俳優に……」沈黙。

2014.08.27 Wed

冷夏

今年のフランス、正確には北側の半分は冷夏である。単語の響きは、とても素敵な日本語なのだけれど、なんか、すっきりしない夏になってしまった。寒いし、雨雨……。ソナム湾の田舎屋では隙間風が冷たく、夜間はストーブを付けていた。八月のストーブ。私の記憶では、今までに一度しかなかった。Tシャツ、セーター、薄手のジャンパー。海辺では、強風、小雨とぶるぶる震えていた。海水パンツと水中眼鏡の出番は、ついぞなかった。

今年は、六月まで快晴の日がやたらと多かった。「今年は、猛暑かなあー」と皆で話をしていたら、七月に入り雨、肌寒い日々。なんか、たった一日だけ三十六度という日があった。歯医者とのアポイントがあった日。通りに出たら、頭が、少しくらくらした。八月も、曇り、雨、時より晴れ間……。

昨晚、カミサンと長期天気予報を見ていて、私が冗談半分に「九月からさあー、暑くなったりしてな。七月八月のバカンスはなんだったのだ、なんていうシナリオになっちゃったりして……」。

あらあらあら、九月一日から快晴、気温が上がり始める。なんなんだあー。夏の間、ブルターニュとかノルマンディー地方に出掛けていた人々。仕事始めの日から快晴。オフィスから、むむむうーと青空を見上げる。そして、くくくうー、海辺でストーブ焚いてぶるぶるしていた今年の夏のバカンスを思い出す。脳内にはミッシェル・ルグランの「思い出の夏」が木霊する。

ぶるぶる、今日も肌寒いのだ。

2014.08.28 Thu

ドレミワンワン

今日は、ちょっと長くなる。改行もしない。今朝、起きる。またまた、雨だ。心が病弊君する。おぼろげな記憶では、午前11時38分23秒ぐらいに止んだ。久しぶりに、今日は時間がある。庭の芝刈りもせんければならんし、クロトワのスーパー、カフルコンタクトの駐車場でバンパーの左側をぶつけられ、割れた部分の最後の仕上げ、および、娘へお披露目。娘の車なのである。素人板金だから三十点ぐらいの出来なわけ。ぼろ隠しに、なんかのステッカーとっていたら、カミサンは、どこを直したのか分からないというし、娘も、ステッカー貼る意味なんかないよ、パパ。パパは知っているから気になるけれど、知らない人には、なんにもない。と、諸々を消化する予定で起きたのに雨。いい加減にして頂戴、君たち。と、くさくさしていた。おっ、急に晴れ。段々、気温が上がる。よっしゃー。予定を消化し、ピアノ。その前に、パソコンチェック。大変に素敵なメッセージ。ありがとうございます。それから、隣国の系たんさんのブログを拝読。ゲラゲラ笑う。おっ、そういやあー、俺もカミサンと、似たような会話。「やかましいねえー、あのワンちゃん、ワンワンって・・・」「えっ、なに、ワンワンって?」「れれれのオジサン?」「わおーわおーうとしか聞こえない」「あれ、フランス語でなくのか? 日本の犬はワンワンだよ」「えっ、どうしてそうなの?」「日本語でなくんだらうな・・・」。

「おい、イサオ、レとソの間ぐらいの音出してくれよ」「ヘーイメェーン、ディーフラットだぜ」「イサオ、ちょっと、ソル出してくれる」「ミのシベモルを、ちょっと、ドリアンってな感じいー」」「ディエーズ、多いと、明るく聞こえるよ」。

RE、これは、我々、日本人には「レ」である。フランス人には、鼻から半分息を抜き「つつ」、喉の奥の方で音を出す「レ」。ううううー、ピアノは、やっぱ、エスペラント。

「ところてんでよおー、おめーには、俺のヤノピ、どう、聴こえてんだ? 自国語に一番近い音に聴こえんだな? 俺のドレミは、絶対に、簾って、おめーらには聴こえているはずだっ!

だあーら、間違った音なんてねえー。すべての言語は、方言なのだという放言なの?」

2014.08.29 Fri

地下アイドル

ユーチューブで「たけしのTVタックル」を見た。「地下アイドル」だって？

うーん、「銀幕の向こう」、「手に届かない存在」という「アイドル」ではなく、「身近な」。昔のスターとかアイドル、これはこれで粋である。「手に届かない存在」。でも、フランス革命理論だと、どんどん、それは引き吊り降ろされる。

ちょっと、暴言だけれど、ベルサイユ宮殿。贅の、税の、勢の極致。庶民が爆発した。でも、今現在、これで我々も潤っている。当時の方々は「元は取れなかった」、けれど、今、我々が元を取っている。権力って、微妙である。

で、フリージャズって、地下の代表格である。だから、私は「地下ジャズメン」のままだ。

それでね、「地下アイドルの方々」の意気込み、野望の凄さに仰け反った。「いずれ、AKBさんを超えます」「あたしは、マイケル・ジャクソンになりたい」……。びっくりした。「地下」でさえ、営業、戦略のひとつになっている。

あのねえー、ずっと、地下にいる我々のこと、忘れないでね。

高望みなんていうレベルじゃなくて、飯を食べない。「地下」って、そういうものなのだよ。

追記

諸々の社会復帰手続きに追われているのだけれど、大体、十年ぐらいやると、その道の一人前。つまり、飯の種になるのに、芸術芸能、これは、そうはならない。ほんの一部のみである。でね、地下人間の私なんだけれど、やはり、少し徒労感が染み出しちゃったりもする。いい年こいて、なにをして居るのじゃあーとか……。ははは、これはいかんのである。地下人間として毅然としていなければならんのだ。いいものを熟成して居るのじゃ、わしはあー、とか、そういう風に思わないとね、湿気で倒れてしまうのである。難のこれ式理論でカバーカバのコカバカーナノの馬鹿。おえー、あんまよおー、日の目見ないと、ははは、これ、以前書いたけど、吸血鬼になっちゃうぞって！ あれ、なっちゃうてるかもしれん。なあーんちゃうてるなんてね。

2014.08.30 Sat

タモリさん

昨晚、布団の中でユーチューブを弄っていたらタモリさんの「笑っていいとも」の最終回が出て来た。実にタモリさんらしく、あっけらかあーんとした空気。

タモリさんが芸能界デビューしたのは、今、調べたら1976年の四月と出て来た。私が高校二年生の時だ。ラジオの深夜放送、密室芸に痺れていた。まったくお笑い芸人には興味を感じなかったのに、タモリさんには夢中になった。これは、二秒ぐらいその理由を熟考すると・・・。

タモリさん=ジャズメン

しかも、デビューの切っ掛けが初期山下洋輔トリオとの邂逅。山下さんのどしゃめしゃピアノに憧れていたし、タモリさんの「白鍵だけのチック・コリア」「ご家庭で出来るフリージャズ」、これらに仰け反っていた。そして、ピアニスト裕イサオのなんらかの布石になっていたことは間違いないのである。

現在、六十九歳のタモリさん。淡々とした感じ、騒がしくない。弟子とかもいない。飲み屋で飲んでいても芸能人だと気付かれないエピソードなんかも多いらしい。なんか、この普通のおじさんぽい感じが不思議である。デビュー当時、好感度の正反対を突っ走っていたことを思うと、なんか不思議。たけしさんの相変わらずの腕白おやじ振り、さんまさんの、まあ、よおーーしゃべるな、このおっさんと、このお二人と真逆である。でも、温厚なキチガイのオーラがどこかからめらめら漂っているようないないようないるような・・・？ そういや、山下洋輔さんのソロコンサートの打ち上げに参加させて頂いたことがあるけれど、山下さんが、あまりに物静かなのに仰け反った。汗だらだら、歯食い縛って、狂気の演奏の後だからねえー。

うーーん、どうでもいいのだけれど、タモリさん、たけしさん、さんまさん。自分は、どのタイプなのかしら？ うん、年齢が近いせいもあるのかな？ あそこまでおしゃべりじゃないけれど、さんま系であることが判明した。ピアノ弾く前も弾いている間も、打ち上げの時も、私は、あんま、変わらない。明るいおじさん感が漂っているはずだ。後、さんまさんには天才ぽい感じがないうもねえー。

2014.09.01 Mon

弾けなくなっていた曲

なんか、突然、重い重いテーマになるのだけれど、東日本大震災のあと、弾けなくなっていた曲がある。「海」。この曲、技術的に弾けなくなっていたわけではなく、心身症のせいで・・・。「うみ」の方ではなくて、「まつばらとおく」の方です。この曲、非常に好きな曲だったけれど、弾こうとすると・・・。そう、ソナム湾の満ち潮の時の、水が盛り上がってくるところを、ちらと見た。やはり、怖くなった。少しずつ水面が盛り上がってくる。怖くなったから、足早に立ち去る。

マルセル・デュシャンの晩年のインタビューの中に、たしか、「覚えていることは容易いのですが、忘れることは難儀ですね」という件があって、あれっ、逆じゃなかったかなと一瞬思ったことを思い出す。今でも、なんで逆と感じたのか分からない。

こういう震災の後遺症は、出来ることなら忘れてしまいたいという本能もある。けれど、いや、このまま残っていて欲しいとも思う。普通の暮らしを、幸いにして、私は送っている。この程度の後遺症、おこがましい限りです。

さっき、FM音階の練習をしていたら、なんか、突然、弾いてしまったのである。息苦しさで涙で手の動きが止まってしまった曲を、私は、突然、弾いた。改めて、いい曲だなと思った。元に戻らないものは戻らない。仕方がない、後遺症を引き摺ったまま、ページだけでも捲るしかない。

2014.09.02 Tue

ソナム湾2

今のところ、ブログを書く時間は多少ある。書きたい気持ちもある。で、前にも書いたとおり「ソナム湾」と題した紀行文のようなものを書きたいのであるけれど、この「調べ物」、ここで躓く。気力がないし、そこまでの時間はないから、放置新聞となる。ということは、裕センセお得意の「エッセンスだけ抽出する手法」、こっちにしないと進まなくなる。で、そうする。

大体、その地図を引っ張り出すことさえめどうなのだ。ちょろっとググってみたら面積75km²ですって。じえんじえんピンとこない。日本語の説明文とかほとんど出てこない。そういえば、クロトワ村から対岸のサンバレリーまで3kmだった。徒歩で渡ったから覚えている。ということは25kmx3km=75km²。湾の奥行きが分かったぞ。25kmに渡って干潮時は海底が露出する。満潮時は、約9mぐらいの水深となんかに書いてあった。干潮時に、この湾を徒歩で横切るガイド付きのツアーみたいなものがあった、我々家族全員で参加した。これは、後日だな。

はい、なにを書きたいのか？ 家族でクロトワ村を訪れたのは二十年ぶり。息子五歳。娘三歳。午前十一時ぐらいに浮き袋だの水中眼鏡、莫蔭持って、「うおー、海海」と言ってはしゃいで海岸へ。「おわあ、マジかよおー、水、ねえーどおー」。これ、お笑いコントに絶対なる。とはいえ、つるつる滑るどろんこ。息子が大層気に入って、泥遊びに急遽変更。私は、ずっころばないように娘をずっとだっこ。泥だらけではしゃぐ息子がおもろかった。

文系ラグビーマンのような体躯の息子と、理科系ほっそり娘の後姿を、カミサンと見ていた。「マジで、大きくなったよなあー、その分、俺らが老けちゃったけど、うまあー、それはそれ、ね」、などと言いながら、カミサンとビールを飲んだ。蒸しエビ、ムール貝、魚のスープ・・・、夕飯時に息子と娘に聞かれた。「パパ、今回の旅行でさ、どこが一番印象に残った？」「ははは、うん、お前らだよ」と私は即答し、心の中で、ちょっと、目頭を押さえちゃっていたかもしれん。

2014.09.03 Wed

私のブログの完コピブログ

昨晚、調べ物をしていたら、私のブログの完全コピーブログが出て来た。一記事とかではなくて、私の記事128編のみの、つまり、私のブログ記事のみのもうひとつのブログが……。思わず、吹き出した。無断転載なんていうレベルではなく、私の記事のみ。「ピアノは私だ2」の双子のブログである。他にも、二つの私の記事無断転載ブログも……。

三つともドメインを調べて見た。自動ブログである。もう、腹も立たない。黙認することにした。追っ掛ける気力、時間もないから、放ることにしてしまった。「個人の悪意」とも違うから追跡もしない。

しかし、完コピには参った。むしろ、私の営業をしてくれているとも思える。お礼を言わないといけないような気にさえなった。ぱっと、思ったのは、「ありゃ——、これはあ——、リンクしないと失礼なんじゃねえーのかっ!」。もう、めどうだから無断転載ブログ、片っ端からリンクしちまえ——とも、二秒考えたけれど、もちろん、そんなことはしない。私のお気に入りブログ

ガーさんなのか、自動ブログ一覧なのかリンク欄の意味がメチャクチャになってしまう。

この完コピブログ、ご丁寧に、すべての記事の冒頭に、わざわざ私の名前を入れてくれている。ここまできると、なんだか清々した気にさえなる。でもねえ——、その運営なさっている方々……、以前書いた通り、著作権とは人権のことなんだよなあー、あんま気楽にやられても

なあー、おい。ゴルゴサーティーンとジェームズ・ボンドとターミネーター、俺、個人的な知り合いなんだよなあー、酒の勢いでよ、ちよろ、なんて漏らしちゃったら、彼ら、なんていうかなあー？ 僕、責任取れないから、早めに自制してね。

それかさあー、私のブログの「モノマネブログ」、これにして頂戴。こっちも読むの楽しみじゃんっての。閲覧数も増えちゃったりしてねえー。あっ、しかし、閲覧数3とか5なんちゅう閑古鳥ブログのコピーとか無断転載とか、なんかになるの？ えっ、あんたのブログ読んでんの、うちの機械だけじゃん。えっ、3って、それだったの！ ご愛読、誠に誠にありがとうございます。くくくっ(泣き笑いじゃ)。

2014.09.04 Thu

パリという町

私は、パリがあまり好きではない。どんどんディズニーランド化してしまったから、人の暮らしの匂いがなくなった。もちろん、18区、19区、20区と下町地域には、今でも、それは残っている。けれど、町全体のバランスからするとディズニーランド化の面積が多過ぎる。観光客で溢れかえる。それで食っている人々。不動産のとんでもない価格、家賃。当然、世界中からの金持ちに占領される。パリジャンなんぞ、どこにもいないパリと呼ばれる書割。

フランス史の勉強をしていると、昔、モンマルトルの丘はパリ市ではなく、モンマルトル村だった。郊外だったのである。田舎の空気と低家賃に惹かれて、芸術芸能方面の人々が集まってきた。昔っても1860年だから、そんな昔ではない。現在も、芸術芸能方面＝貧乏は変わらないから、低家賃の郊外へと移動する。何時の間にか、ポンピドゥーセンターの近くに住んでいた私も、パリから三十五キロ離れた隣の県に住んでいる。仲間たちも、近郊、郊外、地方都市と、やや、離散状態。会いに行くにも、片道二時間とかになってしまった。ニューヨーク在の友人も、こちらもまったく同じと言っていた。東京もそうなんだろうなあー。

大金持ちと巨大資本と観光客と、それで食べている人々「だけの町」。

こんな町から、新しい文化など、絶対に生まれてこないのだ。過去の遺産は素晴らしいけれど、それは認めるけれど、過去の遺産を磨いているだけじゃねえー、文化って、そういうもんじゃないと思うんだけど……。うん、やはり、パリ、嫌いなのだ。あれれれ、私の出演するジャズクラブの周辺は、嫌いじゃないな、考えたら……。そうかあー、私が出没するパリは、その、なんだ場末ばかりなんだけど、文化は場末で蠢くということにしちゃおとっ。

あっ、そうそう、ゴッホみたいな絵を描くとか、マイルス・デイビスみたいな演奏するとか、過去のコピーを文化と勘違いしちゃう方々もいて、そうじゃないんだけど……。などと偉そうなことは言えんのだ、私のピアノ奏法が新しいのか？ 疑問の疑問……。新しくはないけれど、ちょっと、独特ということにしちまおう。お後がよろしいようで……。

2014.09.05 Fri

珍しく記事を削除した

先ほど、二つの記事を削除した。といっても保存されていた未公開記事なので、私しか内容を知らない。

とりたてて、仰々しい記事でもないし、比較的、良く書けている方。でも、公開を見送ることにした。なぜか？ はい、読み返したら、もちろん、その方の取り方なのだけれど、「自慢話」にも取れるからである。自慢話はいかんのか？ うなことはない。別に構わないし、健康にも良い筈だ。私の記事は、そのために書いたわけではないけれど、「そのようにも取れる」、ここが気になった。はい、私は「私の自慢」、好きではないのである。うな、大した人間ではないと思っているから、そんな自慢するようなことも、とりたててないのだ。

でも、人の自慢話を聞くのは嫌いではない。もちろん、私には嫉妬心なんぞまるっきりないから、単に、「わっわっわっ、そういうことも自慢になるのだなあー」と素直に感心しているだけなのだ。なんか、健康な心理ってこんな感じなんじゃね、という感じ。なんか、私の方が、不健康な気になるのである。けれど、あっ、今年のいんげんの出来の素晴らしかったことっ！ これは、大声で自慢したいっ！ 私？ 私なんぞタワシなのだ。立派ないんげん。うるうるうる。

調子に乗って追記

たとえば、だ。「裕さん、フランス語、上手いすね」と、結構言われる。でも、である。私がフランスに上陸したのは31年前である。そこを、よお——く考えると、酷いレベル。「えっえっえっ、その程度なのですかあ——」と言われても仕方がないのだ。おっ、そう考えると、私のピアノも？ ちょ、ちょい待ちいー。5歳から12歳=7年でしょ、35歳から55歳=20年。計27年だよおーん。コンサート回数、うん百回。おわあ——、下手過ぎない？ 下手上手の王道じゃんかよっての！

2014.09.06 Sat

裕イサオのブログ文体が、微妙に変わってきている。とりわけ、九月に入ってから、その兆候が顕著である。安易な批評は控えるが、非常に文体にしっとり感が現れているように思う。「随筆」の匂いがしてきている。元々、彼は蟬プロ作家であったことを思えば、その筆力は頷ける。しかし、私が非常に疑問を感じるのは、彼はミュージシャン、つまり、「裕イサオ」という芸名を確立しようとしていたのではないのか？ ここ近々のブログ記事を見る限り、「本名」との葛藤を感じるのである。「本名」と申し上げるのは、彼の中の、「物書き」の部分である。大変に重く暗い本質が、物書きとしての彼の持ち味であった。変名してから、彼のスタンスが我々には見えなくなったのである。物書き=本名、ミュージシャン=芸名である裕イサオ。これが交錯している。はっきりと、両方のスタンスを決めるべきである。ミュージシャンのブログを目視して書かれ始めたブログも、曖昧感を露呈し始めている。元々、彼は、美術、物書き、音楽と複数草鞋系であるからこそ、彼の年齢を考えれば、少しずつ、ユニファイするべである。そうそう、無理は利かない年に、彼もなっている。もし、物を書くことを止めない意向であれば、こちらを本名。音楽を芸名とするべきではないのか？ 少なくとも、彼の書く、物を書くスタンスが曖昧である。これは、私は、あまり、芳しくないと思いたい。

と、社会復帰をすると「本名に戻る」わけなのだけれど、「裕イサオという人物」は、十五年前から存在している。この総責任者は、当然にして私である。後者に集約しようとしてきた。でも、出来なかったから変なことになる。そして、物を書く根源は、「本名の方」にあるのだ。でも、十五年以上付き合ってくれているミュージシャン仲間に、「あのおー、俺の本名は、石橋徳三郎(仮名)なんですけど・・・」、ぶっ飛ばされる。芸名？ 人に自分で名前を付ける。その責任は？ 私は私に別の名前を付けたし、この名前は、すでに公になっている。

2014.09.07 Sun

シャトーガイヤール

Château Gaillard(ガイヤール城)、Les Andelys(レ・ザンドリ)という町にある。パリから北西のルーアンに向かって100キロ、ルーアンからパリへ向かうと40キロに位置している。

こちら北フランスは、少し前に書いた通り、七月八月は冷夏。雨の続く肌寒い天気が続いた。九月一日から、お天気様の意地悪なのではないかと思うぐらいの快晴。普段の八月の気候が続いている。おまけに、お天気様も、少し反省したらしく北と南の天気が逆転。北側、快晴夏日、南側、雨。南仏ばかりがお天気が良く、私は「税金返せっ」と嫌味ギャグを言ったりしている。

あまりにお天気が良いから、「そういやあー、シャトーガイヤー(ル)に行ったの十五年前ぐらいだったかな？ 絶壁の上の廃墟だったよな。その下にアンデリス(レ・ザンドリ)という町があったよな。行ってみんべえー、随分、記憶も曖昧になっとるよなあー」とカミサンとちんたらボロ車で行ってみた。ところで、()内は、ウキペディアの日本語訳で、実際の私たちの会話の音と随分と違っている。町の名前は、確かに頭にLesを付けるとウキペディアの方が正解だけれど、私たちはLesなしで発音しているので、このようになる。と、カタカナ式にフランス語を発音すると、通じないという現象が起きることは、皆さんご存知の通りです。やっかいなのだ、フランス語。私はミュージック脳でフランス語を独習したから、つまり、頭を使わずに音で入力しちゃったわけ。なんか意外と正解だったのかも・・・。

行った。じえんじえん十五年前と印象が違う。私の頭も相当いかれているのだなとしみじみしていたら、カミサンもじえんじえん記憶と違うと言っている。夫婦揃ってかよおーと嘆いていたら・・・、ガイドブックをちゃんと読んだら・・・、2006年に城塞中央部、外壁の一部を復元と書いてあった。諸、セーヌ川を見下ろす石灰岩の断崖の上の廃墟だったはずなのに、なんか、立派な城跡になっていたのである。反対側の小山の方から向かっていったから、最初に目に飛び込んできたとき、びっくりっ！ 「おっ、ずげえー！ でも、あんなだったかなあー？」と自分の脳力をまず疑った。俺の記憶力、相当劣化してんじゃね？ くくくうーーと。

セーヌ河畔、麦畑、羊、牛、石灰岩の白い絶壁、セーヌを渡るペニッシュ船・・・。

シャトーガイヤールの建設が始まったのは1196年と書いてあった。難攻不落の城塞として。城の歴史を読んでいたら延々と戦い戦い戦い。ちょっと、気が遠くなる。いやあー、昔は戦いばかりだったのだなあーと一人呟き、あれ？ この平和な時代がフランスで始まったのっていつだったけ？ 高々、七十年しか経っていないのだ。なんか、今更ながらびっくりしてしまった。

2014.09.08 Mon

私の家は、英語式にいうとシティーハウスである。左右がお隣りとくっ付いている。

こういった家で、たとえば、馬鹿でかいグランドピアノをギンギラギンに弾くと、両隣りの方々、及び、いや、その前に、私の家の中にいる私の家族への甚大な騒音被害が予測される。しかも、私のピアノは、それでなくとも喧しい。でも、仮に、ジャズではなくストラビンスキーの春の祭典を弾いても、喧しいことは喧しい。そりゃー、聴きたくもないピアノ弾きの練習なんぞ、騒音でしかない。と、やはり、両隣りとの不和、家庭崩壊などは避けたいので、私はヤマハのサイレントピアノで練習している。アップライトの中級、イギリス製。

このサイレントピアノとはなんぞや？ となる。ヤマハのそれがもっとも優秀。はい、弱音ペダルをブロックすると、ピアノ内部のハンマーは動いているけれど、弦には触れないようにブロックされる。当然、そうなるとう音は出なくなるので、ヤマハのシステムは鍵盤の下にレーザー光線が流れていて、鍵盤下部の鉄板がそのレーザーと接触した分の電子音が出る。レーザーとの接地面で微妙なタッチの変化も出せる。音源は、ヤマハの最高級コンサートマスターグランドピアノである。GFXというやつです。と、非常に優秀なシステム。ハンマーが内部で動いているから、電気ピアノの軽い鍵盤タッチとはまったく違う。

でも、ハンマーの動き、弦を叩くタッチ、そして、ピアノという箱の中での共鳴音・・・、それから、私の感情移入、増音ペダルの踏み加減。これは、アコースティックピアノでないと出せないのである。現在、両隣りはバカンスで不在。カミサンだけ騒音被害。ごめんごめんといいながら、サイレントシステムを解除した本物のピアノを演奏しているのである。なんか、しみじみと、俺ってピアノ弾きなんだぁーと実感しちゃっている。

2014.09.09 Tue

フランスの女性たち

私が会社員の頃の同僚の一人に、「どうしてフランスに来たのですか？」と、女子社員が聞いた。たぶん、なんかの飲み会だった。「あっ、俺っ？ うん、フランス女と一緒にいたかったの。結局、失敗したけど・・・、ははは」。この単純明快な答えに、インテリの私は唸ったのである。

「フランスに来る理由」は、諸々あるだろう。この同僚の答えに私は仰け反りながら笑った。もう少し、脚色してもいいんじゃないかって。

「じゃ、裕さんは？」「二十世紀の美術史を変えてしまった男、マルセル・デュシャンの生まれた国のエスプリを知りたかった」のである。私には、「フランス女」という語彙は違和感がある。そのですね、オブジェでは彼女たちは、ない。世界最先端の個人主義の国で「女性」なのである。「女性」であり「個人」でもある。この数学的に構築された脳構造を持つ女性たちなのだ。「女」なんて、呼び捨てには出来ない。怖くて・・・。なあ——んていうのは、本当ですけど、でも、急に俺になるけど、俺は日本女性の方が、こっ、怖いっ！ どうして？ ひたすら怖いよお——。どうして？ こっ、怖いっ。どうして？

回答

フランスの女性は、その、「内に秘めない」から、つまり、爆発もしない。発火地点を数学的に分析し易い。すべてのもやもやは、すべて、言語化、つまり、説明がなされる。説明に納得がいかなければ、法律が介入される。つまり、離婚である。つまり、理科系脳の私には分析し易いのである。あれ？ 質問は・・・、どうして日本女性は・・・だったんだけど・・・。ダッタン人の裏回答でしたあ——。

2014.09.10 Wed

愛着

私は物を集める趣味ゼロ人間である。なるだけ物はない方が好きな性分。ピアノとパソコンを置ける机と、そこそこの椅子があれば良しとなってしまう。

でも、少ない持ち物への愛着は非常に強い。そのうちのひとつ、ホンダシビックハッチバック1997年型。2002年に中古車として我が家に来た。それから現在まで、私の人生の一翼を担ってきた。いろんな旅を一緒にしたのだ。愛着も一入である。その前の車はトヨタカローラ1985年型。これは友人のひとりが乗っている。

その私にとって家族の一員のような車、滅多に故障しない丈夫なやつなのに、二日前、坂道を上っていたらボンネット、運転席から見た右側から煙。水温計がレッドゾーンへ。低速で自宅まで辿り着く。取り合えず、エンジンルームが冷めるまで待つ。冷却水がほぼゼロレベルになっている。ラジエターへ冷却水を補填する。翌日、テスト運転、二十分後、煙。エンジンルームを冷ます。開ける。向かって左側のラジエターから液漏れ。車の下を除くと、ちたちたと冷却水が漏れている。

なんか、我が愛車を見ながら悲しくなってきた。お前も年だもんなあー、限界来てんのかなあー、寂しいなあーとしんみりしつつ、なあーんのなんのおー、俺「たち」、まだまだ大丈夫だぜえー、なあーと愛車を軽く叩いた。今、ガレージに行っている。翌々日には、元気になって帰ってくるはずだ。

2014.09.11 Thu

忙しいのか、暇なのか、良く分からない毎日。今月から忙しくなるはずが、なんか、フランスなのかしらねえー、諸々諸々諸々の諸(くどいっ!)手続きが遅延遅延。私は、ちゃっちゃとやっているのに、諸手続きをしてくれる方が、バカンス中だったり、任せた同僚との引継ぎがぐちゃぐちゃで書類が紛失したりと・・・、と、別に怒ったりはしない。そういうリズムなのである。結局、九月から忙しくなるはずが、一ヶ月伸びてしまった。じゃ、暇なの？ 暇になればいいのだけれど、この諸手続きの遅延による多忙という、この、なに、フランス特有の忙しさに追われているのだ。書類が紛失すれば、当然、別のやつを容易しなければならないし、持って行くと担当者がお休み。先方で容易するはずの書類がない、から、私が奔走し取り寄せる。しまいには、担当者が怒り出す。なんでうちは、いつも、こうなのおー！ オーガナイズがめっちゃめっちゃ。いらつくいらつく。私は、ノーコメント。

健気にも、ジャズで食えないから社会復帰をしまあーすと言っているのに、「諸手続きの遅延遅延」。うまあー、俺の口座が底付かない内に、よろしく願い申し上げる。

で、結局、ブログは、お陰様でちゃんと更新しているし、結構、新規のご訪問も多いし、閲覧数も、閑古鳥ブログにしては悪くはないし、ピアノの更なる技術探求に邁進しているし・・・、私は暇なの？ 忙しいの？ 朝四時に起きてドゥゴール空港からニース空港に行ってレンタカーでモナコに行って、ニース空港、夜九時発の飛行機でドゥゴール空港に戻ってきて、帰宅が午前一時なんちゅう生活を私はしていたのである。四半世紀。失った時間を返してくれっ！ と、叫びたいのだけれどねえー。でもね、会社、営業、歯車、こういうもので、私は、うーん、良くも悪くも鍛えられたし丸くなった。で、芸人としては、たぶん、パワーダウンしたんだろな。うまっ、そんなもんだわな、人生ってよ。

脳(能)あるおやじは 丸くなった 振りをする

でへへ。

追伸

さっき、全部の書類を諸手続きの場所へ持って行った。帰宅する。おりゃ、サインするの忘れていた。戻る、サインする。人のことは、もう、言えない。わっわっわっ、今日でブログ二周年っ！ ハッピー場末えーートウミー！ パチパチパチっ！

2014.09.12 Fri

「もしもし、下田モーターさん？」

「あっ、裕センセ、下田でございます」

「おー、社長、話が早いな。あのおー、下田さんね、先日、お宅で購入した、なんだっけな、馬のマークの付いた赤い車ね、イタリアの車だっけな、あれさあー、買ってから気が付いたんだけどね、二人乗りなんだねえー、彼女乗せると、カミサン乗せるとこないだよ(痛てっ)。あとさあー、俺、スーパーの買出し好きじゃん、うで、買い物袋、置くところないんだよ。それとよおー、スーパー行くとよ、なんだかよ、人だかりがしてよ、みんなで写真撮ったりよ、鬱陶しいんだな、俺。自己顕示欲ねえーからよ。なんかさあー、四人ぐれえー乗れて、地球に優しい感じの人目に付かないセカンドカーないかしら？」

「裕センセのお気に召すか？」

「おっ、いいのあるわけね、その言い方」

「はい、ミスズ・テノールなんか、どうですかね？ リッター三十キロ以上、四人乗り、簡素な作り、エコロですよ」

「あっ、いい感じいー」

「でも、裕センセのイメージとは、ちと？」

「いやあー、僕はねえー、そんな、なに、自己顕示欲が、なに、なんぼのもんじゃいという主義なの。で、そのテノールちゅう車、いくらすんの？」

「八十万円です」

「八十万って、数字だと80万？ 万の前に0がひとつなの？ あんたねえー、そんな古いやつじゃなくて新車の話をして居るのじゃ、わしは」

「裕センセ、新車の価格ですが・・・」

「下田さんねえー、万の前に0が二つ以上ない単位なんてあるのか？ 僕には分からんなあー、そういう数字」

「おっほほほ、あら、下ちゃん、お元気？」

「あっ、奥様っ！」

「おっほほほ、小さくてね、一番高いやつ頂戴。おっほほほ、それから、主人が売れない頃乗っていたホンダシビックハッチバック1997年型のレプリカ作って頂戴。エンジンは、ポポシェでいいから・・・、昔流行った羊の皮を着たオオカミっていう感じに仕上げて、ね」

2014.09.13 Sat

日本エレキテル連合。なんとなく、ユーチューブを見ていると、今、ブレイクしているような感じ。

以前にも書いたけれど、このお二人、日本のお笑いの新境地を開くと私は睨んでいる。筒井康隆、志村けんが合体している。しかも、いわゆる「受け狙いのお笑い」ではない。こり辺りに、中野聡子さんのセンス、および、裏天才の素質が覗いている。さまあーずの三村さんと同じで、この裏天才のエスプリを十二分に視覚化している小雪さん。素晴らしいの一言です。

私は、お笑いには非常に煩いのである。

日本エレキテル連合感電パラレル。毎日、ユーチューブにアップ。私のブログ更新の原動力になっちゃうのだ。

始めたものは、止まらなくていいのである。クローズゼロ、小栗旬の台詞に、「人は立ち止まらない・・・、だから、行くしかないんだ・・・」。

中野さん、橋本さん、どんどん行ってな。でも、マイナーのままできて頂戴ねえー。いや、お金はがっぼがっぼ稼いで下さい。いいチャンス。でも、芸はマイナーでいて欲しい。マイナー？ 違うんだな、俺にとってはメジャーなんだよ。拍手拍手拍手を惜しまない。

2014.09.14 Sun

ブログって、なんなのだ？ とも、脳内をしばしば夜霧。

64241

これが、私のブログの日毎の閲覧数である。あれっ？ 違うよ、全部くっ付けなくて頂戴。6が一日の閲覧数。次が、4、次の日が2だよ。

もし、この数字が、私のコンサートの動員数であれば、解雇されている。当然だ。現実の知り合いの数よりインターネットの方が小さい。意味がない、パソコンを叩いている……。インターネットネットワークだよ、ね。

ふむ、やはり、私のブログというよりも書くものがつまらないという結論になる。つまりは、私という人間がつまらないということに。

そうなのかも知れないのだけれど……。ここで、私がどう出るかだなあ。「はいはい」と返事？ 「なるおー、世間があー」という返事？ うーん、ここでね、芸能家のレベル値が如実に出るのだろう。

ははは、またまた、クローズゼロの台詞から、「さすがスズラン(高校)だな、折れねえーよ」。ナルミ・タイガの台詞なんだけれど……。この後、すいません、脚色します。「さすが裕イサオ、折れねえーな、体調がいい時にタイマン張ろうぜ」という台詞をナルミがマキセにいうのだけれど、マキセの台詞は……。つまり、私の台詞にしちまうのだけれど……、

「今があーん、絶好調おーんと、いっとるだろがあーん」

2014.09.15 Mon

歴史というもの

私は理科系人間なので、たとえば、中学高校の時に、一般的には「いわゆる暗記物が苦手な部類」に属している。

そういう意味も含めて、「歴史」に興味を持ったことは一度もない。数学の問題を解いたり、音楽理論を学んだりの方に心のベクトルが行ってしまう。

たぶん、今でも「暗記物」のような感触があるのだろう。歴史家からぶっ飛ばされる。過去を学ぶこと、解釈すること、分析することは、我々の未来を学ぶことでもある。歴史＝暗記物という中学高校時代の脳内公式の除去から始めなければならない。「知らないこと、知らなかったことを知る」楽しみというものが、少しずつ積み上げて来る。それと、実に素朴な疑問の数々、たとえば・・・

どうして「フランス」という国名なの
一般的にフランス人はラテン系と呼ばれるけれど、フランスという国の成り立ちは
それから、私が良くドライブに行くノルマンディー地方とは

先日、訪ねたルネッサンス期のお城のガイドさんが、この辺りはノルマンディー公国とフランスの境界線でしたから、城塞が多いのですよ(以前なら、たぶん、聞き飛ばしていたはずなのに、私の耳は敏感に反応した。あー、なるほどって)。

ガリヤ、ケルト人、フランク人、西フランク王国、東フランク王国……。段々とさらに素朴な疑問、どうして「日本」と呼ばれるようになったのか、いつから？

と、疑問がわんさか出てくる。そして調べる。これは、もはや、暗記物ではない。

ご興味のある方は、インターネットでいくらでも資料が出てくるのだけれど、たとえば、「フランク王国」がいつから「フランス」になったのか？ 結局、良く分からないのである。ゲルマン人、ケルト人、フランク人と調べると元々はラテン系ではないのに、フランスはラテン系の国と呼ばれる。どうして？ これは大体分かった。

と、疑問、調べる、分析する……。これは、理科系人間には楽しい作業です。うーん、あんまり、歴史の勉強とか気合を入れると脳がパンクするから……。あっ、ピアノの習得と同じなんだなあー、これが。取り合えず出したい音を出してから分析し、理論的に納得するというやつです。以前にも書いたけれど、フランス語も話せるようになってから文法の勉強をしたのである。と、フランスの歴史も疑問疑問で調べ捲くってから、フランス史の本を後で読むのかし

らね？

でも、歴史を紐解くと、領土、宗教、民族。この三大要素から生まれてくる戦い戦い戦い・・・
。再認識させられる。

2014.09.16 Tue

ヨーロッパの他の国々の事情は良く知らないが、フランス国での車のバンパーの概念は、「縦列駐車の際に、前後をぶつけるためのもの」、別解釈すると、車の本体を守るもの。となるのだけれど、現代の車は本体と同じ色で、本体と一体化している。そうなると、この解釈には無理が出てくる。けれども、あっちこちでぶつけられる。私のホンダシビック1997年型は、その歴史を如実に刻み込まれているから、前後とも、いずれルーブル美術館に展示したいぐらい見事である。ぼこぼこばきばき塗装へれへれ。もう、フランス文化の視覚化に成功しているのだ。まあ、私の車は本体も同じ状況であるので、「自然的盗難防止車」と相成った。

しかし、困るのは、娘の車の方なのだ。ちょこまか傷は、もう、フランスで生きる車さんたちには避けて通れないから、気にしないけれど、先日も書いたとおりのソム湾クロトワ村の小さなスーパーで後ろのバンパー左をぶつけられ、縦に十五センチぐらい割れてしまった。もちろん、当て逃げという意識さえなく、そいつは走り去ったはずだ。だって、バンパーじゃんって。

やはり、綺麗な状態の車にヒビ。気になる。板金屋に持って行くと日本円で三万ぐらいは取られる。少し迷う。その金額もあるのだけれど、「ぶつけるためのもの」を大枚叩いて板金する。なんか矛盾している気がどうしてもする。なんかね、金槌の傷を修復して下さいってな感じ。で、日曜大工セミプロ男裕センセは、当然にして自分で直すことにした。出来は三十点。でも、また、絶対にやられるから、まっ、こんなもんでいいんじゃないかあーい。私しか気が付かないのだ板金した場所をね。

あっ、ところで、フランスで長年運転していると車の挙動操作は上手くなる。しかも、私は元営業マンだからフランス全土を走り捲くってきたのだ。夏休みに日本からのお客様を連れてモンマルトルの丘に車で行った。止める場所がない。ぐるぐる回る。ない。観光客でごった返すYの字の急な坂道を右折しようとした時、一通の正面の坂の中腹に、一台分のスペース。

カフェのテラスの人々、道行く観光客のど真ん中で、素早くバックギアに入れる。そのまま、一通の坂道をバックで上る。一台のスペースにスポッと縦列駐車。前後および歩道と車本体の距離が五センチ。私としては、普通にやったんだけど、同乗していたお客様は、びっくり仰天失神してもおかしくないぐらい「感動した」らしいのである。

私の方が、逆に、「えっ？ なにか？」と聞き返していたのだけれど、たぶん、笑い方がダニエル・クレイグしていたかもしれない。あたしゃー、安全運転男なのだけれど、この複雑な車の挙動操作に関しては蝉プロ級なのだよ。車の全長より短いスペースへの縦列駐車の名手でもある。この時は、コンサート時間が迫っていたので選択肢がなかったわけ。同乗していた息子と娘が仰け反っていたっ！ あれれ、この時はバンパーをフルにぶつけるためのものとして使用してい

た私。お互い様あーー。

2014.09.17 Wed

フランスという国

日本の方々がイメージしている「フランス」がなんなのか、私には、良く分からない。パリは世界一、観光客の多い町である。世界一というのは、それはそれは、まあ、すげえー。

パリはフランスなのか？ 東京と一緒にです。パリはパリで、ある意味、フランスではない。ニューヨークなんかもそうだ。

と、前置きしつつ、私が書きたいのは「個人主義という主義」のことである。＝フランスなのだ。では、なんじゃい、それ？

という記事を書いた。でも、この後、全部削除してしまった。読み返したら、なんか、私ごとき三文ピアニストが論ずるようなテーマではないと正直に思ったのである。フランスに限らず、「西洋と東洋」といった分析、思索は、ピアノ弾きの領域ではない。そうだなあー、金子光晴の晩年の自伝三部作の中に、「西と東」の深い考察が沢山出てくる。ヘンリ・ミラーの小説群の中には、「アメリカとヨーロッパ」という考察が沢山出てくる。と、いうことで削除してしまった。

ところで、この「個人主義」、とりわけフランスという国は、その最先端と言われている。なんなのか、単純なイメージだけれども、石が積み上がって、ピラミッドが出来ている。その石のひとつひとつが我々という感じかしら？ じゃ、一口に「東洋」といっても膨大な領域に跨るのだけれど、こちらのイメージはなんか液体。石と石の間のようなお隣りとの境目が曖昧。でも、液体の包括力は・・・、なんでも飲み込んでしまう。

あっ、私の愚脳からの更なるイメージは、「ターミネーター2」の金属ロボットと液体金属同じことだけれどメタルリキッドのロボットとの関係にも、ちょっと似ているかも・・・。くだらないかな？

どちらがどうのということではない。私が長年フランスに住んで、相変わらず違和感があることのひとつに、この「人間が自然界の頂点に君臨している」という考え方かな。ピラミッド(西洋ではないけれど、例えとして)のような建造物は自然と対峙する。これがピンと来ない。「人間、自然の一部」、こっちの方が、私にはしっくり来るのですよ。やはり、思考回路が液体状なのかも知れない。

あっ、そうそう、ちょっとずれるけれど、私が好きな音階があるのだけれど、分析してみたら、どうも日本の竹笛の音階が私の深層音感として鍵盤上に現れているのだ。私は何人なのか？ やはり、結論はひとつ、フランスに住む異邦人なんだろう。

「個人主義の具体例」以前にちょっと書きましたが・・・

三分の二ぐらいの人が、方向指示器を点滅させない=私が運転している=他人が気を付けるのが当然=これでいきなりUターンなんかしちゃうから怖いのだ

横断歩道、車、まったく止まらない=ギアチェンジが面倒(フランスはほとんどがマニュアル車)=本人が歩行者になると豹変する、なんで止まらんのだっ！ フランス人めえーと喚くけれど、自分が運転手の時は、止まらない

「気遣い」というフランス語は存在していない 「目上の人を敬う」、これもない

わっわっ、長くなるけれど、最後に、「シャンゼリゼ大通り凱旋門の巨大ロータリーを抜け出す方法」、右優先だから、どんどん右から車が突っ込んでくる。どうしたら出れるのか？ プロのトラックのテクニックは、「相手の方を一切見ないで、出る」。さすがに相手がブレーキを踏む。なんだか、ジャングルなのか、フランスは？ 考えたら、私はいつもサングラスをしているのだけれど、あのロータリー出る時、突っ込んでくる車の運転手をサングラス越しにギロツ。来るなら来いっていう殺気が漂っているから、向こうがブレーキ。えっ、怖過ぎる？ やだよおー、一日出れないで回っていた人、知ってんだよ、俺っ。

2014.09.18 Thu

フランス史の勉強をしていたら、なんとなくフランスの川が気になり始めて調べて見た。

一番長い川は？ これはなんとなく知っていた。ロワールかローヌだろうなあって。因みにロワール川1012km。ローヌ川812km(ただし、水源がスイスからなので、フランス国内は581km)。ふうーん。じゃ、セーヌは？ 780km。なんとなく、それぐらいだろうなあって思いながら、次の疑問、あれ？ どこが水源なの？ たとえば、セーヌ川の下流というのか海に流れ込んでいるところは知っている。ル・アーブルとオンフルールの間のセーヌ湾。あれれれええ、水源は、となる。知らなかったよ、ディジョンの北西30kmだって。

うだば、わたくしが毎日見ているセーヌの支流であるオワーズ川は？ つまり、水源とセーヌとジョイントしている下流は？ 後者は、もちろん、知っている。良くお散歩に行くペニッシュの町、コンフラン・サントノリーヌ。「コンフラン」ってラテン語の合流という意味なんだってっ！ じえんじえん知らなかったよ。この合流しているところが半円形の公園になっているから、お散歩するのです。それと、中華料理店と韓国料理店があるのだ。一度行こうと思いつつ、まだ、行ってないわけ。

その水源は・・・、あーっびっくりしたあーっ、ベルギーのシメイの近くなんだってっ！ ははは、シメイ。私は飲み助だから、良く良くご存知のシメイビール。シメイ修道院で作られる濃厚な地ビールの産地。知らなかったよあーっ。オワーズ川縁の画家たち、ピサロ、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン等々、それ知っていたのかしら、などど呟く。なんかね、オワーズ川のその水がビールに見えるようになっちゃったあーっ。柿の種持ってよ、飛び込んじやったりしても、許して欲しいのだよ。気はふれてないから大丈夫。

2014.09.19 Fri

「きれぎれ」、これは町田康の小説のタイトルだった。素晴らしいの一言。大ファンである。

「お気に入りブロガーさん」たちが、私はなにもしていないのに、ブログ村のマイページから少しずつ消えている。七人のブロガーさんを登録していたのに、いつの間にか、三人。健筆をキープしているブロガーさんは、お一人。あっ、後、俺がいるな。寂しいなあー、なんか・・・。ブログを始めて二年をちょい過ぎ。当初の思惑は、諸外れた。っても閲覧数一日五十ぐれえにはなるかしらあー、ってな感じだった。それが、片手一桁ブログ。ちょっと、芸家ブログと解釈すると、なっ、なんなんですかあー、裕センセっ！ となるけど、いいんじゃないあーーい、それで。

「更新力」は、衰えを知らんのだ、私の場合は、と言いつつ、本当は、九月からは週一更新になっちゃうかしらあーー、がヶ月ずれたのであるから、来月からは「裕センセ禁断症状」の方々が、片手ぐらいは出る計算であるのだけれど・・・。えっ？ いない？

「酔った勢い」で、ここまで書き続けてきたようにも思われるかも・・・。実は、最近、素面ブログなのだよ。ありゃ、だから、ちょっと、しっとり随筆感なの？

「ブログ」って、私は、とても、いいと思う。

毎日毎日、どんどん時は過ぎて行く。あっ、ちと、待ちいーー、俺の小説の腰帯と同じ台詞になりそう。コピーしちゃうね。おりゃ、本がないようおーー。まっ、いいやね、そっ、そのですね、どんどん流れ去る人生という時間を、「堰き止めるのは」、よおおおおおおーー、「言葉」、つまり、「書くこと」と、私は確信している。おっとおーー、なんか、あとがきっぽくねえー、この記事。

2014.09.20 Sat

巨人の星的泣き顔

今日は日曜日。庭の草むしりをしていた。ピアノの練習までに、少し時間が空いた。今日、アップする記事は、昨日、予約投稿にセットしてあったので、今日は、ブログはオフ日のはずだった。でも、なんとなく自分のサイトを開いてしまった。閲覧数が片手から、本日だけ両手になっている。ブログ村のマイページに移動する。「あれ?」「あれ?」「あれ?」。お気に入りブロガーさんの表示が昨日まで三つだった。そして、新着記事のサインであるブルー文字表示がひとつだけという日々が多かった。

新着記事表示が三つになっている。しかも、ブロガーさんの数が四人になっている。

「書いていて欲しい人に書いてもらうには、自分も書かなくっちゃ」、その通りでござんすっ!

「そろそろ半年になるなあー、兄貴、元気でやっとなるのかなあー、呼び出し景気付け記事とか書きまおうかなあー、もう少し、様子見っかなあー、後、十日で、丁度半年だよなあー、俺も、来月からは毎日更新は難しくなるからなあー、その前に、兄貴帰ってこんかなあー、プロレスのタッグマッチじゃねえーけどな、はい、タッチいーなんてなあー」と私はぶつぶつ独り言言って居りましたあー。

「かつ、帰って来たあー」。

わたくし、あの巨人の星的、あの、ガッツポーズで空を見上げ両目から「滝のように」流れ出る涙で、顔面が、もう、滝そのものになって居るのでございます。ナイテヤガラの滝。

2014.09.21 Sun

昨日、赤ワインを飲みながら書いた渾身の記事。下書き保存をしようとしたらFC2のメンテナンスに引っ掛かった。結局、保存されないまま、どこか宇宙の彼方へ消えてしまった。

三日前から背骨神経痛が酷くなってきた。頭痛、軽い吐き気、食欲不振。なのに、ピアノと飲酒は絶好調なのである。

先日、大手CD量販店FNACに行って来た。久しぶりである。八十年代のエレクトリックジャズのCDを買いに。「JAZZは、奥の方だったよな」、見当たらない。「あれ?」、更に探す。あった、けれど、棚が二つになっている。以前は六つぐらいだったはず。ということは、供給も減っているのだろうけれど、需要はもっと減っているわけなのだ。晩年の金子光晴の自伝小説の中に、「金子君、しかし、大抵の仕事は十年ぐらい続ければ食っていけるのに、詩はどうしようもないねえー」と知人に言われる件があった。詩をジャズに置き換えても公式は成り立つのである。

私「ねえねえ、日本に居た時さ、お昼にサングラスした司会者いたの覚えてる？」カミサン「なんとなく」「あの番組ね、三十二年間続いたんだよ。月から金って。ギネスブックに載ったんだよ。でね、タモリさんっていうんだけど、彼のギャラがね、二百万円なんだって!」「そんなもんじゃないの。フランスの大物司会者も、百五十万円ぐらいって週刊誌で読んだことあるわ」「へえー、司会者って物凄くギャラいいんだねえー、フランスでも」「そうね、普通の人の丁度十倍ぐらいって週刊誌に書いてあったわね」「十倍じゃきかないだろう、だって、一回のギャラが百五十万なんだろ?」「なに寝ぼけているの、あなた。あたしが言っているのは月収のこと」「えっ、俺が言ってんのは、十二時から午後一時の一時間の一回のギャラの話」「あなた、なんか間違いでしょう、それ月収のことなんじゃないの」「違うよ、日当というか、その一時間番組のギャラのことだよ」。カミサン、そんなはずはないと信じてくれなかった。

「よし、来世はお笑い芸人MCになろう」と裕センセは固く心に誓ったのである。大嘘っ！ 人生は一度で十分っ！

2014.09.22 Mon

パリという名のモニュメント

パリという町のシンボルの歴史

「パリ ノートルダム大聖堂」1163年-1345年

「シャンゼリゼ通り」原型となる都市計画1616年 現在の形1724年

「エトワール凱旋門」1806年-1836年

「セーヌ県知事ジョルジュ・オスマンによるパリ大改造」1853年-1870年

「オペラ ガルニエ」1862年-1874年

「エッフェル塔」1889年

「モンマルトル サクレクール寺院」1875年-1914年

ここまで書いて気が付いた。モンマルトルのサクレクール寺院の完成から、丁度、百年なのだ。このパリという町の形成の歴史は、ちょっと、気が遠くなるのだけれど、「今のパリの姿」が出来上がったのは、考えようによっては、まだ、百年しか経っていない。上の表の「パリ大改造」。その前のパリの姿を探しているのだけれど、いくつかの写真を見ると、ごちゃごちゃした小道の多い巨大な田舎の村という感じです。豚なんかも通りで飼っていたらしい。まだ、下水溝の設備がなく、通りには汚物が充満していたとも書かれている。

ウィキペディアによると、この大改造により小道、つまり、隠れるところがなくなってしまい、普仏戦争の敗北につながったとなっている。町としての防衛能力がなくなり、下町の解体によりパリのコミュニティも消滅したとも・・・。

うーん、そうなんだろうけれど、世界で最も美しい町のひとつに上げられるパリ。「オスマン大改造」がなかったならば、現在の姿にはなっていない。そして、皮肉にも「町の防衛能力」の低下という結果を招く。ここで、気が付く。本当に？ 第二次世界大戦の時、ヒトラーは「パリを廃墟にせよ」との命を出していた。どうして実行されなかったのか？ 諸々の歴史の資料が出てくるけれど、やはり、パリの美観が途轍もないブレーキを掛けていたことは間違いないと思う。文化力をあなどることは出来ないのだ。やはり、パリという名のモニュメントを構築してきたフランスという国の文化力の底力には、パリがあまり好きではない私でさえ、脱帽せざるを得ない。

なんか時空を超えて、改造前のパリを訪れてみたいなあー。もっと、ジャジーだったと思うんだけどなあー。どうも、ジャズ屋は小道とか裏道とかごちゃごちゃ場末がお好きなようで・・・

。

2014.09.23 Tue

ゴシック大聖堂の旅

そもそも「ゴシック建築」とはなんなのか？ ウィキペディアの説明を要約すると、高さの強調、広い窓、巨大な内部空間となる。「ゴシック」=野蛮な種族(ゴート人のような)による未完成の洋式=蔑称。考えたら、印象派もフォービズムもジャズも、元々は蔑称だった。以下、フランスの代表的なゴシック大聖堂を独断で列記してみる。パリのノートルダム大聖堂については、今回は触れません。完成年はいろいろな解釈があるので、一応、増築等が終了した時期です。

「ルーアン ノートルダム大聖堂」1144年-1450年

フランスで最も高い尖塔(151m因みにケルン大聖堂は157.38m) モネの連作 次期世界遺産候補

「シャルトル ノートルダム大聖堂」1145年-1220年世界遺産

シャルトルブルー 最も美しい大聖堂と言われている

「ラン ノートルダム大聖堂」初期ゴシック建築の代表作1160年-1220年 ほぼ、パリのノートルダム大聖堂と同時期

「ストラスブール ノートルダム大聖堂」1176年-1439年世界遺産

十七世紀から十九世紀に掛けて世界一の高層建築だった

「ブルジュ サン・テチエンヌ大聖堂」1195年-1506年世界遺産

非常に独創的な構造を持っている=他の影響をあまり受けていない

「ランス ノートルダム大聖堂」1211年-1475年世界遺産

シャガールのステンドグラス 第一次世界大戦時に甚大な被害を受けている

「アミアン ノートルダム大聖堂」1220年-1288年世界遺産

最も、短期間に作られているため、非常に均整が取れている 建物の容積(200.000m³)は大聖堂としてフランス最大 天井高42.30m

「ボーヴェ サン・ピエール大聖堂」1225年-1347年未完成

世界一天井が高い(48.5m ケルン大聖堂45m パリのノートルダム32.5m エトワール凱旋門の高さが50mなので、ほぼ、内部にすっぽり入る)ゴシック建築 その構造のため未完成

と、非常に簡単なコメントを書いてみた。フランスで「有名な大聖堂」という話になると、当然、パリのノートルダム、そのあと、一番美しいのは？ という会話になるのだけれど、たぶん、シャルトルのようです。もちろん、それぞれ意見が分かれる。アミアンの方という方も多いし、ランスだな、僕は、という方も多い。もう、甲乙付けがたいということ。でも、あまり、話題に出てこないのがブルジュの大聖堂。なんか他からの影響を拒否してしまっていて、ちょっと、独特な大聖堂です。そのため、逆に他へ多大なる影響を与えている。なんか、ちょっと、セロニアス・モンクみたいかな？ ブルジュがゴシック建築とすると、フランスの最南端に位置しているせいも多分にあると思う。そして、私が愛して止まないボーヴェの大聖堂。この途轍もない高さ。結局、その構造のために未完成になってしまったし、この大聖堂と共にゴシック建築の歴史も終焉している。もし、この大聖堂が完成していたら、世界最大のゴシック大聖堂であるケル

ンのそれ以上の規模になっていた。ケルンもボーヴェも「アミアンを越える」というコンセプトから出発している。そして、設計段階では、ケルン大聖堂を更にボーヴェの方が上回っていたわけだ。想像すると、なんだか泣けてくる。いや、なんだか、未完だからこそ泣けてくる。

ケルンの大聖堂、いずれ、訪れてみたいなあー、なんせ、キース・ジャレット、ジャズピアニストがソロコンサート開いた大聖堂だもんなあー。うん。人類の壮大な夢とジャズという微小な音楽とのミスマッチが、うーーん、上手く言えない。

2014.09.24 Wed

もう一つのモンサンミッシェル

モンサンミッシェル、私は一度ないし二度行っている。四半世紀前ぐらいなのだと思う。記憶が曖昧になっている。少し、記憶を振り絞ると、確か、「なんか、カフカの小説の城を視覚化するとこんな感じかな」とか「バベルの塔が実在したら、たぶん、同じような印象だろうな」とか一人呟いていたと思う。

昨夜、ユーチューブでモンサンミッシェルの映像をいくつか見てみた。最後に、「ローラと行くモンサンミッシェル」という番組が出て来たので、こちらも全部見てしまった。知らなかった、年間訪れる観光客の七割が日本人とか・・・、毎年五十万人の日本人観光客が・・・、とか。私の中にそんな印象は残っていない。なんか、プロが選ぶ世界遺産ランキング二位の影響とか、旅行会社がセールスに力を入れているとか、その本当の理由は分からないけれど、ビクトル・ユゴーの言う「海上のピラミッド」。このイメージは、日本人の内奥のどこかを刺激する。厳島神社のピラミッド版なのかも知れない。しかし、海と対峙する巨大な石の建造物。我々の感覚とは違うけれど、やはり、内奥に響いてくる。

モンサンミッシェルの詳しい説明は、インターネットの中に沢山あるので、私のような即席歴史家の出る幕ではない。私なりに書いてみる。この島に礼拝堂が作られたのは708年。それ以前の島の名称が「墓の山」、先住民であるケルト人の信仰する聖地だった。モン=山、サン=聖、ミッシェル=大天使ミカエル。ミッシェルという男性名は、年配のフランス人に非常に多い。ミカエルのフランス語読みである。英語では、マイケル。色々と調べてみたら、なんと、英国にもう一つのモンサンミッシェルがあるのだ。その名前も、セント・マイケルズ・マウント。モンサンミッシェルの英訳そのもの。知らなかった。それから、アイルランドにスケリッグ・マイケル(ミカエルの岩)と呼ばれる島。この三つの島が、なんと直線上に位置している。なんか推理小説の世界。

そして、素朴な疑問。サンマロ湾の干潮時に、なんらかの方法で石を島まで運んだ。いや、満潮時に船で？ 石を運んだ数で、その日の賃金が払われていたらしいことは分かっているけれど、どのような方法で？ これは、いくら調べても出てこない。そういえば、ソナム湾の徒歩漁師は、大量のムール貝の運搬に自転車を使っていた。もちろん、干潮時に。分からない、なんらかの荷車のようなもので石を運んだのだろうか？ 眼前に聳え立つモンサンミッシェル修道院の姿に、その石運び職人たちの姿を重ねると、当然、溜息が漏れるのである。

旅行会社のセールス状況は知らないけれど、モンサンミッシェルはフランスの世界遺産登録第一期の一つである。その遺産としての重要度は疑問の余地がないだろう。そういえば、規模はまったく違うのだけれど、「不思議な風景」という意味で、モンサンミッシェルと同じ印象を与えるところがある。ル・ピュイ・アン・ヴレのサンミッシェルデギユイユ礼拝堂。巨大な岩山の上に建つ礼拝堂である。なんとなく、708年のモンサンミッシェルってこんなだったのかしら、と思わ

せる。

皆さん、もう、お気付きの通り、などと言っているが、今、私自身が気が付いた「どちらもサンミッシェル=聖ミカエル」である。やはり、大天使。天空に向かって飛び立つイメージが根底にあるのだろう。モンサンミッシェルの天辺の聖ミカエル像は、天使の羽の代替品、テクノロジーの象徴であるヘリコプターが頂点まで運んだと聞いている。我々は、永遠に自力では飛べないのである。

2014.09.25 Thu

いつの間にか歴史ブログ？

ところで、事情がありフランスの歴史の勉強をしなければならなくなった。以前にも書いた通り、私は「歴史」、あまり興味がない方である。「その日暮らし系」なんだろう。でも、フランス史全般を脳インプットしないといけなくなった。そして、フランスで自動車免許を取得した際の、(交通法規でやった)丸暗記を二秒ぐらい試みたのだけれど、意味なしと理解。その勉強とか習得とか暗記とか・・・、こういう脳ベクトルは、どうも私には向いていない。しかも、自動車免許取得時は、うおおおおお——、「まだ、若かった」のだった！

と、勉強では頭に入らないということは、「遊び」にしてしまうしかない。でも、インターネットで、ナポレオン・ボナパルトが・・・、と読んでいると、なんとなく、ホッポリ出してブログ書きちゃおうかなあーという脳内誘惑が始まる。そして、自慢じゃないが、私は大変に大変、おこがましいぐらいに意志が弱いから、むむむうううう——とブログの方へ体が傾ぎ始める。で、書い

ちゃう。いかんいかん、これではと、また、体を元に戻すということをやっているのだけれど、ここに、である、そのボン・イデー、名案が浮かんだのだ。歴史物ブログにしまえば、一挙両得っ、と相成った。えっ？ そっちの方が？ 内容があって？ ずっと、いい？ れれれ・・・。う——む、時々、愚脳を全開させないと、脳爆発しちゃうたりもするかしんない

なあ——。などと言いつつ、「歴史を学ぶ」ことは、「歴史から学ぶ」ことなのであるからにして、うん、きちんと腰を据えてやるのが正しい姿勢なのだ。

2014.09.26 Fri

はい、以下、フランスと日本の時代対比です。

708年 モンサンミッシェルに礼拝堂 飛鳥時代
1163年-1345年 パリノートルダム大聖堂建設 平安、鎌倉、建武、室町時代
1412年-1431年 ジャンヌ・ダルク 室町時代
1452年-1519年 レオナルド・ダ・ヴィンチ 室町、戦国時代
1624年-1770年 ベルサイユ宮殿建設 江戸時代
1853年-1870年 オスマンパリ大改造 江戸時代幕末
1853年-1890年 バン・ゴッホ 江戸時代幕末から明治時代
1889年 エッフェル塔 明治時代
1914年 モンマルトル サクレクール寺院完成 大正時代

なんか、書いてて一番変な感じがしたのが、バン・ゴッホの江戸時代。明治時代はピンと来るんだけど……。今、ジャンヌ・ダルクを色々調べて居ります。このフランスのヒロインのことを。

いつも、少し変な感じがするのが、ジャンヌ・ダルク、ダ・ヴィンチとか、「実在していた」こと。一番、びっくりしたのは、ゴッホが入院していたサンレミの精神病院を見に行った時、なんとなく、通りの角で煙草を吸っていた。私が、なんとなく、その建物を振り返ると、「ノストラダムス生家」と書いてあった。これは、本当に仰け反った。うーーん、ジャンヌ・ダルクの生家もそうだったなあー、「えっ、実在の人物だったの？ マジすっかあーー」みたいな。ダ・ヴィンチのお墓がアンブローズ城の敷地にあった時も、飛び上がった。「師匠っ、じっ、実在していたのですねえーー」などと、どうしようもないお弟子の私は叫んだのだよ。一応、その、まっ、多彩ぶりだけ、2mmぐらい似ている。

ぼこぼこぼこ……。なるおーー、いけしゃあしゃあーとおーー。痛いっ！

2014.09.27 Sat

血液検査

先日、主治医に血液検査をしてこいと言われ、した。別に、私は頭以外は問題がないのだけれど、血液検査の用語が分からないので、うだば、調べっか、となった。インターネットの中から、諸々のサイトが出て来た。そして、いくつかのサイトを読んで、体が斜めに傾いた。ついでに吹き出した。私なりに要約してみると・・・。

「血液検査傾向と対策」「血液検査で適正値を出す準備」「前日の対策」「血液検査をパスする」「三日前からの食事調整」・・・。

なんだか「お受験病」なの？ 「血液試験」とした方がしっくりする。ひとつお医者さんのサイトにずばり、「血液検査は、通常の状態で行うべきです」と書いてあった。当たり前なのである。もちろん、私は、その日、煙草、コーヒーの摂取はしないけれど、前日まではいつも通りである。そうしないと、どこが異常なのか分からんから意味がない。と、本末転倒というやつである。

私の主治医、二代目ジェームズ・ボンドにそっくり。名前、忘れた。一作しか出ていないけれど、彼にそっくり。推定190cmで格好いい。「先生、私、アル中ですよ？」「君ねえー、本物のアル中見たことないだろ」「じゃ、依存症？」「全然。君ね、飲んでる量じゃないの、一日三リットル飲んでも平気な人も多い。アルコール解毒度の問題なわけ。まっ、君の場合は、多少控えめについていう程度だね。それより、煙草を止めなさい。僕は五十三の時に、スパッとはいかんかったけど、ニコチンパッチでなんとか止めた。大体、今じゃ、カフェでも飲み屋でも吸えない。やだよ、傘さしてさ、歩道でなんてな、美味くないよ、そんなんじゃ、だから君も止めなさい。本数を減らす？ 駄目駄目っ、絶対続かないから、それ」

アル中認定されず、ショボーンとしている裕センス。こっちの方が、もっと本末転倒なの？ 一流の芸術家＝アル中なんていう時代は、とっくに終わっている。芸術家をジャズメンに換えると、終わっていない。

2014.09.28 Sun

伴侶

ユーチューブでさんまさんと加藤綾子さんが司会の番組を見た。右側に学者さん、諸々の専門家の方々が座っている。

「欧米では、夫婦は伴侶という意識が強いですが、日本では、子供が中心になる傾向が強いです」「子供が中心になるので、お父さん、お母さんとして子供と繋がるから男と女の関係は崩壊します」「欧米では、夫婦が中心となり、子供は、その次になる」云々。

別に真新しい意見ではない。私が、ちょっと、気になるのは「欧米では=規範」という言い方。私は欧に住んでいるから、なんでもかんでもこちらを規範という意識はしっくりしないのである。各国のやり方でまったく構わないと思う。

私なりの解釈は、別に真新しい話ではないけれど、夫婦だけ血が繋がっていないからこそ大切にせんといかん、というやつである。それから、子供たちは、独立して家から去っていく。家の中に残るのは、夫婦になる。結局、最後は赤の他人二人が残るのである。あれ、やはり、私の感覚は欧米の方だった。そりゃそうだって、カミサンに解雇されちゃう。

2014.09.29 Mon

ジャンヌ・ダルクのことを、長い記事にしようと思っていた。その「勉強の一助」として。ジャンヌ・ダルクの評伝、非常に興味深く、諸々を読み漁り、NHKの「その時歴史は動いた」まで見ちゃったから、「勉強」ではなくなり、あっという間に、脳インプット。記事化の必要はなくなってしまった。フランスのヒロイン。異論はない。よし、次はブルボン朝だな、と始めた。そしたら、またまた、諸々の疑問。素朴な疑問。第一、王家とか貴族っていつからどういう経緯で出現したのだ？ 人間生まれた時に階級なんてないから、いつどうして？ なんか古代ローマ時代から、あったというのか、いた。じゃ、その前は？ 石槍持って草原を駆け巡っていた頃には階級はあったのか、とか、考え出したら切りがなくなった。まあ、極論すると昔々から、どうも、それはあって、それが段々オフィシャルな特権階級になって、それに血筋とか、つまり、特権を次代に引き継ぐことが始まって、今日に至ったようです。まあ、特権は、その持っている方は、簡単には手放さないよなあー。で、特権がない方は、金の力となるわけだ。じゃ、どっちもない私のようなジャズ屋は・・・、一升瓶からぐびぐび、放っといてくれっ！ と息巻くしかない。

大体、ブルボン家ってなんじゃいとかから始まるから、延々と「勉強」が進まない。それから、ヨーロッパの王家の系譜だの、現在の各国の王家の系譜だの調べる。延々と進まない。なんかドイツ系が多いなあー、どうして？ 調べる。進まない。裕センセっ、あんた、素朴な疑問が多過ぎいー、となる。けれど、解決しないと興味が湧かない。第一、私はベルサイユ宮殿、好きでないのだ。それを作った人物ルイ十四世も・・・。とにかく、これでもかこれでもかと権威を誇示する。宮殿を作り見せ付ける。湯水のように予算と人力を使う。どうも、すかのである、こういう人たち。ジャンヌ・ダルクと真逆。とはいえ、ルイ十四世の実際の政治的手腕とか評価は私には分からない。特権も金もない私の逆恨みかしら？ まあ、ベルサイユ宮殿からの収益は莫大なはずだから、以前、ちょっと書いたけれど、庶民に換金されているのかもしれない。

「ベルサイユ宮殿」バロック建築の代表作

元々は、ルイ十三世の狩猟の館(1624)

1661 ルイ十四世 ルーブルとこの館の増築を決めるけれど、ベルサイユの館の方が気に入り、本格的な増築が始まる

1770 オペラ劇場の建設を持って終了

と、三行にしてしまったのだけれど、私の愚脳へ強力な刺激。

「マルリーの機械」巨大揚水装置 1680着工 1688竣工 直径11.69mの水車x14 ポンプx200 標高154mのマルリーの丘まで運び8kmの水道橋でベルサイユへ 1713まで稼動していた

こんな、もうひとつのベルサイユ史があったこと、まったく知らなかったのである。ルイ十四

世は、自然をも征服できるぞっ、ということを誇示するために作らせたらしい。複雑なメカニズムと膨大な維持費によって打ち捨てられてしまう。

「そういえば、パリからサンジェルマンアンレーへ行くとき、ボージヴァルあたりのセーヌ川の中洲になんか良く分からんレンガ造りの建物……。サンジェルマンアンレーからベルサイユへ向かうとき、ルーヴシエンヌのロータリー前右側の水道橋……」。突然の脳内閃きっ！ 直ぐ調べる。ぐえ、「なんか良く分からんレンガ造りの建物」＝「マルリーの機械設置跡」、「ロータリー前右側」＝「マルリーの丘からベルサイユへ向かう水道橋の現存している一部」。

今度、お天気のいい日に、ちゃんと行ってみることにした。写真を見ると、水道橋の一部、非常に綺麗に保存されて、今は自然の中に静かに溶け込んでいる。「自然をも征服……」。君の夢、破れたり。

2014.09.30 Tue

フランス革命とフランス人

ウィキペディアの「フランス革命」を、目を細めながら読んでいる。諸々の要素があり、頭に入っていない。勉強の一助としてブログ記事化するには、あまりに複雑。それで、直ぐにスタンスを変える。

「フランス革命」1789年7月14日、バスティーユ牢獄の革命軍による襲撃が発端

日本でもご存知の方は多いはずである。素朴な疑問、どうして？ 分かりました。当時、バスティーユは火薬庫としても使われていた。つまり、革命軍の武器の調達のためであった。素朴な疑問2、あれ、マルキ・ド・サドは、その時、牢獄内にいたのか？ はい、いなかった。

ところで、私が某旅行会社に就職したのは1988年。履歴書も見ずに即採用された。なぜか？1989年は「フランス革命二百年」、諸々の記念式典が目白押し。日本の団体旅行の最盛期。パリ中のホテルはパンク、旅行会社のオペレーター、ガイド、旅行アシスタント、人材不足でパンク。なにもかも、旅行関係がパンクし始める直前に、鴨面した若造が履歴書背負って旅行会社の門を叩いた。その日の午後から仕事をさせられた。そう、私の微小な人生にさえ、「フランス革命」の影響があったのである。

ところで、フランスの「名物のひとつ」に、ストライキがある。今現在でも、しょっちゅうなんらかのスト。政府が新しい法案を提出する。スト。段々、大規模なスト、段々、長期化、何週間も交通機関がストップする。結局、新しい法案は撤回される。今は、エールフランスのパイロットがスト中。

ところで、一般的にフランス人、あまり上昇志向はない。あまり、金金でもない。郊外の庭付きの家を買う。車は、ルノー・テューシア。低賃金自体が問題というより、静かなストレスのない生活を送り、出来る限り早く定年する。そういう意味では、あまり、物欲系ではない。当然、給料アップより、仕事内容を可能な限り薄くする。とこういう志向になる。責任はなるべくない方向へと行く。たとえば、現在のフランスの週の労働時間は三十五時間である。これを、仮に、以前の三十九時間に戻す。なあーんていう法案を政府が提出する。私見ではなく、暴動が起きるだろう。庶民の思惑と真逆だから・・・。むしろ、三十二時間にするとか、定年を六十二歳から以前の六十歳に戻す。こちらは、拍手喝采間違いなし。

確実に「フランス革命症候群」は生きている国なのである。

ところで、日本から来るビジネスマンの大半の意見は・・・、「いやあーん、ここは仕事しに来るとこじゃないねえーん。フランス人、じえんじえん、仕事しないし、定時に皆帰る

しねえー、痺れるねえー」。これなんだけれど、確かに、私も課長をやっていたとき、しばしば、同じ台詞が脳内を駆け巡った。けれど、国民生産量を分析すると、フランスのそれは、日本の六割ぐらいなわけ、で、人口は、丁度半分。人口で割り算すると、フランス人の一人頭の稼ぎ、生産量は日本を上回っている。永遠の謎といえはいえるけれど、結果、フランスの方が仕事効率がいいという算数上の答えになっちゃうのだ。うーん、俺の残業漬けの毎日はなんだったの？ フランスで、残業漬けの毎日を送っていた俺、ちょっと、泣けちゃうねえー。

ところで、「フランス革命」が「民主主義」の始まりであることを、しみじみと噛み締めてみると、このフランスという国の歴史の厚みは半端ではないし、ヨーロッパで長年、イギリスとドイツに挟まれながらも一等地にどんと居座っている。いやあー、本当の大国とはこういう国のことをいうんだろうねえー、と思うのは私だけではあるまい。フランス史の勉強をしていると、十二分に、見直しちゃったりもしている。でもねえー、フランス人、フランス人およびフランスの悪口

ばかりいっとるのだよ、戯け者おーん、とも同時にいいたくもなるのは、私だけではあるまい。ところで・・・、ところで・・・、ところで・・・。

2014.10.01 Wed

フランス革命のヒーローたち

延々と「フランス革命」の実態が理解出来ないでいる。頭が悪いから？ それもある。しかも、その上、老化までしているから、ちっとも理解出来ない。まず、革命政府のトップ、「ロベスピエール」。善なのか悪なのか、まったく理解できない。もう少し、詳しく調べてみることにした。今回は、私の愚脳より紡ぎ出される珠玉の愚問集と致したく思うのである。「裕ちゃん、老化に立ってなさいっ、バケツ持ってえー」「先生、随分前から立ってますけど・・・」。

「ロベスピエール」

まず、大体にして下世話なところから行くと、肖像画のハンサム優男。当時、女性連からの人気は抜群だったという話からすれば、この肖像画の中の彼は顔ける。それと、デスマスクから復元された痘痕面の陰気な目付き男。この二つの顔が、まったく同一人物とは思えない。裕センセの肖像画が小栗旬なのに、「どもども」と出て来た本人が鶴瓶師匠だったのと同じことである。裕センセのケースは前者であるので、心肺ゴム用である。で、この二つの顔と同じで、革命の指導者、高潔な理想主義者、質素な暮らし、元々は死刑廃止論者・・・、こういう人が恐怖政治を行い反対派を次から次へとギロチン台へ。なんか、まったく結び付かないし、フランス人にとって彼は歴史のヒーローなのか？

「ナポレオン」

フランス史の大ヒーローということになっているし、そこいら中に銅像がある。どうにも分からないのは、フランス革命の波及を恐れる近隣諸国が、革命政府打倒のために宣戦布告。この革命政府を近隣諸国から守るためにナポレオンが登場してくる。大砲を使った巧みな戦術でナポレオン率いるフランス軍が勝利する。彼は一躍ヒーローへ。その勢いでフランスは領土拡大の侵略戦争へ。なんか、当初と主旨が違う。ロベスピエールも、恐怖政治打倒のクーデターにて処刑。結局、革命から、またまた、プロボン朝の復活。それから、今度はナポレオンが独裁権を握り、王政からナポレオン皇帝の時代へ。そもそもの革命の主旨から、相当にずれてませんか？ ナポレオンは本当に革命派の方だったの？

と、ヒーローたちの立ち位置と主旨が、よく分からんのである。

ウィキペディアを斜め読みした限りでは、「フランス革命の真の理念が実現するのは、革命から八十年後であった」とのこと。ちょっと、フランス人の友人たちの意見、聞いてみようかしら？ でもなあー、ミュージシャンだもんなあー、パッパラパーの返答が来そうで怖い。「ナポレオン？ あれねえー、美味しいよねえー」。「ロベスピエールって、楽器はなに？」なあーんてな。どうもいかなあー、「マルリーの機械」の模型があるらしんだけど、こっちを見に行きたいよおー。こういう昔のメカ系大好きなのだ。ダ・ビンチが考案した諸々の機械を再現したやつがアンブロワーズの彼の晩年の邸宅にあんだけど、一日、目がベズリー目だった私。

ぐちゃぐちゃした人間史としての歴史、あんま、興味ないわけ。なんも学べんのだ、そのぐちゃぐちゃからは・・・。

2014.10.02 Thu

歴史というからくり人形

「マクシミリアン・ロベスピエール」1758-1794 フランス革命期の政治家

要約すると二つのイメージが浮き上がってくる。質素で大変に紳士的な人物で広く市民の尊敬を集めた。高潔な信念の人。フランス革命の代表的な指導者。二つ目に、テロリズムの語源になった恐怖政治家。独裁者。

どうやっても、この二つが結び付かない。やはり、真実を知りたくなってくる。諸々の見解を調べてみた。

まず、「彼個人が独裁権を握っていたわけではない」、正確には「公安委員会の独裁政権」という見解が出て来た。ロベスピエール＝独裁者、この構図は歴史の真実ではない、「そのようにした方がよい人々によるでっち上げ」である。恐怖政治は、「民意に沿った公安委員会の超法規的手段でありロベスピエールの指示判断ではない」。「革命を遂行するために反革命派の処刑はやむを得ない手段であった。それは、民意と公安委員会の判断であった」等々。ロベスピエールを処刑した人々こそ、自身の財産没収を恐れた私欲に塗れた連中なのだ、という見解。

なんか、「恐怖政治を強行する独裁者打倒のクーデター」、つまり、ロベスピエール＝悪という構図にしないと、この大義名分はおかしなことになってしまう。

では、先記の「そのようにした方がよい人々」はだれなのか？

革命裁判所の検事の行き過ぎた検挙。地方派遣議員の過剰な殺戮および富裕層からの財産の没収、身代金の徴収。つまり、革命便乗組みがいたわけだ。この連中を取り締まろうとロベスピエールはしていたらしい。結局、恐怖政治(テロリズム)という名目で、ほとんど盗賊のような行為をしていた連中がいるのだ。革命と書かれた衣装に身を包んで……。この連中という誤解を招くので、なんか、そういう潮流もあり、その流れの中で、ロベスピエールは処刑されてしまったらしいのである。

と、私は、もちろん、専門の歴史家ではないので真実は分からない。私が調べた限りでは、こういうことだった「ようだ」というだけで、真実なのか、まったく分からない。少なくとも、ロベスピエール像が定まらない原因の一つではあるようなのだ。まあ、真実らしきものを無理矢理、抽出してみると、高潔な理想主義者対私利私欲金銭亡者、普通は後者の勝ちである。なんとなく、個人的にはロベスピエールが、ちょっと、気の毒になってきた。もし、彼が本当に前者であったならば、歴史上の標記、「世界初のテロリスト」、「フランス革命期の独裁者」、これは、ちょっと、本人の頭も傾ぐだろう。「市民、とりわけ、女性に絶大な人気を誇った高潔な紳士、信念の人」とは、随分違い過ぎる。やだよ、「裕イサオ、バンド内の暴君独裁者であり、暴力的

なピアノ奏者」なんてなァー、「市民、バンド仲間、とりわけ、女性に絶大な人気を誇る高潔清貧の孤高のピアニスト」、こっちこっちっ！

2014.10.03 Fri

予約投稿記事が二つあった。保存に変更した。読み返してみると、「更新のための記事」という感じがしたからである。私の現況を考えてみれば、ブログを更新する物理的および心的な時間は段々となくなって来ている。こういう状況下で、一番に守らなければならないことが、「ピアニスト裕イサオ」という人物なのである。もちろん、芸名なのだけれど、本名こそ、私にとっては虚像なのだ。だから、「裕イサオ」こそ、私であり、ピアノなのである。で、ブログを書いているのも、そいつなのだ。

ますます、ブログのよさが分かってきたというよりも、いろいろな形で「ブログは人生に食い込んでくる」ことが分かった、ということである。

うん、その人その人のブログ感はあると思う。おっ、ブログ感って「人生感」みたいな音にも聞こえませんか？

おっ、人生止めねんだったら、ブログも続くよな、算数上は。

あれあれ、ブログ書くために生きている人がいても、なんの障害もない、ということだ。

志村けんのいいよなおじさんの口調で、「ブログはいいよなあ——、うんうん、いいよなあ——、ブログは・・・」。でも、相変わらず分からないのは、更新すればいいのか？ これ、意外と分からんのです。書きゃーいいのか？ かつ、きゃ——！

おっおっ、じゃ、生きてりゃいいのか？ とんでもない問いが頭に浮かんでくる。やばいから、ここで、カット。

2014.10.05 Sun

枯れる

「枯れる」と「丸くなる」は微妙に違う。

3 人物や技術が練れて、深みが増す。円熟して、落ち着いた深い味わいが出てくる。「芸が一・れる」「一・れた人柄」

4 技術や製品などが、その登場から十分な時間が経ち、すでに問題点が出尽くし、解決も済んでいる。最先端のものではないが、不測の事態が発生しにくく、安定して動作することを意味する。「一・れた技術」コトバンクより。

ありゃ、「私は枯れた」と書こうとしていたのである。全然、違う。

うー——む、体形は全然丸くなったらんが、中身は相当丸くなったというより、「悟りの境地」になってきている感じは随分前からある。五十半ばで？ なるおー、この若造があー、というご意見もあるかもしれない。

でもね、詩を書いている若造なんて、二十歳ぐらいで悟っちゃってんだよ。

後が、なげえ——。

私も十代の頃から、その「悟りの境地」を求め続けて三千里。物欲、金銭欲、嫉妬心とか、元々、あんまないから、これは、結構簡単に駆逐できた。性欲、これが、ちと、なあー。異常じゃないけれど、これに掻き乱される＝女子の意見を数学哲学物理的に脳が分析できない、という弊害が起きる。で、この野郎からも解放され始めているから、しめしめのオシメだぜっ。でもなあー、俺より上手いピアノ弾き聴くと、むくむくと、嫉み、足引っ張るぞおー、この野郎とか、今でも、「ほんの少し」だけ、脳内を夜霧。もう、ちょい、かな？ でも、どこが俺より上手いのかは数学的哲学的物理学的に分析し、感情移入なしに、すっ、凄いと理解できるぐらいにはなったけど……。でも、そいつが「ヤな奴」だと、ちらっと、込み上げる。枯れろって！

おっ、赤ワイン飲みながら即興ブログ、こっちの方が、俺らしいかも、ね。

ビバっ、フリージャズっ！

2014.10.06 Mon

ナポレオン・ボナパルトについて勉強を始めたけれど、頭に入らない。ジャンヌ・ダルクは、どっと脳内インプットされたけれど……。まあ、いい、にじり寄るしかない。

なんか急に「年相応の文体」ってあんのかな？ と考えたけれど、あるようなないような……。逆かな。文体の中に、やっぱ、それが垣間見える。うーん、分からんから放置する。

9月1日から29日間快晴快晴。30日だけ雨。おっおっ、10月1日から低気圧の勝ち。寒いよおー。でも、9月の快晴攻めが脳内充電されている。でも、7月、8月の冷夏がなあー、ぱっとしない夏だったけど、ぱっとした秋を過ごしちゃいました。

社会復帰がじえんじえん進まない。私の意欲の問題ではなく、諸々の手続きの遅延。違うな遅延ではないな。事情があって諸手続きをクリアしないと社会復帰ができないのである。法律とか許可とか諸々が連携してくるから、あいよっとはいかんのである。

ちっとも、音楽の話が出てこない？ ピアノ止めてしまったの、裕センセ？ では、まったくなくて、今、新しいトリオを立ち上げ中。お披露目はちょっと先だけれど……。ベースのヨラムが自分のオーケストラの仕事で多忙。ベースを入れ替えないといけなくなった。オリビア・セママ、女性ジャズベースへ。ヨラムがチャーリー・ミンガス系だとすると、オリビアは、スコット・ラファロ系。我々トリオのサウンドも当然にして変わってくる。お披露目当日、ベルリンから素敵なトランペット奏者がゲストでやってくる。うおーん、コンサート終了時にメンバー紹介をするのだけれど、「マコト・サトー バットウリー、オリビア・セママ コントラバス……」、で、その素敵なゲストの名前が、Paul SCHWINGENSCHLOGL。真師匠にお任せしようと思ったけれど、イサオ君、俺も駄目だあー、第一、読めないよおー、苗字の方さあー、だって。仕方がない、ポールだけにしちゃおう。これ、スイスの系たんさんしか読めないだらうなあー。

2014.10.07 Tue

不可能という言葉はフランス的ではない

このタイトル、あの有名なナポレオンの「余の辞書に不可能の文字はない」の原文直訳である。なんか、ちょっと、趣が違う。

ウィキペディアの「ナポレオン・ボナパルト」全文をヒイヒイいいながら読んだ。やはり、ダ・ビンチの評伝とかを読む方が、私には、ずっと、しっくりくる。どうも、英雄系は苦手であるけれど、仕方がない、フランス史からナポレオンをカットするのは無理なのである。1769年8月15日-1821年5月5日、つまり、このフランスの英雄は五十一歳でなくなっている。あれ、私の方が年上なのである。とはいえ、私の銅像はどこにもないし、今後も、どこにも建たないのだ。それこそ「不可能」である。

彼の評価はなんともいえない。でも、フランスの民主化近代化が彼によって加速したことだけは間違いない。二百万人の戦死者と引き換えに、である。諸々の現在、世界基準になっているものの原型を彼が作ったことを知った。憲法とか法律とか……。下世話なところだと、缶詰の原型とか……。彼の足跡には、良くも悪くも溜息しか出てこない。まあ、「不可能感」みたいなものは、彼の中にはなかったのだろう。私のような凡人ピアノ弾きとは、そもそも違うのである。

私が、ここで長々とナポレオンの評伝を書く意味はまったくないので、なんとなく、気が付いたこと。

ヨーロッパの勢力図なのだけれど、ギリシャの時代、ポルトガル、スペイン、イタリアと続いてきて、たぶん、ナポレオンの時代、あっ、その前にルイ十四世の時代からフランスが世界一の大国になった模様である。そして、両サイド大国、イギリスとドイツ。どうも、フランスの天敵はかつてはイギリス。百年戦争しかり、ナポレオンもネルソン率いるイギリス艦隊にはいくどか大敗している。不可能のないナポレオンをもってしても、イギリス征服はできなかった。そして、その頃、イギリスは産業革命という近代化をじわあーと成し遂げている。

ここで、急に週刊誌っぽくなっちゃうけれど、

「どうしてイギリスだけ自動車が左側通行なの？」「はい、ナポレオンが侵略できなかった唯一の国だからです」これ本当の話なのである。彼は、ヨーロッパ全土、右側通行にしようとしていたのである。「当時、世界一のフランスが産業革命に出遅れたのか？」「はい、イギリスはバックに多数の植民地を持っていた。つまり、原料の供給先を」なんですよ。

そして、現在のヨーロッパのパワーバランスは？ GDPを見れば分かる通り、ドイツがヨーロッパの最強国である。次にフランス。次にイギリス。その次にイタリア。うーん、ギリシャ、昔の栄華、遙か彼方の栄華、もう、哀愁が漂っているし、ポルトガルもそうだったし、スペイン

も少しそんな感じになってきて、そうだな、イタリアもちょっと哀愁感が出てきている。そういう意味では、フランスは、まだ、辛うじて現役かしらねえー。あれ、こういうのを「枯れる」ってのかな？ 枯れた大国。そうかもしれん。まあ、文化度のグローバリゼーションも、ロンドン、ベルリンに追い越されちゃっているかもしれんなあー。過去の遺産に胡坐をかき続けると、昔の栄華の哀愁が漂ってくるから、フランスも、たとえば、たとえば、たとえば、フリースタイルなんちゅうアングラ軍団を大切にしないとおーー、いけないよって！

2014.10.08 Wed

弾きだこ

「弾きだこ」、つまり、あの「ペンだこ」のピアノ版です。と書こうとしていたら、スイスの系たんさんの記事「寿命計算」を拝読。わっ、超面白そうなので、暇な時に計算することにした。とはいえ、私の家系は長寿が多い。もしかすると、超が付くかも知れない。三桁台が普通という感じなのである。この超長寿系の遺伝子を引き継ぐわたくし、酒煙草で、-2なあーーんて、瑣末な感じもするけれど、人生の時間を粗末にはできないから、瑣末なんて駄目でさあーます。あっ、でも、計算すんのやめっかなあー、なんか百二歳なんていう数字が出そうな予感がする。酒煙草ジャズがなければ、百二十二歳かも知れんのだっ！ 第一、俺は、現在、八百五十五歳なのだ。ルイ十四世の庭師をしていたこともあるしいー、ナポレオンの洗濯係もしたしいー、あっ、やっ、やばい。世間に知られては・・・。

あっ、それでね、私の指先は堅牢な城塞化しているのである。第一、指の筋肉のセクシ一度は、相当なものである。指の筋肉をもりもりとやると、力瘤状態なのである。うっとり。それから、まっ、肘から下の両腕「のみ」筋肉むくむく。それ以外は・・・。たあーりらりん。

「いやあー、あれこれはれましたあー、めかさとそのまたぎれですかあー」(日本語を初めて聞いた外国人の耳に聞こえる日本語のモノマネ。中村誠一の発明で、坂田明、タモリが芸化した)。

その爪の周りの部分、なんていうの？ ここが、ぱきぱきになっている。で、右手をそのまま、ぽっと、テーブルに置くと親指が向かって左。その親指の爪左側の弾きだこが割れた。その裂け目に、寝ている時に、人差し指の爪がガッ。更に裂けた。痛いよおー。丁度、ピアノを弾く時に、一番当たる部分なのだよ。参ったねえー、しめしめ、練習休もうおー、ルンルンとはいかないのだ。アルコール消毒して、バンドエイド貼って、やっているのであるが、バンドエイドの端が鍵盤に引っ掛かるから弾き難いよおー。

おエイドは遠く、毎エイドどうも。ばっかじゃねえーの。もう、エイドって！ ちょっと、バンドエイドを貼ったバンドマンだよ、半端じゃないって、坂東エイドブロウ。

2014.10.09 Thu

フランス革命から第五共和政まで

フランス革命から、現在のフランスである第五共和政までの歴史を9.78秒で以下、列記する。

1789-1794 フランス革命

1792-1799 第一共和政=王政の廃止=ルイ十六世処刑1793年1月21日午前10時22分

1804-1814 第一帝政 ナポレオン・ボナパルト=ナポレオン一世

1814-1815 復古王政 ルイ十八世

1815-(95日間) ナポレオン一世復帰 百日天下

1815-1830 復古王政 ルイ十八世 シャルル十世(1824年即位)

1830-1848 七月王政 ルイ・フィリップ

1848-1851 第二共和政 ラマルティーヌ ルイ・ブラン

1852-1870 第二帝政 ナポレオン三世(ナポレオン一世の甥)

パリ大改造 鉄道網の整備 工業化

1870-1871 独仏戦争 正確には、フランスとプロイセン王国との戦争

この戦争が切っ掛けになりドイツ統一 プロイセン王国 北ドイツ連邦 バーデン大公国 ヴュルテンベルグ王国 バイエルン王国 ドイツ帝国の誕生 この頃からドイツの時代が始まっているように思われる 同時に世界大戦の予兆

1875-1940 第三共和政 1914-1918 第一次世界大戦 1939-1944 第二次世界大戦

1946-1959 第四共和政

1959から現在 第五共和政 シャルル・ド・ゴール大統領

現在のフランスが生まれるまで、フランス革命から、丁度百七十年掛かっている。それと、気が付いたことは、ドイツが統一されたのが十九世紀後半。知らなかった。フランスの天敵イギリスとは、いつの間にか工業化、産業革命で足並みが揃い始めている。その背後で、ドイツ帝国が誕生している。考えてみたら、ベルリンの壁が崩壊したのが1989年だから、本当の意味で現在のドイツが誕生したのは、高々、二十五年前なのである。このヨーロッパ最強国のこの国の歴史も、複雑怪奇波乱万丈。しかし、フランスの現在も、高々、五十五年前からである。私(裕センセ1959年生まれ)の誕生が第五共和政の発端には、もちろん、なっていない。

日毎、テレビのニュースを見ていて、うーむ、昔と、あまり変わっとらんなあーとしみじみ思ってしまったりもする。それにしても、フランス人は議論が好きである。これは悪いことではない。でも、全員「同時に」話をするのは止めて欲しいのだけれどねえー。初めてフランスのテレビで、ミッテラン大統領と大学生の討議という番組を見て、びっくり仰天っ！ 大学生「あなたの考えは間違っている。政策転換をするべきだ」。大統領、非常に丁寧に学生たちに説明をしていた。物凄く、論理的な説明だったし、この若造がっ、という苛立ちもまったくなかった。ちょっと、不思議な感じが、当時の私にはした。でも、ミッテラン大統領、女性問題をインタ

ビューアーが問い掛けた時は、「それが、なにか？」とそっけない返事。もう少し、きちんと訳すと「だから、なに？」「なにか問題なの？」だな。英語のSo whatと同じニュアンスだなあー、たぶん。

2014.10.10 Fri

俳優

とうとう閲覧数ゼロの日が出た。クローズゼロじゃないけれど、その時はcloseしようと思っていた。っても、なんで、閲覧ゼロなのにPVが6なのだろう。ちゃんと解析してんのかよおー、ロボ君っ！ やはり、ゼロは痺れる。コンサート会場に、お客様ゼロ、これでは、いくらなんでも、私とて演奏はしない。と、風前の灯火。ふっ、ありゃ、消えちゃったよ。

ところで、昨晚、ユーチューブを弄くっていたら、阿部寛さん、大竹しのぶさん・・・、豪華キャスト満載の映画が出て来た。最後まで、寝ないで見た。いい映画だった。

大竹さん、私より二つ上である。元々、演技力には定評のある方だった。その大竹さんの五十代の母親の役。痺れました。

俳優という職業は、とても難しい、はずだ。時流、見てくれ、それから「ご本人の人生」。時流という意味では、過剰な演技は少しずつズレ始めている。「自然体」。これを「演じる」ことは、凄まじく難しいか地で行くかとなる。

銀幕から引き吊り下ろされた俳優たちの、ご本人の生き様が映像に出てしまうから、しんどい仕事だと思う。

でも、日本の俳優さんたち、確実にフランス化している。私は、そういう意味のフランス化は、大変に、好きだ。

2014.10.12 Sun

納戸の整理の難度

私の家は丘の上に建っているから、通りから見ると、地下が地上階になる。その内の三分の一は、本当に地下室だけれど、三分の二は、庭に面した地上階である。

カミサンが、市役所に、粗大ゴミの引き取り願いを出した。半地下に溜まっている物を処分するわけ。別に、日常生活で、踏み入れる空間ではないから、あっても、なんら邪魔にはならないけれど、スカッとしたいのだろう。

諸々が出てくる。

そして、本当の地下室になっている部分。ヒーターの石油の巨大タンクの奥に、昔は、石炭を貯蔵していたスペース。ここに、私の美術家としての最後の作品が入っている。ここにもメスが入った。

二十年ぶりに、庭のテラスに出て来たそれ。ピンク色のマネキン人形。五体のトルソ。九枚のパネル。ほこり、蜘蛛の巣、パネルの下の方は、湿気で崩れている。

バケツに水を汲み、スポンジで拭いたりブラシで掃除をした。私は、この最後の作品を粗大ゴミとして捨てるつもりでいたのである。でも、綺麗な姿が見たかった。綺麗になった。庭のテラスに並べた。カミサンと娘が見に来る。「あっ」、たぶん、芸術のオーラが菩提樹の下に漂っていたはずである。結局、破棄は免れた。私自身、感傷的にはならなかったけれど、その、オーラには、ちょっと、痺れた。「俺も墮落したな」って、ちょっと、思った。

「そうだなあ、この作品、作ったの二十二年前ぐらいのはずだな、息子が三つぐらいで、娘は赤ん坊だった頃だ。しかし、俺は何してたんだろうな、会社で課長になって、美術作品作って、小説も書き出した頃だし、ピアノまで始めている。なんだかさあー、ナポレオン症候群じゃん。よく、俺、過労死しなかったよなあー」などと、ひとり脳内呟き。

「しかしよおー、物体は、こうして朽ちていくけどよ、俺のピアノの技術は、ほこりも被らんし錆びないしなあー、生きている限り、いや、俺が駄目にならない限りはよおー」と脳内独り言。階上の雨戸が開き、娘が「パパ、おはよっ」「おっ」と言って、ピンク色のマネキン人形の左腕を持って手を振った。「なっ、悪いけど、マネキンさんよおー、うちの娘の方がよ、おめえーより、お陰様で、別嬪になったぜっ」。

はい、はい、親馬鹿の小カバに小亀を乗せてえー、ミシンとニシンの解剖台いー、箆り傘あー、よっとるあもん。裕センセ、意味、分からんのですが・・・。

えっ、兄貴は、分かっているよ。

2014.10.13 Mon

GDP国内総生産世界一位は、皆さんご存知の通り、アメリカ。二位が中国。三位が日本。

日本が、フランスのそれを追い越したのが、1966年でドイツのそれは1968年=世界第二位になった年。中国が、日本のそれを追い越したのが、2010年(日本は、四十三年間、二位だったのである)。いずれ、中国がアメリカのそれを追い越すのだろう。そして、ブラジル、インドが競り上がってくる。追記 世界GDPランキングリストをじっと見ていたら、なんと、日本のそれだけ減少しているのである。ベストテンの三位ではあるけれど、唯一、減少している。

世界経済地図が「欧米+日本」中心ではなくなってきた。「欧米中心」が崩れたのは、近代以降、たぶん、初めてのはず。

私は、ずっと、冗談で、フランス人に「あのさあー、近い内に、世界的スター、マイケル・ジャクソンみたいのは中国人になるだろうなあー、うでよおー、白人のおねいさんたちが、目を一重にする手術とかするようになる」と言っていた。ほとんど、当たりの予感がしている。

国土が大きな国が大国なのか？ 資源等を考えれば、そうなのかもしれない。そして、不思議な、実に単純な数字に気が付いた。「ヨーロッパ連合」。このGDP、アメリカを凌いでいるのである。実際の、世界一位はヨーロッパ連合なのである。なんか、今更、あれっ？ なんて思っている私も、少し、おかしい。

うん、私は、日本国はヨーロッパ化、すでに、しているけれど、するべきと考えている。アメリカ文化は日本人の内奥には入ってこないように思える。いや、十分、入って和風化しちまってるから、やはり、ヨーロッパ化が望ましいと思っている。高度経済成長は、もう、いいから、高度文化成長こそ、とるべきベクトルと、わたくし、ノンポリティック党党首は申し上げる。

言い換えると「豊かな斜陽」みたいなものである。とはいえ。GDPの減少、少子化と嫌でも始まっている。

昔のアメ車紛いの日本車。こういう時代は、とっくの昔に終わってしまったのである。さすがはヨーロッパ。そんなことは、一度もなかった。

そうかあー、六十年代半ばの順位はアメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、日本だった訳なのだ。これを、日本は一年おきに一国ずつ追い抜いていった。フランスが経済大国と呼ばれたことはない。でも、パリは「芸術の都」と呼ばれているし、第一、パリ市の紋章に「たゆたえども沈まず」なあーんて書いてある。ちょっと、見直してしまう、改めて。

2014.10.14 Tue

自動車のデザイン

私は、「ぼろ車に乗るカーキチ」と以前、書いた。自動車、好きである。元々、自転車狂だったから、その延長なのだろう。結局、「自由」の「自」が付くものが、好きなのかも知れない。おっ、このフレーズ、詩、している。さりげなく。年の功だよおーん。せっかくのさりげなさが、こういう追記で台無しになるところが、ジャズメンらしいのだ。余韻とかが、駄目なんだろう。書き捲くって、弾き捲くって、ヨッイーんってな感じだからねえー。やはり、「cocode note」サクライさんには、敵わないのである。私のブログを読んで下さる方、ありがとうございます、もし、サクライさんのブログ、ご存知でなければ、右下リンクして居りますから、お読み下さい。私は、ブログのビル・エバンスと思っております。ピアノ弾きにとって、ビルは、永遠に到達できない、なんちゅうのかな、ピアノを詩に変えたとんでもない人。

ところてんで、ですね、そのカーキチにとって車のデザインってね、国力なんちゅうのとは違う文化力というか、その「国」を如実に現すおもしろいもの。うーん、極論するとね、「その民族の自信」みたいなもの。

たぶん、一番、お洒落 イタリア
スペインも、ちょっと、その血を引いている
フランス 実用実用でドン臭そうな中に、ちらっと、お洒落
ドイツ ご存知の通り
北欧 ちょっと、ドイツ系かな

でね、日本車のデザインを見ていて、「その自信」を感じ始めたのは、ここ十年ぐらい。韓国車は三年ぐらい。もう、いいんじゃない、「新参者」は。ここからは、裕センセの愚脳全開・・・。

日本航空ないし全日空の飛行機。畳にして、奥に味の名店街と銭湯を作ってください。客室乗務員も、たぶん、いらん。屋台形式だから、セルフね。

胡坐かいて盛り上がる。シートベルトは、畳に付けてね。やばい時は、皆、大の字になってシートベルト。

ファーストクラス？ 知るかっての、うなもん。

だからね、日本の車も、畳にして、木造で、窓は障子で・・・、うなわけ、ねえーんだろって！

日本の自信はテクノロジー、世界最先端の。うじゃ、前面にぐおーんと出しなさい。遠慮する必要が分からん。これって、トヨタ症候群かも知れない。まあ、「無難無難で世界一」。つまらない、そういうの。

えっ、それが日本式なの？ 俺は、ヤダよ、悪いけどな。NISSAN GTR、SUBARU WORKS、こういう粋なベクトルがなあー、欲しいよってな。自信が漲っているから、その形も、やはり、美しく「しか」見えない。

2014.10.15 Wed

素面とほろ酔い

今、ほろ酔いで書いた記事二編を予約投稿にセットした。なんとなく、アップするのを躊躇していたのである。

ここ近々の記事は「素面」だったから「ほろ酔い」の方に、やや、躊躇感が走る。後者の方が、イサオ節がよく出ているから、私らしいし、するどいフレーズも多い。考えてみたら、私のブログは全体的に「ほろ酔い系」なのではある。しかし、勢い付いて、やや、上から目線、やや、毒舌の色合いが出てくる。まあ、本音が出てくる。でも、素面の私は、それがあまり好きではない。サディスティックジェントルマンという錯綜した精神構造が、「ほろ酔い」の方に現れる。なんとなく、俺ってやな奴だわなあー、と客観的に思っちゃったりもする。俺のこと、嫌いじゃ、っていう奴も多いような気がする。確かに、ニコニコしながらキツイ上から目線ナルシスサディスティックメガロジョークを「ほろ酔い」の時に連発する。「深酔い」になってくると、それが、もう、あからさま。有吉イサオとなっている。翌日、あっ、ちと、ヤバかったかなあーと反省するのだけれど、やはり、本音を言っているから、責任を取るしかない。とりわけ、フランスには「無礼講」という感覚はないから、「酒の席の発言」は有効なのだ。言い訳しても無罪にはならない。でも、私とて、やはり、あまりに拙い発言に関しては、とりわけ、先輩諸氏への糞生意気な発言、これは、大変に無礼なので、翌日、謝りに行く。

と、言葉はやっかいなのだけれど、ピアノは・・・。

ジャズクラブ 飲みながら弾いている 二部の最後辺りは、結構、深酔いに近い
シアター これは、ちと、ステージの上で飲み難いから、楽屋で「丁度いい加減」にしてから
ステージへ 終了後、楽屋で飲み直す

たまに、このどちらもできない場合が発生する。素面ジャズをせんければならなくなる。後で聴いてみると、やはり、メローで、やや、端正。暴力臭がなく、やはり、どうしても、エリック・サティーとかドゥビッシュー風のフレーズが多い。こちらの方が素敵とおっしゃる方も多いのだけれど、フリージャズマニア系集団からは、串刺し。媚、商業主義、墮落・・・、ぼろくそ言われる。「素面」「ほろ酔い」「深酔い」、文体、内容、奏法とか諸々が変わるけれど、どう言い訳しても、すべては私なのである。

と、今日は、素面で書いてみた。さっ、飲も飲もっ。

2014.10.16 Thu

昨晚、ニューヨーク組、クラリネットとベース。パリ組、沖至、佐藤真のコンサート。この私の両師匠、夏のバカンス以降、お会いしていなかった。久しぶりに、三人で、いつもの小さな中華レストラン。美味くて安いし、ホームジャズクラブのバビロの近く。昨晚、なんか、急にまじまじと気が付いた。三人の中国人女性が切り盛りしているのだけれど、三人とも、凄く綺麗。我々、常連。ほとんどいつも同じものを頼む。焼きソバ、チャーハン、つくね、エビの塩焼き。赤ワイン二級酒。結局、いつも、一本では足りなくなり、1.5本になる。その後のコンサートは、さすがとしか言いようがない。私は、客席で聴くの好きである。

沖師匠。食事をしながら・・・。

「イサオさあー、阿部薫な、あいつ、寺山(修司)さんの天井(栈敷)でやってる時さ、モノホン(本物)のリングの中で、プロボクサーとセッションしてたら、薫が一升瓶持って俺も吹かせて下さいって、リングに上がって来たんだよ。うんってやらせたら、剃刀みたいな演奏でさ、その後、新宿の副島(輝人)さんとか連れて行った、糞生意気だけど、ありゃー、剃刀だなあー。副島さんがジャズシンポジウムやった時なんか、殴り合いになっちゃってさ、寺山さんが、そうさうだあー、なんて言ってたよな。ヤバイ時代だったよなあー。ところで、イサオは腹出てないな。なんかやってんの？ 庭仕事と家の修理かあー、それだけでも重労働だよなあー、俺、ちょっと、腹出てきたから、今、一生懸命、腹筋鍛えているんだよ。俺、腹でんのヤなんだ。イサオ、いくつになった？ 五十五か。若くはないけど、俺たちと比べりゃー、まだまだ行けるよな」

なんか、やはり、しみじみと、凄い人と食事してんだな、俺、と思った。

2014.10.17 Fri

勉強嫌い

私は、比較的、勉強はできた方だ。とりわけ、理数系は。でも、幼少期から、勉強とか学校とかが嫌い。もう、義務教育が終わったら十分と思っていたけれど、そうそう自分の思惑通りには行かない。仕方がない、高校へ入る。できれば大学はパスしたかったけれど、そうそう自分の思惑通りにはいかないから、受験はしたし、なんか浪人のようなこともやったし、美術学校にも通ったし、なァーって学生モドキをやっていて、脳パンク。結局、ロンドンのアートスクールへ行った。なんだったのだろう。私は、自分の子供たちには、好きにさせることに決めていた。学校、行きたくなければ、それでよし。行きたければ、それでよし。進路は、自分で決めて下さい。放任主義とも違うのだけれど、「任」は自分で背負って下さいね、ということ。もちろん、親父だから、必要な援助はする、以上なのである。私の方針は、間違っていなかったと確信している。子供たちの方が、私よりずっと立派になったからねえー。まあ、私の馬鹿度が酷いという見方もあるけれど？ ふむ。とにかく、勉学はさておき「ヤな奴」にはなって欲しくなかったから、ばっちりだぜって。

などといいながら、歴史の勉強をやっているのだけれど、やや、飽きている。などと、いいながら、ダ・ヴィンチの「モナリザ」の歴史なあんていうと夢中になる。とりわけ、「モナリザ」とダ・ヴィンチの晩年の自画像クロッキー、これを重ねると骨格がピタッと重なる。この話は、元々、美術家だから知っていたけれど、やはり、どきどきする。皆さん、ご存知でしたか？

あっ、結局、歴史に潜むミステリーにぐぐっとくるんだよな。そうなると、マヤとかアンコール

ワットとかストーンヘンジとかこっち方面に走るのであるが、「フランスの歴史の勉強」をしなければならぬ私が、なにやっとなるのだ、となる。ついでに、ウィキペディアしているうちに、あれ、マルセル・デュシャンの最後の作品名なんだっけ？ とかなる。ちっとも、勉強が進まない。

回答

マルセル・デュシャンの代表作、通称「大ガラス」の正式な題名は「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも」です。そして、秘密のアトリエで作られていた最後の作品「(1)落下する水、(2)照明用ガス、が与えられたとせよ」。前者は二十五歳から三十三歳ぐらいまで。制作に八年間。未完成のまま放置。後者は、推定では晩年の二十年間ぐらいだろうということになっている。どうも、ダ・ヴィンチのことを考えるとデュシャンに繋がってしまう。私というのか、我々というのか現代美術家にとっての現代のモナリザは、この「大ガラス」なのである。お気付きですか？ デュシャンという美術家は、二十五歳以降、基本的に作品と呼ばれるものは、この二点しか作っていないのであ。晩年のインタビュー、「マルセル・デュシャンさん、あなたはこれまでの人生を振り返って、どう思われますか？」「はい、私は大変にラッキーでした。まず、生

活のために働く必要はなかったですから。馬鹿げています、そんな時間の使い方は。私は、色々
と考え事をしているのが好きなのです」なァーって、普通に言う人なのだ。

2014.10.18 Sat

先週の金曜日。土曜日、日曜日と気温が二十四度にとの天気予報。突然、週末の小旅行を決定した。

前々から、なんとなく近くを通り過ぎるだけだったノルマンディーの海岸部の三つの場所が気になっていた。ル・アーブル、エトルタ、フェカン。今日は、まとまった時間が取れないから、少しずつ、旅行記にしようかと思っている。予告編として足早に・・・。

「ル・アーブル」意外とご存じない方が多いと思う。戦後再建された町の中心街は世界遺産なのである。たぶん、世界一ユニークな世界遺産のはず。オーギュスト・ペレと百人の建築家によって1945-1964と二十年掛けて、第二次世界大戦の爆撃により全壊した町が再建された。再建された町自体が「負の遺産」ではないけれど、「負の遺産」の上に建てられた「正の遺産」という二重の意味をどうしても感じてしまう。この鉄筋コンクリートの町並みを見たかったのである。実際の町を歩いてみて、キリコの絵の中にいるような錯覚。それから、すべての建物が、ほぼ同じであるから、建物から貧富の判別が付かない。この均質性に打たれた。五千人の戦死者の慰霊塔でもあるサン・ジョゼフ教会の内部空間。宇宙的な空間だった。過去の町の復元ではなく、まったく新しいコンセプトの基に近代的な都市が構築された世界でも稀な例なのである。

「エトルタ」私は、フランス随一の観光名所であるエトルタの断崖を一度も見たことがなかった。モネの作品の方も、負けなぐらいに知られている。アルセーヌ・ルパンの作者、モーリス・ルブランが二十年間住んでいた町でもある。奇巖城のモデルがエトルタの断崖なのである。ルブランが執筆していた家も訪ねてきた。畑の中の安ホテルから、車で夕飯を取りにエトルタへ。たまたま一台の車が出た。そこに車を止める。その後、なんとなく真っ直ぐ歩く。あっ、突然の海岸、ライトアップされた断崖。波の音。脳内を駆け巡ったのは、足摺岬という日本語。黄泉の国の入り口に立ったような不思議な感慨。ちょっと、怖くもなった。打ち寄せる波が手招きしているように見えるのだ。そして、聳え立つ断崖。

「フェカン」ベネディクト派の修道院があった町。現在、その修道院跡にベネディクティンパラスという一世紀前の豪華な建物が建っている。フランスの著名なリキュールのひとつであるベネディクティンの工場。その細部まで装飾で埋め尽くされたパラスを見てみたかったのだ。なんか、イスタンブールに来ているような錯覚。パラスのバーでベネディクティンを試飲した。アル

コール四十三度の二十四の植物のエキスから作られる、つまり、ベネディクト派が古くから発見していた製法を試行錯誤の果てに再発見したムッシュー・ル・グランの、その執念と、その莫大な富。諸々の思いが頭を過ったけれど、いやぁー、久しぶりに飲んだそれは、実に美味しかった。

2014.10.20 Mon

破壊された町 ル・アーブル

ル・アーブル、マルセイユに次ぐ第二の港湾都市である。現在の人口は、約十八万人。比較的、小さな中都市の多いフランスの中では、かなりの人口と言える。パリでさえ、二百二十万人。第二の都市、マルセイユ百万人、リヨン四十万人。

戦前の写真を日本語検索してみたけれど、出てこない。フランス語でやってみたら、諸々の画像を見ることが出来た。港湾都市として栄えていた町の風景。重厚な建物がかなりあったことが分かる。大通り、路面電車、行き交う人々。

1944年9月10日から9月12日。フランス解放を目視する連合軍、正確にはイギリスとカナダがアストニア作戦を決行する。とりわけ、イギリスにとってはフランス解放と共に、ドイツ軍が着々と進めていたイギリス本土への総攻撃の基盤を破壊する大きな目的があった。ル・アーブル港がドイツ軍のアシカ作戦(イギリス本土攻撃)の要になっていたのである。

イギリス軍艦二隻からの砲撃 四千トン

イギリス空軍機千九百機よりの空爆 八千二百トン(実際に投下された爆弾五千トン)

やはり、どうしても不可思議な感じが込み上げて来る。フランスという国が、その地理的な意味も含めて、二度の世界大戦の戦場になっているのである。ノルマンディー、ピカルディー地方。私は、随分長い間、「ドイツ軍の空爆による被害」と理解していたのである。実際は、ほとんど、フランス側であるイギリス空軍による空爆の被害なのだ。これが、今以てすんなりと頭に入っていない。味方による破壊なのである。もちろん、フランス領土を占拠したドイツ軍への攻撃ではあるのだけれど……。アストニア作戦、ウィキペディアによると、軍部の被害は最小限であったと記されている。ドイツ軍もイギリスもカナダも軍人の死傷者は少なかったらしい。

五千人 一万二千五百戸 八万人

この数字、民間人の被害なのである。死者、破壊家屋、家を失った人々の数と……。そして、ル・アーブルはドイツ軍からは解放されたけれど、町自体が廃墟と化したのである。第二次世界大戦で最大の被害を、この港湾都市は被った。

違和感、不可思議、理不尽という言葉が込み上げて来るけれど、戦争自体がそうなのだと再認識させられる。いや、すべきなのだ。

基盤の目状の現在のル・アーブル。町の区画の基本が幅6.24m、及び、その倍数で統一されている。風通しと、すべての家々へ十分な日光が入ることを基本理念にオーギュスト・ペレが、再建の

コンセプトを決めた。鉄筋コンクリート、プレハブ建築の先駆的な町になった。彼の最後の作品、サン・ジョゼフ教会。オーギュスト・ペレの基本設計、その弟子たち、レイモン・オーディエ、ジョルジュ・ブロシャールが引き継ぎ完成に至っている。教会であり亡くなった方々への慰霊塔として設計されている。

二十世紀の都市が、ユネスコの世界遺産になることは稀である。私は、この負と正が表裏一体になったこの町を、ユネスコという組織が世界遺産として認定したことに拍手を送りたいし、非常に理知的で見識のある判断だと信じて疑わない。唯一、今でも変わらないもの。小石で埋まった石浜だけなのである。同じ過ちを繰り返して欲しくない……。平和ボケするぐらい平和で構わない。

2014.10.21 Tue

「エトルタ」、フランス語の発音は、時として、日本人には難儀であるけれど、この町の名前は、カタカナ読みでそのまま通じる。なんとなく、ギリシャの町の名前のような音である。町といっても人口千六百人程度の大きな村のような感じだ。「エトルタ」と日本語でグーグル検索を試みたら、沢山の画像、ブログが出て来た。いくつか読ませて頂いた。美しい写真が並び、きちんとした資料に基いて書かれた丁寧な旅行記。私は写真がまったく駄目であるし、調べ物、こちらも駄目。拝読させて頂いたようなきちんとしたブログ記事は、私には無理である。フリージャズメンの悪いところで、結局、自己流に変えてしまう。閲覧数が伸びないのも、こういったいい加減さからきているから文句はいえない。

前日に、小旅行を思い立った。しかも、フランスはその週末から学校の秋休みが始まる。当然にして、簡単にホテルの予約など取れない。こういった時期は手頃なホテルはすべて満室。残っているのは、超高級ホテルのみとなる。そんなところに私は泊まれないから、次の手、目的地から半径五キロとか十キロ圏の手頃なホテルを探す。やっと、一室見付かった。エトルタから七キロ離れた畑の中に建っているホテルが。ド田舎ということを除けば、清潔で快適。平屋で五部屋しかない。各部屋へは、各入り口から入る。毎回、禁煙で苦しむ私には助かる。扉を開けてテラスにでる。しかも。丸テーブルと椅子まであるから、そこでのんびり一服。

通常、こういったホテルはレストランを併設している場合が多いのだけれど、ここにはない。三キロ先の隣村に家庭料理のレストランがあると聞く。行ってみる。入る前に門前のメニューを見る。どこでも食べられるものが並んでいる。値段、相場の1.7倍。この内容、この立地で、この値段？クオリティーが違うという解釈も湧くけれど、どうせ大枚叩くのであれば、エトルタまで行ってしまおうとなった。真っ暗な田舎道を走る。エトルタの町中に入る。駐車場はどこも一杯。秋休み最初の週末。観光客で溢れている。一瞬、失敗したかな、とも思う。とりあえず、車を止めなければならない。海岸の表示に沿って走って行く。一台の車が出ようとしている。ラッキーだった。鮮やかな縦列駐車を決める。スタントマン並みなのである。右斜め前にガラス張りのレストラン。そちらに向かって歩く。実に不思議なのだけれど、それまで聴覚がオフになっていたとしか思えない。突然、波の音が耳の中へ飛び込んでくる。かなりの音量。あっ、石浜の海岸にでる。左の奥。あっ、ライトアップされたアヴァルの門と針岩。針岩とアヴァルの門の左側中央部分だけ、赤茶色のライトアップ。打ち寄せる白い波もライトアップされている。

正直に書いてしまう。私が、その時、咄嗟に思ったことは「死ぬならここだな」である。私は、こうしてブログを書いているから、当然、自殺をしたことはないし、未遂事件などもない。今後も、その予定はない。慢性鬱ではあるけれど……。それは、脳内の甘美な夢想としてあるだけなのだ。苦渋に満ちた現世の対極は浄土。そういった夢想なのである。それから、小説「足摺岬」という日本語が脳内で木霊した。内容はまったく覚えていない。足摺岬＝自殺の名所、こ

の連鎖のみである。どうしてそうなのか調べて見た。プロの作家が、その風景を見て思い付いた。そんなことは絶対がないからである。森敦の月山という小説のベース音に山岳信仰が流れているように、田宮虎彦のベース音はなんだったのか？　すぐに分かった。補陀洛信仰。南方にある浄土に船で渡る。実際の到着地は海難死である。その出発点が足摺岬なのだ。

エトルタ。私が咄嗟に浄土、いや、黄泉の国への入り口に見えたのも自身で領ける。しかし、残念ながら私は科学脳系無信仰人間。医学的な意味でしか理解しないし、肉体という肉質の物体の消滅としか解釈しない無粋な人間である。でも、科学脳だけでは分析し切れない人間の夢想、詩的脳も同時に信じている。

2014.10.22 Wed

エトルタ殺人事件

「コロンダ警部、やはり、本件、泥酔した若者の悪ふざけによる事故死の線が強いですねえー」

「ふむ、下田君」コロンダは愛用のパイプを燻らせながら、上の空で返事をする。

「しかし、最近の若者、むちゃしますよねえー、泥酔状態で車運転して、しかも夜中にエトルタの断崖に上り、ふざけて闘牛の真似をしていた。内山マミの供述ではねえー。そして、牛を真似た上谷たかしは転落死した」

「ふむ。下田君、今晚、現場をもう一度見に行こう」

「コロンダ警部、もうなんども争った形跡確認は致しました。なんど行っても無駄足になるかと・・・」

「まあまあ、下田君、そうじゃない、久しぶりに酒でも飲もう、エトルタの夜景見ながら・・・」

「えっ、あっ、そういうことですか？ でも、僕、エトルタの夜景見ると足摺岬思い出して、ちょっと、怖くなるんすよ」

「うん、私も分かるよ、その気持ち。こう見えても、私はそんなに無粋な人間ではないからね」

その日の夜。

「たーりりんのたーりりんいーー、うわあー、酔っちゃまったよおーー、べろべろ」肩を組みエトルタの海岸通りを歩くコロンダと下田。

「けっけけ、下田よおー、断崖の天辺でよおー、闘牛ごっこしてみんべえー」

「けっけけ、面白そうすねえー、あの連中みたいにねえー、ほっほっほっ」

と、二人で階段を上り始める。二十メートルぐらい上る。ぜえぜえぜえ・・・。コロンダの目が、その時、きらりと光る。まったく酔ってはいないではないか。

「下田君。どうだね、泥酔状態で、あの上まで辿り着けるかな？」

「駄目っす、とても・・・」

「明日、もう一度、内山マミを呼べ」

取調室

わっと、泣き崩れる内山マミ。

「彼があーー、いいじゃないのおー、だからさあー、いいじゃあーーないのおーー(コピーライト、日本エレキテル連合)と、あんまりしつこいから、うん、じゃ、あの断崖の洞窟までひとりで行ってきてっていったの。男らしいところ見せてって。それなら考えるって。そしたらさあー、ジャズメンで馬鹿じゃん、俺、ちょっといってくっからよって、本当にいっちゃったの。そしたら満潮になって波に呑まれた」

「コロンダ警部、これで謎が解けましたね。別種の事故死でしたねえー」

「内山マミっ！ 計画殺人罪で逮捕するっ！」

「えっ、コロンダ警部？」

「内山マミ、君は、幼少期をエトルタで過ごしている。調べは付いている。満潮時の危険さを君はよく知っていたはずだ」

「わっ、警部さん、あんまりあいつが稼がないから・・・、しつこいし・・・、エトルタなら・・・、なんらかの方法で・・・、なんらかの偽装・・・、わっ、私がやりましたあー——」

「内山マミ、出所したら、今度はジャズメンなんかと一緒にになるんじゃないよ」と、コロンダは優しく声を掛けた。

編集部

「なんとかならんすかねえー、裕センセの愚脳。もうちょっと、重厚な文学的な詩的なブログ記事をたまあーには書くんじゃないかって期待してたら、これですよ、編集長。まだ、犯人がいるから、前作の犯人のいない推理小説より、ほんのちょっとだけ進歩はしていますけどねえー。被害者も加害者もないのに、皆で疑いあって犯人探し。馬鹿馬鹿しいって。でも、下書きの和風飛行機Air Japon、こっちは超おもしろそうですけどねえー。飛行機の入りがね、引き戸だったり、提灯ぶらさがってんですよ。けらけらけら」

2014.10.23 Thu

私が、確か、小学校五年生の頃、父が「シャーロック・ホームズ」と「アルセーヌ・ルパン」全集を買ってくれた。はずだ。記憶が曖昧であるけれど、私の部屋にそれはあった。貪り読んだ。止まらなくなり、明け方まで読んでいたような気もする。福島県いわき市の田舎町。田舎だったから、そこそこに大きな家ではあった。現在の記憶では、長男の私は一番奥の六畳間を与えられていたけれど、手前の四畳半の部屋は、それ以前だったのかしら……。弟がそこに

入ったときに私は奥に移動したのかもしれない。縁側のある六畳間にいた私が、遠い将来、フランスに住む。エトルタのモーリス・ルブランの別荘を訪ねる。夢物語以前。意識構造の中に、微塵もなかった。三十五年前かあ——と書こうとして、算数がおかしいじゃん。
55-10=35? ぎょわあ——ん、四十五年前だっ! ルパンシリーズ、ストーリーとか、まったく記憶にない。健忘症ではなく、長い月日が経って時間の波にさらわれてしまっただけである。脳内自体が、エトルタの断崖絶壁構造になっている。脳細胞の半分ぐらいが、記憶の大海に流されてしまったわけである。

今回、私が訪ねたエトルタの「モーリス・ルブラン記念館ルパンの隠れ家」。よく調べたらルブランの自宅ではなくて別荘だった。二十年ぐらい使用していたらしい。夏の間は、たぶん、この別荘で執筆していたのだろう。奇巖城のモデルである針岩の金属と木でできた模型が置いてあった。

ウィキペディアで調べてみたら、ルブラン、元々、いわゆる「純文学」の作家を目指していたらしい。四十過ぎまで、まったく注目をあびることがなく、かなりの貧乏生活。その頃、コナン・ドイルの成功を横目で見っていた出版社のひとつが、ルブランに「君も大衆小説を書いてみないか」と持ち掛けた。ルブラン、あまり乗り気ではなかったようだけれど、金がない、切羽詰っていると、短編推理小説ルパンシリーズ第一作を執筆。これが大成功。おもしろいのは、コナン・ドイルもルブランも、どうも、この「大衆小説作家」というレッテルを忌々しく思っていたらしい。知らなかった、そんなこと。考えてみたら、筒井康隆もなんかのインタビューで「新聞社とか、必ず、俺の名前の前にSF作家と書く。SFを付けないと気が済まないらしい。俺への当て付け嫌がらせなんだよ」という意味のことを言っていた。

「純文学シンドローム」みたいなものは、最近ではかなり薄れては来ているとは思うけれど、プロの作家の中には、やはり、もやもやがあるのだろう。「読物」「大衆小説」は文学ではないとか、作家として格下とか……。でも、芥川直木の両賞の元々のコンセプトは、すでに崩壊しているから、純も大衆もボーダレス。どちらでもいいし、文学を感じるのか否かは読み手の問題。漫画の方が、ずっと文学していたりもするから、あまり、考え込んでも始まらないのである。

モーリス・ルブラン。ルパンシリーズでの名声、かなりの財力。純文作家になり損ねた諸々の不

満はあったのだろう。七十六歳で亡くなるまで晩年は、相当、裕福だったのに、出版社に国鉄の割引券を無心していたとのこと。なんか、私はこういう話、泣けるのである。

追記

「L'Aiguille creuse空洞の針」、知らなかった「奇巖城」の原題である。「奇巖城」保篠龍緒さんの訳。なんという素敵な訳なのだろう。考えてみたら、映画「巴里祭」の原題は「7月14日」。素敵過ぎのような気もするけれど、やはり、超絶お洒落。第一、あの六畳間にいた小学生が、なぜ、このフランス語を読めるのだ？ デジャブの反対現象だねえー、これって。ところで、「フリースジャズピアニスト」と「ジャズピアニスト」って、どう違うわけ？ 前者、うーーむ、まともにスタンダードが弾けないという意味も多少あるかしらあー、でも、ジャズのエッセンスはむんむんだぜえーという多大なる裏自信もあるなあー、やっば。わっ、「フリー」を直訳すると「純」かもしれんっ！ なんだよおー、ミュージシャンの中にも、もやもやはあるじゃんって。

2014.10.24 Fri

献花

本来なら、フランスの墓参りは来週末なのだけれど、今週末に行くことにした。

小さな車のトランクは献花で一杯。入り切れないお花は入り口の廊下に並べてある。

造花は、あまり好きではないから、本物のお花。オレンジ色とか黄色。菊の花は好きではない。

もちろん、亡くなった方には、我々が行っていることは分からない。だから、我々は自分たちのために行くのである。

生きていることを、再考しに。

まっ、自分の番が来るから、不義理は不義理の連鎖を呼ぶし、亡くなった方を大切に出来ない人間は、その、生きているという生物学的でなくてもいいけれど、という実態、実感を理解できない無粋な人間。人生という意味を知らない、ということ。と、算数上はなる。墓参りとは、亡くなった方、それから、我々自身への、つまり、生きていることへの献花。

2014.10.25 Sat

フェカン ベネディクティン宮殿

フェカン。エトルタの北側に位置している港町である。エトルタと違い、観光地というほどではないけれど、フェカンといえば、ベネディクト派の修道院という固定観念があった。ここで、私の無知と混乱が始まっている。当然、私の目的はベネディクト派の修道院を見に行くこと。

その修道院＝ベネディクティン宮殿

前者はフランス革命時(1791年)に破壊されている。では、後者はなんなの？ なにも知らずに行ってみた。ここで、更なる混乱、リキュールのベネディクティンとベネディクト派との関係は？ 一人推理小説と脳内が化してしまった。

以下、簡単な謎解きです。

1510年ベネディクト派フェカン修道院にてリキュールが製造される。ベネディクト派は元々、学問研究が盛んに行われた派でもある。薬草研究の成果としてリキュールが開発された。当時は、薬として使用されていた。少しずつ、歴代の王なども含め、世界でもっとも美味しいリキュールとの評判が広まっていく。しかし、その製造方法は修道院が破壊された時点で紛失。1863年、フェカンのワイン商アレクサンドル・ル・グラン。遠縁の親戚の男が、修道院破壊時に持ち出したらしい諸々のノート類を発見。その一冊が、どうも、リキュールのレシピらしい。悪戦苦闘の末、解説。レシピの復元に成功。ル・グラン、ベネディクト派に敬意を表して、リキュールの名前を「ベネディクティン」とする。その莫大な収益を元に、修道院が元々あった場所の近くに、ル・グランは宮殿を建てた。1893-1900年。

なんか、少し、御伽噺のようなサクセスストーリーがあったのである。分からないのだけれど、とりわけベルギーの方に行くと、修道院で作られた各種のビールがある。たぶん、これも、元々は薬として飲まれていたのだろう。

このベネディクティン宮殿。ル・グランの財力の誇示もあったのか分からないけれど、見事な建築である。宮殿であり、美術館、博物館、リキュールの工場と、一種の複合施設。世界で唯一、ここでしか製造されていない。工場という見地からすれば、世界で最も豪華で美しい工場とっていいかもしれない。もし、機会のある方は、一度、いらしてみてもいいと思いますよ。ル・アーブル、エトルタ、フェカン。このコースは比較的、車で回るには丁度いいし、ホテルのベッドの中で、ルパンシリーズなんか読んだら最高かもね、ベネディクティン飲みながら・・・。

ははは、結局、小旅行もフランス史の勉強の一助に無理矢理してしまう。おまけに、それをブログにしちゃうから、一挙両得である。ところで、来週、新しいトリオのお披露目だ。ジャズ脳に

少しずつ戻さないかね。ステージの上にホワイトボード立てちゃって、ルイ十四世のお話なんてやっちまいそうだから。それから、来月半ばのちょっと前ぐらいから、裕センセ、学生になるのだよ、五十五歳の。なんか、ちょっと、こそばゆいけれど、結構、なんだか、浮き浮きもしているのだ。人生、分からんもんだね。学校嫌いが、この年でよおー。学っ校お、ウキウキ・・・、こんな歌、なかったっけ？

2014.10.26 Sun

国木田裕、パリで著名な建築家である。といっても、その人ぞ知る、キッチン重視の偏屈建築家として。ルックスは、面倒だから、テレビドラマの阿部寛にになってしまう。豊川悦司でも、いいよ。作者は、どっちにも似てないからねえー。とはいえ、わたくしは松田優作と役所広司を足して二で割って微分積分して、少し小さくした感じという感じに似ているのだ。よ。きよ。むむむうー、なるおー、俺は、誰にも似とらんっ！俺に似ているだけだっのっ！

国木田が珍しくアシスタントの桃谷マミに声を掛ける。マミは、テレビドラマと同じくというか、パロディーしているのは、こっちだから、結局、ぱくり。なんだけれど、ちゃんと、出展は、こうして書いているだろ？で、マミは国木田を内心、好いているのである。どきどき。

「マミ、なんかさっ、急にアルセーヌ・ルパン思い出してね、今週末さっ、エトルタと一緒にいかない？」

マミにとって、こんなことは初めてである。しかも、「一泊しないか」だって。どきどき。

「えっ、国木田さんっ、えっ？」

「三十代の独身の女が考えている海辺の住居って、なんなのか知りたい」

マミ、がっかり。「後さ、まっ、たまには、君の慰労もある」「えっ、どきどき」・・・、面倒なので、後、割愛。有料にすっぺかなっのっ！

2014.10.27 Mon

阿部寛そっくりの裕イサオが、シャルル・ドゥ・ゴール空港ターミナル2Fの通路を歩いていく。AIR JAPON庶民席に乗るためだ。通路の奥に、赤提灯と障子の引き戸。ガラガラと開ける。着物の客室乗務員二名が、深々と「いらっしゃいませ」。法被を着たパーサー、「らっしゃい」と通り過ぎる。おしぼりをもらう。席番号なんぞない、畳の大広間。その前に、玄関で茶色のAIR JAPONと書かれたスリッパに履き替える。とりあえず、別嬪の多い辺りにドンと座り、構いはしない、その場で、浴衣に着替える。十二時間も、背広姿でフライト。粋ではないからである。なんとなく、客室乗務員が感付いたのだろう、私のいる一角に、一升瓶が運ばれてくる。「あっ、すみません、まず、アサヒスーパードライ、お願いします」。すかさず運ばれてくる。ぐびぐびする。サキイカときゅうりのキューちゃんも添えられている。ちょっと、泣きそうになる。どどどっ、女子大生らしき一行が私の周りに。「ねえねえ、マミ、やっぱ、最高よねえー、AIR JAPON、日本までさあー、宴会したまま到着うー、いかしてんじゃん」。ルイビトンとシャネルの紙袋が私を隔離するように置かれた。「ちょっと、君たち、年功序列、へっ、ここは、私の席。カバンは、入り口のコインロッカーに入れて」「おじさん、あれ、結構、高いんですよ、十二時間入れると」「あっ、そういうことなのね、じゃ、窓際に寄せて、おじさんも混ぜて」「ひそひそ、ねえー、マミ、一応、イケメンだし、お金多少はありそうかなあー、でも、庶民クラスだもんなあー、あれあれあれっ、ピアニストの裕さん？」「あれあれあれ、そうだけど」「わっわっわっ、パリで聴きましたよおー、きゃ」「あれあれあれ、ありやー、驕ったるよ」「きゃー、マミ、裕さんよ、ピアニストの。ちょっと小振りの阿部寛よっ」。

気が向いたら、つづく。

2014.10.28 Tue

フランスワインの詳細、歴史の勉強を始めた。私は、安ワイン党の飲み助だから、ぼわあーんとした知識しかないし、葡萄の種類がどうのこうのというワインうんちくゼロ人間。とはいえ、ボルドーに二年間、リヨンに四年間住んでいたし、三十一年間、ずっと、ワインを飲んでいるから、ざぼった知識はなくてはならない。でも、たとえば、「シャトーマルゴー」自体の歴史、まるで知らないのである。「うん、有名、うん、高いよ、うん、美味しい、かも、ね」などという程度。実際、もちろん、美味しいのであるけれど、私は和食、中華人間だから、「コート・デュ・ローヌ」とかロワール川方面の二級酒の方がよくなってしまふ。あれ？ 結局のところ、勉強する気あんのかよおーって！ ワインとは瓶の形に切り取られたフランスの陽光なのだ、などと、格好いいフレーズで自己完結しちゃったりする。いかんいかん。第一、「タンニン」という単語がワインのお話にはよく出てくる。なんとなく「渋み」のような意味で理解しているけれど、実際はなんなのだ？ もう、分からないのだ、ここから。うーーん、諸々の知識と共に、ワインを飲んでみると、たぶん、味わいも変わるのだろうねえー。

ところで、同時にフランスの近代美術以降の歴史の勉強もしないといけないのだけれど、これは、私の専門分野だったから概略は知っている。専門分野でない方が美術鑑賞するのとは、当然にして目線は違うというか、第一、鑑賞はしない。あっ、そうなるとワインの歴史を詳しく知ると、ぱっぱらぱあーと楽しく飲んでいることができなくなるかもしれん。専門家とか専門業者になっちゃったら、困る。

たとえば、ですけど……。キュビズムのベースになっている画家はセザンヌ。純粋に平面構成という概念を彼が持ち込んだ。写実が崩壊。キュビズム。物を複数の平面の集合体として分解し、それを二次元平面へ。絵画は平面構成という幾何学へと進む。この辺りから美術がどんどん理論化され始め、とうとう究極の概念。マルセル・デュシャンのオブジェ、レディーメイドへと到達する。理論的には、究極点。そして、デュシャンのベースにダ・ヴィンチがいる。もうひとつの潮流とすると抽象絵画。ベースはゴッホ。マチス。キュビズム以降のピカソ。写実のデフォルメを突き詰めた頂点は、モンドリアン。マーク・ロスコも、この流れの中にある。アメリカのスーパースター、ジャクソン・ポロックもそうであるけれど、ポロックの革新性はオールオーバーの概念を初めて絵画に持ち込んだ。オールオーバーとは、額縁で区切られた平面を無限大の平面の切り取られた一部として解釈する方法。初めて、絵画が額縁から解放された。

と、美術家としての裕センスは前者の理論系に属している。美術を鑑賞するというのは、当然、私はできない。

げっ、ワインも同じになっては困るなあー、ドドド素人でいいってな。

あれ、印象派は？ いや、ひとつ知らなかったんだけど、印象派が生まれるベース。本当に、その発端になっていることが、持ち運びのできるチューブ絵の具の出現。これは、最近まで知らなかったのです。アトリエから解放されたんですね、絵描きたちが。

2014.10.29 Wed

ワインの発祥は、紀元前八千年、今のグルジアの辺り。

ところで、ワインといえばフランスという公式はある。究極のワイン道を突き詰めた国である。ところで、私、我々、ジャズメン。高級ワインには縁がない。他の連中は知らんけれど、私は、特に飲みたいという欲求もない。ロマネコンティをこたつの上に倒してしまった人がいるらしくて、幸い、こたつの額縁みたいなものが床零れを防いだ。結局、こたつのテーブルで晩酌。こういう人を知っている。なんか、こっちの方が貧乏臭いのだ。

ところで、(佐藤)真師匠は、料理の先生でもあるし、料理の本を出している。当然、ワインも詳しい。こういう道を極めた人は、場末の中華レストランにはいかん、と、思う方が大勢いるのだけれど、真師匠、場末の焼きソバの美味しいところとか、安くて美味しいワインとか、まあー、実に詳しい。本当に美味しいものも、もちろん、ご存知なのだけれど、マイナー系の美味も実に詳しいところが、やはり、ジャズメン。真師匠とコンサート前の中華レストランで、いつも飲むのは「コート・デュ・ローヌ」である。

うん、やはり、「食事に合うワイン」、これが、ベスト。おでんにシャトーマルゴーはいらん。ワンカップ大関だよって。でも、極上のラムステーキなんかには、シャトーマルゴーじゃなくてもいいのだけれど、マルゴー村で作られる二級酒辺りは、いい感じだな。「失樂園」に出てくるやつとは違うのでご購入の際は、注意のこと。シャトーマルゴーとマルゴー村で作られるワインは、どっちも「マルゴー」って書いてあるので。ノマネ・コンチキなんちゅうワイン、ありそうなのだ。

2014.10.30 Thu

まあ一、ワインはねえ一、うんちくで飲むものではない。当然なんだけれど、食事に合っているとか、自分の好みだの予算だのに合っているとか、俺は酔えればなんでもいいとか、それぞれで決めるわけだね。たとえば、ガロンヌ川によってピレネー山脈から運ばれてきた水はけのよい砂礫層で栽培されたカルベネ・ソーヴィニヨン75パーセントとメルロ20パーセントとプティ・ベルト&フラン5パーセントの配合によるポイヤック村で生産されたものしか飲まないとか、ジロンド川右岸の沖積層系の土壌を持つブールで作られるものがよいとか、第一である、どこからガロンヌ川がジロンド川という名前になるのか、そうなのだ、このブール村からなのだなどということを知らずにワインを飲んでもなんら差し障りはないのである。しかし、世界遺産サン・テミリオン村のワインが一番美味しいという意見もある。それは、砂と粘土の土壌によるメルロが中心になっているから、むしろ、ブルゴーニュに近いのであるが、しかし、畑の位置傾斜により微妙に味が違うのであるなどということは、私は存じないが構いはしない。私が愛して止まないフロンサックを忘れてはならない。起伏に富んだ複雑な地勢で石灰質と軟質砂岩の傾斜地で栽培されるメルロ80パーセント。しかも、安価なのだ。この高品質安価。つまり、私のピアノ演奏そのものではないか。ところで、マミはなににする？ 「うーん、あたしは赤玉ポートワイン」

下田君は？ 「山梨ワイン。裕センセは？」僕はね・・・「南部ローヌは、夏は暑い、冬はミストラルによって雲のない地中海性気候の下、広大な畑が広がっていて、素朴で安価なワインの大量供給地であると共に、アヴィニオン周辺には個性的ワインの生産地も点在する。このACは、ローヌ河岸に沿って南北に200kmほど続くコート・デュ・ローヌ地域総てに適用される地方名のACである。指定地区であれば、何処でもこのACワインを出せるから、北部でもそれぞれの村名ACの規定に達しないものはこのACで出荷されている。しかし、市場に出るこのACワインは、殆どがローヌ河下流域の南部（123ヶ村）のもので、80%を占める。最大生産量は、1ha当たり51hl。赤・ロゼ・白を産するが、ロゼと赤が殆どで、全体の97%を占める。＜赤＞は、全般的に、若飲みタイプで、果実香があり、まるやかで飲み易い。＜ロゼ＞は、フルーティでボリューム感もあり爽やか。＜白＞は、爽やかでしっかりしている辛口。生産量赤：1,612,826hl、ロゼ：50,153hl、白：52,793hl（39,648ha）主品種＜赤・ロゼ＞グルナシュ（40%以上）、シラー、ムルヴェードル、サンソー、カリニャン等14種。＜白＞グルナシュ・ブラン、クレレット、マルサンヌ、ルーサンヌ(この「」内はWineBookフランスワイン事典より)」、つまり、コート・デュ・ローヌの赤にする。安いからねえ一。結局、酔えればいいのだった。

2014.10.31 Fri

AIR JAPON庶民席で盛り上がる阿部寛そっくりの裕イサオ。裕イサオのコンサートをパリで聴いたらしい女子大生ご一行と一緒に。裕イサオ、お得意のお座敷芸の数々。つまり、昔のタモリネタ。+独自開発物。ガメラ、ミラーマン、マグマ大使の顔真似とか、自分の物真似とか、十八番である松田優作の物真似、刑事コロンボ、バルタン星人・・・、延々と続くのであるが、如何せん世代ギャップ諸だしなのである。女子大生ご一行、真似をしている元を皆知らないから、似ているのか似ていないのか、だれも判断が付かない。とはいえ、裕イサオの迫真のある演技力が、そのギャップを十二分に埋めているらしく、皆でげらげら盛り上がっている。ついに、究極の物真似、白物家電物に到達。冷蔵庫、洗濯機、オカマの炊飯器・・・。宴もたけなわ。

あまりに、物真似をし過ぎて、元の顔が分からなくなってしまった裕イサオ。

「ねえねえ、小腹空いたからさあー、俺さあー、奥の味の名店街だよ、なんか買って来るよ」

「AIR JAPON味の名店街」と書かれた暖簾をくぐる。焼き鳥、そば、うどん、ラーメン、大衆食堂、モツ鍋、お好み焼き、たこ焼き、金魚すくい、綿飴屋・・・。

裕イサオ、まずは、焼き鳥屋へ。

「らっしゃいっ！」

「あっ、下田っ！ おっ、奥にいるのは立川っ！」

「あっ、バンマス(バンドマスター)っ！」

「なんでよおー、俺のバンドの連中がここにいるの？」

「嫌ですよおー、無粋な質問」

「えっえっえっ？」

「食えないからですよ。そりゃー、バンマスは、こうして日本へ。うで、ピアノソロで、ばっちり稼いで・・・。サクソソロだの、ドラムソロ、そんな企画はほとんどないですよおー」

「もじもじ、苦勞掛けるねえー、もじもじ、えっと、じゃ、つくねと手羽と・・・、もじもじ・・・、

ぼっ、僕だって、お金はないよおー」

「我々よりはあるでしょって！」

「すみましえーん。あっ、ピアノで良かったっ。えっ、あっ、独り言。下田、立川あー、後だよ、仮面ライダーのお面買ってやるよ、次回のコンサート用に、なっ」

2014.11.01 Sat

フランスとおフランス

なんか、昨日、少しむっとして毒舌記事を書いてしまった。今、削除した。

ちょっと、調べ物をしていたら、私にとっての「おフランス物サイト」が、どばっと出てきて、読んでしまった。心底、腹を立てた。

「おフランス」、つまり、素敵満載の御伽噺。うな、わけない。ディズニーランドではないし……。そりゃー、ご旅行でいらっしゃる方に、そう見えても、まったく構わない。私が腹を立てたのは、在住者が、「それ」を得意気に書いている。つまり、なんで、腹が立ったのかといえば、そう、「その御伽噺の素敵な国に私は住んでいる」、どうだっ、君たちいーーーという調性。馬鹿だ。おフランスに住んでいる、だけだろっての、なに、自慢してんだっての。貧乏臭いって。私は貧乏だけれど、貧乏臭くはないぞって。

犬の糞貧困暴力盗難多国籍多宗教出口のない不景気荒っぽい運転イライラの塊フランス人

セーヌクロワッサンカフェオレ素敵な町並み優しいフランス人

どちらもフランスである。でも、私は心底、このフランスという国に敬意を表している、からこそ、「おフランス」、勘弁してくれ。

2014.11.02 Sun

裕センセ、フリージャズのタイカ。

ねえ、下田君、タイカってよ、漢字で書けよ。だまされんぞっ。

はい、退化。

ほらぁー、思ったとおり。

で、裕センセ、我社マズマズワインが新規に輸入を始めた一本。ロマネ・コンティ。一口いかがですか？

あっ、俺、そういうの飲まね。

いいんですか、フランス史の一助ですよぉー。ポンパドゥール夫人とコンティ公の壮絶な争い、1760年、ピノ・ノワール、年間生産本数6000本、そういう一流品を知らなくて・・・、しかも、飲んだこともない。

俺は、飲まね、そういうのは・・・。

ブロボン朝、コンティ公、つまり、ルイ・フランソワ一世、ご存知でしたか？ ポンパドゥール夫人って、だれ？ ふっふっふっ、ルイ十五世の愛人、ご存知でしたか？

むむむうー、下田君、くっ、詳しいじゃん。

真の高級品を知らずして、清貧？

えっ、どきどき。

まっ、一杯。

タダなの？

えっ、安藤タダ雄？ うな、馬鹿な。一杯52.800円です。

なんcc？

25です。

ちと、待ちいー、えーとえーとのエイトマンで750割る25、 $=30 \times 52.800 = 1.584.000$ 円、これが一本の値段だよな。うでよ、俺が、いつも飲んでるコート・デュ・ローヌのボックスワインが3.000cc=1.200円、えーと、これをガメラ掛けることのキカイダーしてミラーマンすると、3.000モスラで25=120、1.200をターミネーターすることの120、キングギドラの一休さんだろ、つまり、俺の飲んでるワインは、一杯10円。下田君、出直してきな。うなもん、ノマネ。

馬鹿野郎ってのっ！ ローン組んでまでワイン飲むかってのっ！

社会復帰その一であるライセンス取得のための学校入学が近付いてきた。うーん、二年間、アホのように、ほぼ毎日更新を続けている。その継続に、やや、黄色信号。ピアノの練習、コンサートもやらんといけんしなあー。などどいいながら、なんとなく、週末書き溜め予約投稿をやりそうな予感もしている。そこまでして更新しないといけないのか、自分でも分からない。学校が終了しライセンス申請、受理された瞬間から、私は、またまたハードライフへ戻るから、その時は、毎日更新は赤信号。ブログの継続も赤信号。で、巨人の星的に続くのか、これは、私にも分からない。書くのは好きだし、それ以前に脳内戯言が好きなのである。これを単にタイピングしているだけなので、苦労して書いているの真逆、つまり、愚脳垂れ流しブログ。タイピングはピアノ弾きだし、日本語直打ちだから早い。フランス製のパソコンのキーに、平仮名が貼ってあって、字崩れを起こさないようにセロテープで保護してある。

社会復帰が近付いてくると、不思議不思議、食欲増大で目が爛々。体重も増えだしてきた。社会の荒波、もちろん、身を持って知っているから、心と体が、やや、筋肉質になり始めている。来るならこいつ、俺は、折れねえーと、なんとなく盛り上がってんだろう。

問題は、社会の中で仕事と呼ばれるものの中に、私が、これこれっと思うものがないのだ。社会人以前の学生の頃から五十半ばの現在まで、状況は、まったく変わっていない。イサオ君は、将来、なにになりたいの？ はい、先生、詩人とかジャズピアニストです。イサオ君、そういうのは職業とはいわないのよ。れれれ、どうしてですか？ 社会の役に立たないから、当然、お金にもならない。だから、職業とはいえないわけ、キャピート？ でも、他、思い付かないんですけど、先生。

と、相変わらず、こうなのだ。そうすると消去法。多少、うーーん、これならいいかなあーと消極的なベクトルしかない。うん、庭師とか造園師とか植物関係がいいかしら？ もう、遅いっつなの！ となってしまう。おっおっおっ、社会的でオフィシャルな立ち位置。ひとつありましたっ！ はい、定年退職。これで決まりだけれど……。まだ、早いのであるからして、やはり、再度の復帰となる。問題は、復帰しちゃうと猛烈系だからバリバリやっちゃうわけね。つまらんつまらんといいいながらバリバリ。しまいには、仕事してんだか遊んでんだか境目がなくなるとい倒錯者でもあるから、自分でも困る。でも、ひとつだけ決めたのは、サラリーマンには戻らない。つまり、フリーランス。おっし、バリバリ行くぜってっ！ なんか鈴蘭高校出身なの？ 仕事はよおー、やるからこそにはバリバリの方が楽しい。チンタラの方がしんどいのです。うん、夏休みの絵日記を初日に全部書きちゃうとかね。なんだなんだ？

2014.11.04 Tue

New Trio

我々の新しいトリオのお披露目が終わった。当日は、ベルリンからトランペットのポール・シュヴィンゲンシュローグが参加してくれた。ベースがヨラム・ロシリオからオリビア・セママに代わり、+素敵なゲスト。四人でやるのは初めてだし、我々はリハーサルを一切しないから、当然、一部は、やや、お互いに様子見。とはいえ、皆、様子見分析は素早いから、二部ですでに炸裂。今、その録画ビデオを編集。うーん、とりわけ二部は、かなり、ハードになった。フリージャズフリークでない人には、ちと、しんどい演奏だったかも。我々四人は、へとへとになりながらも快心の笑顔。今度は、ベルリンでやろうぜえーと別れた。

もちろん、ミュージシャンも人の子。お互いの相性がある。うん、今回のメンバーはいい感じだった。オリビアとポールが、なんか、凄く俺に遠慮している気配。やはり、バンドマスターだから、そういう感じにはなるのだけれど、俺ごときの三文ピアニストを立ててくれる。いやあー、淑女に紳士だと改めて感心した。「遠慮はゴム用」といい続けていたら、二部で、二人とも炸裂した。うっししし。大体、真師匠が、まったくもって偉ぶらない人だから、俺ごときがバンドマスター面なんぞでけん。俺は本来的に「かっぱえびせん体質」、つまり、始まったら、もう、止まらない。一人で弾き捲くる。自己顕示モンスターなのである。もぐら叩きみたいに共演しないと、独壇場のナポレオンミュージシャンになってしまうのである。

でね、以前も書いたのだけれど、日頃の練習の成果の十五パーセントぐらいしか実戦には出てこない。そういうものなんだよねえー、実力というのは。でも、まったくもって練習していないテクニック。具体的にセロニアス・モンクの奏法。これが、自分でも不思議なんだけれど、いつのまにか実戦でやっている。いつ習得したの？ なぞなんだよなあー、こういうの。と、とにかく、アホのようにピアノと泣き濡れるしかないのである。

2014.11.05 Wed

「えー、わたくし、機長の設楽モシカと申します。この度は、当機へのご搭乗、誠に持って、ありがたく存じ上げる今日この頃。えー、わたくし、御年、55歳。長男と長女の二児の父でございますから、ご安心下さい。滅多なことでは、ビルに突っ込んだりはいたしません。えー、わたくし、横文字語は苦手でございますので、日本語のみのご挨拶とさせて頂きたく、繰り返し、ご搭乗、切に切に御礼申し上げる次第でございます。えー、当機は、おパリを出発しシベリア経由にて、東京成田へと向かいます。盛り上がった宴、うたげのフライトを、心置きなく、お楽しみ頂けましたら幸甚でございます。後塵を拝するなどとは、たーりりんでございまして、長くなりますので、最後に、松島を熱唱させて頂き、機長の貴重なご挨拶と代えさせて頂き、そののちは、チーフ客室乗務員、富永ちよより、本気の本機のご説明・・・、
あぁ—————あ————、はい————はい、いそのお————、
はい————はい」ブチッ。

「わたくし、チーフ客室乗務員、富永ちよでございます。本機には、かおり、まみ、まーさ、しほり、れなの五名が、わたくしと共に搭乗しております。よろしく願い致します。さて、救難時のご説明は・・・、割愛。と、火事場の馬鹿力ですよねえー。はっはっはっ、失礼致しました。えっ、割愛？ だれが？ おい、作者、あたいは、元ヤンキー、かつてなことすんなって！ 失礼致しました。宴の最中、乱気流へ突入する場合がございます。その節は、速やかに畳の各所でございます、シートベルトをお締め下さい。ちゃぶ台、掘りごたつは、揺れに備えた耐震構造。速やかに、お飲み物に蓋をし、ドリンク・ボックスへと収納下さい。がやがや。おいっ、きい————んのかあ————、おまえらあ————っ！ 失礼致しました。なお、暖簾後、つまり、味の名店街以降は有料となります。搭乗券に含まれますものは、最初の一升瓶、さきいか、きゅうりのキューちゃん。この、最初にお出ししたもの、のみのみのみ、となりますので、ご了解の程、よろしくう————。へっ。でだな、失礼致しました。本機の設備でございますが、一番、奥。銭湯がございます。人呼んでえー、銭湯機っ。その手前、高級クラブ、夜鳥。こちらは、庄屋、および、代官クラスのみのご利用。パチンコ店、お玉。マッサージルーム、リラクシンと続き、味の名店街へと。今宵、一時、わたくしたち、全力にて、酔客のお世話を致しますので、成田まで、ごゆっくりと・・・。なお、客室乗務員は、客室乗務員でございますので、お酌をしる、おOりを触る等の不法行為は厳罰の対象となりますこと、十二分にご理解頂きたく存じます」

2014.11.06 Thu

不本意というのか？

日曜日、カミサンと自転車。帰り道、私の自転車、左ペダルがぐらぐら。先の尖った硬い石を探し、とりあえずネジを締めるも、すぐにぐらぐら。帰宅後、すぐに修理に取り掛かる。

慎重に、いつものように、私は手を怪我したくないから、細心の注意を払ってネジを六角ドライバーで締める。締めている間、なんとなく、ドライバーが滑って手を傷付ける感じが過る。手袋をしようか0.002秒ぐらいの迷い。ずるっ……。痛っ。といってもどこを切ったのか分からない。指先、掌をじいーと見る。どこも切れていない。あー、やばかったっ！ といっても、さっきの痛みはどこなの？ もう一度、じっと見る。あっあっ、左手親指爪の下1.5cmぐらい、結構、深く切れている。すぐに消毒。バンドエイド。でも、左の親指がピアノに触れる部分、つまり、右上は無事だった。

しかしである、日頃からミスの少ないわたくし、その上、手を怪我することに関しては、非常に神経質だから、細心の注意、集中と人並み以上に行っている。のに、この様である。カミサンと娘、なぜか、笑いを堪えながら、「大丈夫？」だって。「細心の注意を払って、これだよ。馬鹿だよなあー、ったく」。二人、ぶっと噴出す。

2014.11.07 Fri

プロの失業者

昨晚、ベルリンのトランペッター、ポールからメール。ビデオのプロの友達が、我々のクリップを作るから、オリジナルビデオをトランスファーしてくれとのこと。セットした。なんと送るまで五時間。ユーチューブで「ドラゴン桜」を見る予定だったけれど、パソコンの移動ができない。テレビのルポを見ることにした。

「失業者一」このフランス人、バンコックに住んでいる。仕事をフランスで探しているはずなのに、海外在住。これは、違法行為。しかも、バンコックで衣料品店を経営している。失業保険をもらっているのに、である。これも、違法行為。二重取り。かなりの失業保険を四年間もらい、現在は、長期失業ということで、以前の半額を受け取っている。これ、明らかにプロの失業者である。

「失業者二」フランスよりの失業保険。かなりの額。本国に帰国し、起業している。かなりの収入。+大学教授までしている。収入が計三つと優雅な生活。フランスに滞在していた外国人のケース。これもプロだ。

「失業者三」七年間失業保険をもらっている。なんと七年間に就職活動である企業面接は、たったの二回。これも、どうもプロ臭い。

フランスは、社会保障のための税金は、物凄く高い。私も、長期に渡り支払っている。高額だから、いざという時の保障は、当然にして手厚い。この隙間に蔓延る失業のプロたち。あの手、この手で諸々の手当てを受ける。ぶらぶらしている人、別に、すでに就労している人……。うーん、なんかなあー、こういう要領がいいというのかも知れないけれど、泡銭はいかんとと思う。お金、労働の意味がこれではなくなるし、それでよしとしている、その心のベクトルに寒気を感じる。

一と二のケースは、物価が三分の一ぐらいの国でフランスからの失業保険をもらっているから、その額の意味は全然違う。二重取りの更なる二重取り。失業者のルポの後、架空の会社を作っては潰し、高額な社会保障を受けているプロ、税金逃れのために海外に隠し口座を持っている億万長者……。

楽しんでお金を稼ぎたい。ふむ、それは人情なのかも知れないけれど、この「正直者が馬鹿を見る」というパターン。理不尽だよなあー。唯一、生命維持の危機的状況下での正直者は、ちょっと、生物学的馬鹿かも知れないけれど、高々、我々が作ったお金という紙切れ、正直者で構わん。と、やっぱ、お金がないと執着心もないわけだねえー。どっちが先なのかしら？ 今時、ジャズメンなんぞやっていること自体が、馬鹿正直なのかも知れない。リャ！

2014.11.08 Sat

今日は、11月4日なのだけれども、8日まで予約投稿をセットしてしまった。いつの間にか、なんか記事が溜まっていた。

ところで、先日、共演したベルリンのトランペッター、ポール・シュヴィンゲンシュローグルが、我々のユニットを大変に気に入ってくれて、いやぁー、偏見といえば偏見なのだけれど、たとえば、フランス人のミュージシャンが・・・

「イサオ、ちゃんとしたビデオクリップ作ろうよ。ベルリンのジャズフェスティバルに出演しようよ。パリで、また、一緒にやろうよ」と、私に言ったとする。「うんうん、そうだねえー、その内ねえー、機会があればねえー」という会話になり、翌日、もう、だれも話の内容を覚えていない。これが日常茶飯事なのである。

いやぁー、偏見といえば、本当に偏見なのだろうけれど、ドイツ人のポールは、まったく違った。ビデオクリップの作製開始、ジャズフェスティバルへの打診開始、パリで、すでに新規に二回のコンサートを設定。このスピードと有言実行にはびっくりした。フランス流にどっぷりの裕センセには、ありゃ————、なのである。コンサートのインターバルと打ち上げで、結構、酔っ払って話をしていたのに、もう、翌日から実行開始。このドイツ人の真面目実直勤勉振りには、心底、感心した。ポールにお辞儀です。

メルシー僕のダンケッセンっ！

と、私自身のフランス化という現実が、これで如実に現れちゃったっ！

フランス語会話に頻繁に出てくる「うん、様子見てねえー、その内ねえー」と、結局、酒飲んで騒いで、なんの結果もないという実態。いやぁー、偏見偏見偏見？ ドイツ人には、当て嵌まらなかった？

あれ？ 違う違う。今回の記事は、うーん、毎日アホ更新の最後の記事に、たぶん、なるはずだから、長期に渡り、お付き合い頂いている方々へ、謹んで厚く熱く御礼申し上げます。ありがとうございます。とはいえ、ブログは続けるので過去形にはならないのだ。もうひとつ、フランス語会話に頻繁に出てくるフレーズ、「それが、人生さ」「人生なんてよ、うな、もんだろう」。片仮名表記だと「セ・ラ・ヴィ」。この粋なフランス語を皆様方へ、お送り致します。深謝。

2014.11.09 Sun